

### 3 長方形大型建物跡

#### 1号長方形大型建物跡 (第120・121図)

**位置** F-29グリッド内。中央広場の北西部に隣接し、長方形大型建物跡が展開する範囲の中でほぼ中心に位置している。

**重複関係** 本地区では1号・2号・16号の3棟の長方形建物跡に加え、竪穴住居跡2軒(J11号・J17号)・掘立柱建物跡2棟(J1号・J2号)及び土坑等がかなり複雑に重複している。3棟の長方形大型建物跡の先後関係については、溝どうしの切り合い等から1号が2号を切っている(2号→1号)のは確認されたが、16号は不明である。また長方形大型建物跡は、3棟ともJ11号竪穴住居跡を切っていること、さらには掘立柱建物跡に溝部を切られていることなども確認されている。これらのことから少なくとも本地区内では、竪穴住居→長方形大型建物→掘立柱建物という変遷のあったことが考えられる。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸23.1m・短軸9.8mと今回確認された中で最も大規模である。主軸方向はN-35°-Wで、本集落跡を載せる舌状台地の方向とほぼ一致している。

**周囲の状況** 周囲は溝で囲まれている。確認された溝の大きさは、幅40～82cm・深さ15～25cmで、この中間隔は不規則であるが、深さ10～20cm程の小ピットが列状に配されている。なお、この溝は西側中央部で2.3mほど途切れており、出入り口部の可能性も考えられる。また、J11号竪穴住居跡との重複部分では溝の検出が難しく、床面に掘り込められた小ピット列のみを確認している。

**柱穴** 柱穴の配置はP1～P10の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸16.2m・短軸4.1mで、長軸方向の柱間距離(3.3～4.8m)は奥に対して手前がやや長めとなっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径105～130cm・短径75～90cm・深さは48～62cmで、底面はいずれもほぼ平坦である。埋土からは柱を抜いて埋め戻したような様子が多くみられ、さらに柱そのものは長径の片側に寄せて立てられていた痕跡(P3・P4・P9・P10等)が確認できる。

#### 出土遺物

**土器** 図示したのは3点(第154図1～3)である。1は北東周溝内から出土した口縁部辺で、1段Rを2本一組で巻いた捺糸文が施される。2はP5内から出土した頸部辺で、半截竹管によるコンパス文が施される。地文は2段RLの単節斜縄文である。3はP3内から出土した胴部辺で、4本組紐の回転圧痕がみられる。

なお第154図8～11は1・2・16号長方形大型建物跡の確認面から出土したもので、8は1段Rを2本一組で巻いた捺糸文、9は半截竹管による平行沈線文、10は4本一組の棒状工具による波状文、11は半截竹管による連続爪形文が、それぞれ施されている。

**石器** 図示したのは磨石5点(第157図3～6・9)で、いずれも1・2・16号長方形大型建物跡の確認面からの出土である。

#### 2号長方形大型建物跡 (第120・121図)

**位置・重複関係** 1号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸21.8m・短軸9.95mと1号長方形大型建物跡に匹敵する大規模なものである。主軸方向はN-21°-Wで、1号より14°東に振れている。

**周囲の状況** 周囲は溝で囲まれている。確認された溝の大きさは、幅40～80cm・深さ15～22cmで、この間に間隔は不規則であるが、深さ10～30cm程の小ピットが列状に配されている。なお、この溝は西側中央部で1号と同様2mほど途切れており、出入り口部の可能性も考えられる。また、J11号竪穴住居跡との重複部分では、床面に掘り込められた小ピット列のみを確認している。

**柱穴** 柱穴の配置はP11～P20の2列10本（1間×4間）である。柱間規模は長軸14.3m・短軸4.8mで、長軸方向の柱間距離（2.7～4.6m）は奥に対して手前がやや長めとなっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径98～130cm・短径68～95cm・深さは31～50cmで、底面はいずれもほぼ平坦である。埋土は自然埋没とみられ、柱の痕跡等は確認できない。

#### 出土遺物

**土器** 図示しえたのは4点（第154図4～7）である。4は東側周溝内から出土した口縁部片で、口縁直下に沈線と4段の連続刺突文が施される。5はP18内から出土した胴部片で、5本一組の棒状（鋸歯状）工具による連続刺突文・押し引き文・鋸歯文等がみられる。6はP19内から出土した波状口縁部片で、幅広の連続爪形文が施される。7はP20内から出土した頸部片で、半截竹管による平行沈線文がみられる。

### 16号長方形大型建物跡（第120・121図）

**位置・重複関係** 1号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 本建物跡は、2列の柱穴と周囲の小ピット列が一部確認されたものである。全体規模は不明であるが、推定で長軸23.3m・短軸9.0mと考えられ、1号長方形大型建物跡に匹敵する規模である。主軸方向はN-30°-Wで、1号とほぼ同じである。

**周囲の状況** 東側で約7mの区間に小ピット列が確認され、周囲を囲む施設の一部と考えられる。小ピット列の間隔は概ね50～100cm前後で、深さは10～25cmほどである。

**柱穴** 確認された柱穴はP21～P28の8本である。東側列の2本が未確認であるが、本来2列10本（1間×4間）に配されたものと考えられる。柱間規模は長軸16.4m・短軸3.1mで、長軸方向の柱間距離（3.7～4.9m）は中央部がやや長めとなっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径82～118cm・短径62～72cm・深さは22～48cmで、底面はいずれもほぼ平坦である。

#### 出土遺物

**土器** 図示しえたのは1点（第154図25）のみで、P28内から出土した口縁部片である。大型の波状口縁とみられ、半截竹管による連続爪形文が施される。

**石器** 図示しえたのは、P21内から出土した石匙1点（第157図2）である。

### 3号長方形大型建物跡（第122図）

**位置** D-28～29グリッド内。中央広場の北方で、北東急斜面部までは20m程の距離にある。

**重複関係** 本建物跡は、4号長方形大型建物跡・10号方形建物跡・J3号掘立柱建物跡等と重複関係にある。このうち小ピット列どうしの重複で、本建物跡が4号長方形大型建物跡を切っていることを確認している。

**規模・形状** 平面形は非常に整った隅丸長方形で、大きさは長軸19.2m・短軸6.95m。主軸方向はN-20°-Wである。

**周囲の状況** 周囲には小ピット列が巡るが、北西コーナー付近では一部溝(幅35～70cm・深さ15cm前後)を伴う形で確認されている。小ピット列は、間隔が50cm前後から1mを超えるものまで粗密があり、深さも15cm前後の浅いものから50cm近いものまでとまちまちで規則性はみられない。

**柱穴** 柱穴の配置はP1～P10の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸13.5m・短軸3.0mで、長軸方向の柱間距離は一番手前がやや短い(2.8m前後)が、他はほぼ等間隔(3.5m前後)である。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径67～78cm・短径49～60cm・深さは28～67cmで、底面はいずれもほぼ平坦である。なお埋土からは柱を抜いて埋め戻したような様子(P1・P8・P9等)が窺える。

#### 出土遺物

**土器** 図示したのは2点(第154図12・13)である。12はP7内から出土した口縁部片で、3本一組の棒状工具で連続刺突文・波状文が施される。13はP5内から出土した胴部片で、2段LRの単節斜縄文を地文としている。

#### 4号長方形大型建物跡(第123図)

**位置** D-29グリッド内。中央広場の北方で、長方形大型建物跡としては最も北東急斜面部寄りに位置する。

**重複関係** 本建物跡は3号長方形大型建物跡及び39号竪穴住居跡(奈良時代)に切られている。なお本建物跡は、柱穴の状況からほぼ同位置で建て替えが行われたと思われる。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸18.8m(推定)・短軸6.45m。主軸方向はN-24°-Wで、北東斜面部の崖線とほぼ平行している。

**周囲の状況** 周囲には小ピット列が巡り、溝は確認されない。小ピット列は、平均して50cm前後の間隔で配されているようであるが、部分的には連結したり重なり合ったりして蜜になる箇所もみられる。おそらく建て替えに伴うものと思われる。なおピットの深さは10cm前後の浅いものから40cm近い深いものまで様々であり、配列に規則性は認められない。

**柱穴** 確認された柱穴はP1～P8の8本であるが、本来2列10本(1間×4間)の配置で、手前2本の柱穴が奈良時代の竪穴住居跡によって失われたものである。柱間規模は長軸13.3m(推定)・短軸2.2mで、長軸方向の柱間距離は奥から2番目が若干短く(3.1m前後)、他はほぼ等間隔(3.4m前後)である。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径58～85cm・短径42～60cm・深さは32～56cmで、底面はいずれもほぼ平坦である。

またP9～P13は建て替え前の柱穴である。これにより長軸の東側列を中心に柱の付け替えが行われ、柱間の短軸方向が柱一本分ほど狭まったことが分かる。なお、同位置で建て替えたと思われる長方形大型建物跡は他にみられず、特別な事情があったものと思われる。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 5号長方形大型建物跡(第124・125図)

**位置** D-29～E-29グリッド内。中央広場の北部で、墓塚群に少し食い込むように位置している。

**重複関係** 本地区では5棟(5～9号)と、最も多くの長方形大型建物跡が重複している。さらにJ14号竪穴住居跡及び奈良時代の44号竪穴住居跡や土坑等も複雑に重なり合っている。5棟の長方形大型建物跡の先後関係については、柱穴どうし或いは柱穴と小ピット列との切り合い等から9号→7号→8号→6号→5号という順序が確認されている。なお、J14号竪穴住居跡は9号あるいは7号長方形大型建物跡と接しているが、先後関係は不明である。

**規模・形状** 平面形は均整のとれた隅丸長方形で、大きさは長軸17.9m・短軸7.0mである。主軸方向はN-28°-Wで、本集落跡を載せる舌状台地の方向と近くなっている。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列で囲まれている。小ピット列はかなり間隔が狭く、北西コーナー付近では連結して溝状(幅20～30cm)になっている。なお小ピットの深さは15～30cm前後である。

**柱穴** 柱穴の配置はP1～P10の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸12.6m・短軸2.95mで、長軸方向の柱間間隔(2.5～4.3m)はばらつきが多く、特に中間柱では短軸方向の並びが不揃いとなっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径75～95cm・短径65～90cm・深さ18～60cmで、底面にさらに直径20～30cmの柱穴が配されているもの(P1・P4・P6・P7)もみられる。これらは埋土の状況から実際の柱の太さを示しているものと思われる。

#### 出土遺物

**土器** 図示しえたのは3点(第154図17～19)で、いずれも5・6号長方形大型建物跡確認面からの出土である。17・19は五領が台式とみられ、半截竹管による平行沈線文・コンパス文・弧線文等が施される。18は半截竹管の平行沈線文が施される無繊維の土器で、踏碓式とみられる。

#### 6号長方形大型建物跡(第124・125図)

**位置・重複関係** 5号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸20.2m・短軸6.8mと、本地区では最も大規模なものである。主軸方向はN-27°-Wで、5号とほぼ同じである。なお切り合い関係から、5号はこの6号の主軸方向を活かしながら北にずらして建てたことになる。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列で囲まれている。この小ピット列は5号のものに比べると間隔がやや粗く、1mを超えるところも間々みられる。また小ピットの深さは15cm～30cm前後である。

**柱穴** 柱穴の配置はP11～P20の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸15.7m・短軸2.6mで、長軸方向の柱間距離は中央の2間が広く(4.2～4.5m)、手前及び奥の間は狭く(3.4～3.6m)となっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径88～108cm・短径65～85cm・深さは19～50cmで、底面に柱痕跡とみられる直径20cm前後の柱穴が配されているもの(P17・P19・P20)もみられる。

#### 出土遺物

**土器** 図示しえたのは3点(第154図14～16)である。14はP11内から出土した胴部片で、摩滅が激しいが反撚の2段LLの縄文と思われる。15は西側周溝内から出土した口縁部片で、連続爪形文と円孔がみられる。16はP13内から出土した胴部片で、縦位2段LRの結節文が施され、五領が台式とみられる。

**石器** 図示しえたのは、P12内から出土した石匙1点(第157図1)のみである。

### 7号長方形大型建物跡 (第124・125図)

**位置・重複関係** 5号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形であるが、長軸の東辺がやや長く台形気味となっている。大きさは長軸18.5m・短軸6.3mで、主軸方向はN-2°-Eである。5・6号と比較すると主軸方向は約30°東に傾いており、より中央広場の中心を向かっているといえる。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列で囲まれている。長さ1m程度の溝状に確認されたものが部分的にみられるが、小ピットが連結したものと考えられる。小ピットの深さは15cm～30cm前後である。

**柱穴** 柱穴の配置はP21～P30の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸13.5m・短軸3.0mで、長軸方向の柱間距離はややばらつきはあるもののほぼ等間隔(3.2～3.6m)である。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径60～70cm・短径50～70cm・深さは28～48cmである。なお、ほぼ円形の柱穴(P27・P28)もみられる。

#### 出土遺物

**土器** 図示したのは3点(第154図20～21)である。20は西周溝内から出土した胴部片で、連続爪形文がみられる。21・22はいずれも南東側周溝から出土した胴部片で、櫛歯状工具による平行沈線文が施される。ともに繊維が含まれず諸磯式と思われる。

### 8号長方形大型建物跡 (第124・125図)

**位置・重複関係** 5号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 本建物跡は2列の柱穴列のみの確認である。溝や小ピット列等、周囲の施設は確認されなかったが、柱穴の形状や配置さらには確認された位置等から長方形大型建物跡とするのが適当と考えたものである。主軸方向はN-7°-Eと、7号とほぼ同じである。切り合い関係から、本建物跡はこの7号の主軸方向を活かしながら南にずらして建てたことになる。

**柱穴** 確認された柱穴はP31～P39の9本であるが、南東隅が奈良時代の竪穴住居跡に切られており、本来は2列10本(1間×4間)であったものとみられる。柱間規模は長軸14.5m・短軸2.6mで、長軸方向の柱間距離(3.0～4.4m)はややばらつきが多い。

柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径60～70cm・短径50～70cm・深さは20～34cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### 9号長方形大型建物跡 (第124・125図)

**位置・重複関係** 5号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸16.9m・短軸6.3mである。主軸方向はN-46°-Wで、中央広場の中心からは少しずれている。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列で囲まれている。長さ1m程度の溝状に確認されたものが部分的にみられるが、小ピットが連結したものと考えられる。小ピットの深さは15cm～30cm前後である。

**柱穴** 柱穴はP40～P48の9本であるが、南西隅が奈良時代の住居跡に切られており、本来は2列10本(1間×4間)であったとみられる。柱間規模は長軸12.8m・短軸2.8mで、長軸方向の柱間距離は手前から2間目(3.8m)が広がっている。

柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径60～85cm・短径54～68cm・深さは21～68cmで、底面に柱痕跡とみられる直径20cm前後の柱穴が配されているもの（P45・P46・P47）もみられる。

#### 出土遺物

土器 図示しえたのは2点（第154図23・24）である。23は西側周溝内から出土した胴部片で、連続爪形文が施される。24はP47内から出土した胴部片で、櫛歯状工具による木の葉文が施されたものとみられ、諸磯式と思われる。

### 10号長方形大型建物跡（第126・127図）

位置 G-28～29グリッド内。中央広場の北西で、奥部は台地南西の緩斜面にさしかかっている。

重複関係 本地区では3棟の長方形大型建物跡（10～12号）に加え、2軒の竪穴住居跡（J16号・J17号）及び3棟の方形建物跡（1号・2号・5号）が複雑に重複している。柱穴や溝等の切り合い関係から、J17号竪穴住居跡→J16号竪穴住居跡→11号長方形大型建物跡→10号長方形大型建物跡→12号長方形大型建物跡→1・2・5号方形建物跡という先後関係が確認できる。

規模・形状 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸15.2m・短軸6.4mと、長方形大型建物としては小規模なものである。主軸方向はN-67°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

周囲の状況 周囲は小ピット列で囲まれている。小ピットの間隔は場所により粗密があるが、ほぼ全周しており、特に奥部やコーナー付近では連結して溝状になる部分もみられる。なお小ピットの深さは15～30cm前後である。

柱穴 柱穴の配置はP1～P10の2列10本（1間×4間）である。柱間規模は長軸10.4m・短軸2.8mで、長軸方向の柱間間隔2.5～2.7mで、ほぼ等間隔である。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径55～80cm・短径46～69cm・深さ24～42cmで、底面はほぼ平坦である。

#### 出土遺物

石器 図示しえたのは、磨石2点（第157図7・8）で、7はP10内から、8は南西コーナー付近周溝内からそれぞれ出土したものである。

### 11号長方形大型建物跡（第126・127図）

位置・重複関係 10号長方形大型建物跡と同じ

規模・形状 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸17.6m・短軸6.4mである。主軸方向はN-56°-Wで、10号より西への振れが少し弱い。

周囲の状況 周囲は小ピット列で囲まれている。小ピットの間隔は場所により粗密があるが、ほぼ全周しており、特に奥部では連結して溝状になる部分もみられる。なお小ピットの深さは15～30cm前後である。

柱穴 柱穴の配置はP11～P20の2列10本（1間×4間）である。柱間規模は長軸12.0m・短軸2.3～2.7mで、長軸方向の柱間距離は2.9～3.2mとほぼ等間隔である。

柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径65～78cm・短径55～63cm・深さは28～50cmで、底面はほぼ平坦である。

## 出土遺物

石器 図示したのは、P1内から出土した磨石1点(第157図10)のみである。

### 12号長方形大型建物跡(第126・127図)

位置・重複関係 10号長方形大型建物跡と同じ

規模・形状 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸15.5m・短軸6.2mである。主軸方向はN-75°-Wで、10号より若干西へ振れ、奥部は南西緩斜面部へさしかかっている。

周囲の状況 周囲は小ピット列で囲まれている。小ピットの間隔は場所により粗密があるが、ほぼ全周している。ただし、手前の方は2号及び5号方形建物跡が重複しているため確認状況は不明瞭となっている。なお小ピットの深さは15～30cm前後である。

柱穴 柱穴の配置はP21～P30の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸10.7m・短軸2.5で、長軸方向の柱間距離は手前の一間が3.2mとやや広く、他はほぼ等間隔(2.4～2.6m)である。

柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径66～88cm・短径60～70cm・深さは31～60cmで底面も平坦であるが、10・11号の柱穴と比較してしっかりとした深さを有している。

出土遺物 出土遺物無しである。

### 13号長方形大型建物跡(第128・129図)

位置 G-30～H-30グリッド内。中央広場の中心から西方に位置し、奥部は台地南西の緩斜面部にさしかかっている。

重複関係 本地区では3棟の長方形大型建物跡(13～15号)に加え、J18号竪穴住居跡・2棟の方形建物跡(8号・7号)及び4棟の掘立柱建物跡(J8～10・J18)等が複雑に重複している。柱穴や溝等の切り合い関係から、竪穴住居が先行しその後長方形大型建物さらに方形建物・掘立柱建物へという大まかな変遷が認められる。なお長方形大型建物跡どうしの切り合い関係では、14号と15号の関係は不明であるが、いずれも13号に切られていることを確認している。

規模・形状 平面形は均整のとれた隅丸長方形で、大きさは長軸16.4m・短軸6.7m。奥部に対して手前が少し広がっているのが特徴である。主軸方向はN-112°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

周囲の状況 周囲は溝と小ピット列で囲まれている。溝は長軸方向の南側で特によく確認されており、幅30～35cm・深さ5～10cm前後である。小ピット列も概ね50cm前後の間隔で全周しており、深さは15～30cm前後である。

柱穴 柱穴の配置はP1～P10の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸12.5m・短軸2.9mで、長軸方向の柱間間隔は手前から1番目(3.3m)と3番目(3.5m)がやや長く、3・4番目(2.7～2.8m)は少し短くなっている。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径58～74cm・短径48～62cm・深さ6～47cmで、底面はほぼ平坦である。

焼土 奥から2番目の柱穴(P2・P7)の中間で径1m程の不整形の焼土が確認されている。ただし層位的には、遺構確認面より10数cmほど高い黒褐色土層中であり、本建物跡に伴うものかどうかは判断が難しいところである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 14号長方形大型建物跡 (第128・129図)

**位置・重複関係** 13号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 平面形は整った隅丸長方形である。大きさは長軸14.4m・短軸5.1mで、全容が確認された長方形大型建物跡の中では最も小規模なものである。主軸方向はN-76°-Wで、13号より西への振れは少ない。

**周囲の状況** 周囲は溝と小ピット列で囲まれている。溝は幅20～30cm・深さ5-15cm程で、北から東側にかけてよく残存している。小ピットは深さ15～30cm前後で、奥部・西辺が傾斜地のため未確認であるが、ほぼ全周していたものとみられる。

**柱穴** 柱穴の配置はP11～P20の2列10本(1間×4間)である。柱間規模は長軸11.0m・短軸2.1で、長軸方向の柱間距離は2.6～2.8mとほぼ等間隔である。柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径50～68cm・短径45～60cm・深さは18～40cmで、底面はほぼ平坦である。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 15号長方形大型建物跡 (第128・129図)

**位置・重複関係** 13号長方形大型建物跡と同じ

**規模・形状** 本建物跡は2列の柱穴列のみの確認である。溝や小ピット列等、周囲の施設は確認されなかったが、柱穴の形状や配置さらには確認された位置等から長方形大型建物跡とするのが妥当と考えたものである。主軸方向はN-76°-Wで、14号長方形大型建物跡とほぼ同じである。先後関係は不明であるが、方位を同じくして建て替えたものとみられる。

**柱穴** 確認された柱穴はP21～P27の7本であるが、本来は2列10本(1間×4間)であったものとみられる。柱間規模は長軸10.9m・短軸2.3mで、長軸方向の柱間距離(2.3～2.9m)はややばらつきが多い。

柱穴の平面形は隅丸方形又は楕円形で、いずれも長径を短軸方向に揃えて配されている。大きさは長径55～60cm・短径50～55cm・深さは20～35cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

## 4 方形建物跡

### 1号方形建物跡 (第130図)

**位置** F-29～G-29グリッド。中央広場の北西部で、1・2・16号長方形大型建物跡群と10・11・12号長方形大型建物跡群の間に位置する。

**重複関係** J16号・J17号竪穴住居跡及び11号長方形大型建物跡等と重複するが、いずれも本建物跡が切つていることを確認している。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形。大きさは長軸8.15m・短軸7.0mで、今回確認された方形建物跡の中では最大である。短軸方向を主軸とすると、主軸方向はN-61°-Wで、中央広場のほぼ中



心に向かっている。

**周囲の状況** 周囲は溝で囲まれている。確認された溝の大きさは、幅40～50cm・深さ15～25cm前後で、この中に間隔は不規則であるが、深さ30～40cm程の小ピットが列状に配されている。

**柱穴** 柱穴はP1～P4の4本で、柱間規模は長軸3.0m・短軸2.5mである。柱穴の平面形はほぼ円形(径40～45cm)で、深さは23～31cmとやや浅く、周囲の溝のピットとあまり変わらない。

#### 出土遺物 (第156・158図)

**土器** 図示しえたのは4点で、1・3・4は南側周溝内、2は確認面からの出土である。1・3は棒状工具による連続刺突文と鋸歯文が施される。2には半截竹管による波状文が、また4には連続爪形文が施される。

**石器** 図示しえたのは磨石1点のみである。

#### 2号方形建物跡 (第131図)

**位置** G-29グリッド内。中央広場の北西で、10・11・12号長方形大型建物跡群と重なる。

**重複関係** J16号竪穴住居跡及び10・11・12号長方形大型建物跡・5号方形建物跡等と重複する。直接の切り合いは少ないが、竪穴住居跡や長方形大型建物跡は本建物跡に先行するものと思われる。

**規模・形状** 北辺部が未確認で推定となるが、平面形は隅丸のほぼ方形で、6.4m四方と思われる。主軸方向はN-62°-Wで、中央広場のほぼ中心に向いている。

**周囲の状況** J16号竪穴住居跡と重複する北辺部は未確認であるが、周囲は小ピット列が巡らされている。小ピットの間隔は50cm前後で、大きさは径20～30cm・深さ10～20cm前後である。

**柱穴** 柱穴はP1～P3の3本を確認したが、J16号竪穴住居跡との重複部分が未確認であるため、本来は4本柱穴であったものと思われる。柱間は推定で長軸3.0m・短軸2.2mの長方形である。柱穴の平面形はほぼ円形(径30～35cm)で、深さは32～40cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 5号方形建物跡 (第131図)

**位置** G-28～29グリッド。中央広場の北西で、10・11・12号長方形大型建物跡群と重なる。

**重複関係** J16号竪穴住居跡及び10・11・12号長方形大型建物跡・4号方形建物跡等と重複する。直接の切り合いは少ないが、竪穴住居跡や長方形大型建物跡は本建物跡に先行するものと思われる。

**規模・形状** 北辺部が未確認のため推定であるが、平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸6.6m・短軸6.2mである。主軸方向はN-75°-Wで、中央広場のほぼ中心に向いている。

**周囲の状況** 北辺は不明確であるが、周囲は小ピット列が巡らされている。小ピットは楕円形気味のものも多く、間隔は50cm前後で、大きさは径20～30cm・深さ10～20cm前後である。

**柱穴** 柱穴はP1・P2の2本しか確認できなかったが、本来は4本柱穴であったものと思われる。柱穴の平面形はほぼ円形(径30～35cm)で、深さは18～26cmである。柱間は3.6mである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 3号方形建物跡 (第132図)

**位置** F-28グリッド内。中央広場の北西で、1号長方形大型建物跡に隣接する。

**重複関係** 本建物跡は、J10号竪穴住居跡と重複している。遺構的な切り合い関係を確認することはできなかったが、周辺部の状況から本建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸6.6m・短軸5.45m。主軸方向はN-3°-Eで、ほぼ南北にとられている。

**周囲の状況** 周囲には小ピット列が巡らされている。小ピット列は西南辺では間隔が50cm～1mと粗いが、北東辺では竈で、長さ50～60cmの短い溝状となる部分も多くみられる。小ピットの大きさは、径20～30cm・深さ15～30cm程である。

**柱穴** 柱穴はP1～P4の4本である。柱間は長短が外周と逆で、長軸2.8m・短軸2.5mである。柱穴の平面形はほぼ円形(径25～30cm)で、深さは12～31cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 4号方形建物跡(第133図)

**位置** G-28グリッド内。中央広場の北西で、最も外側に位置する。

**重複関係** 本建物跡は直接重複する住居・建物跡はないが、J10号竪穴住居跡に隣接している。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさはほぼ6.7m四方である。主軸方向はN-76°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列で、北東及び北西のコーナーのみは溝状(幅30cm前後・深さ5～20cm)に確認されている。小ピット列は間隔50cm～1mと粗めで、大きさは径20～30cm・深さ15～25cm程である。

**柱穴** 柱穴は位置関係からP1～P4の4本とした。柱間は長方形で、長軸3.3m・短軸2.6mである。柱穴の平面形はほぼ円形(径25～35cm)で、深さは10～26cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 6号方形建物跡(第134図)

**位置** G-29グリッド内。中央広場の西方で、10・11・12号長方形大型建物跡群に隣接する。

**重複関係** 本建物跡はJ20号竪穴住居跡と重複する。重複部分が僅かで先後関係の確認はできなかったが、周辺の状況等から本建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸6.85m・短軸6.2mである。短軸を主軸とみると主軸方向はN-78°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列が巡らされている。小ピット列は間隔50cm～1m前後で、場所によって粗密がある。大きさは径20～30cm・深さ15～30cm程である。

**柱穴** P1(深さ26cm)・P2(深さ40cm)・P3(深さ18cm)などが柱穴として考えられるが、位置的に4本柱等の主柱穴として確認できるものはなかった。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### 7号方形建物跡(第135図)

**位置** G-29～30グリッド。中央広場の西方で、13・14・15号長方形大型建物跡群に隣接する。

**重複関係** 本建物跡はJ18号竪穴住居跡、8号方形建物跡、J8号掘立柱建物跡と重複する。重複

部分が僅かで先後関係の確認はできなかったが、周辺の状況等から竪穴住居跡を方形建物跡及び掘立柱建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸5.1m・短軸4.8mである。短軸を主軸とみると主軸方向はN-107°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

**周囲の状況** 周囲は未確認部分も多いが、溝と小ピット列が巡らされている。特にコーナー部分は溝状となり、幅は30～40cm・深さ10～20cm前後である。

**柱穴** P1(深さ30cm)・P2(深さ15cm)が柱穴と考えられ、位置的に未確認の2本と合わせ4本柱であったものと思われる。なおP1・P2の柱間は2.2mである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### 8号方形建物跡(第135図)

**位置** G-30グリッド内。中央広場の西方で、13・14・15号長方形大型建物跡群に隣接する。

**重複関係** 本建物跡はJ18号竪穴住居跡、7号方形建物跡、J8号掘立柱建物跡と重複する。重複部分が僅かで先後関係の確認はできなかったが、周辺の状況等から竪穴住居跡を方形建物跡及び掘立柱建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 平面形は円形に近い隅丸長方形で、大きさは長軸5.7m・短軸5.3mである。主軸方向はN-88°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

**周囲の状況** J18号竪穴住居跡との重複部分は不明確であるが、周囲は溝と小ピット列が巡らされている。溝も小ピットが連結した状況のものが多く、幅は25～30cm・深さ10～20cm前後である。

**柱穴** 位置関係や深さ等から、本建物跡に伴うとみられる柱穴は確認できなかった。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### 9号方形建物跡(第137図)

**位置** E-29～30グリッド。中央広場の北西で、1・2・16号長方形大型建物跡群とJ4～7号掘立柱建物跡群の間に位置する。

**重複関係** 本建物跡はJ12・15号竪穴住居跡、16号長方形大型建物跡及びJ2・5・6号掘立柱建物跡等と重複する。重複部分が僅かで先後関係の確認はできなかったが、周辺の状況等から竪穴住居跡を方形建物跡及び掘立柱建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 断片的な確認であるが、平面形は隅丸長方形で、大きさは長軸6.1m・短軸5.0mである。主軸方向はN-35°-Wで、中央広場のほぼ中心に向けられている。

**周囲の状況** 断片的な確認であるが、周囲は小ピット列が巡らされている。小ピットの大きさは、径20～30cm・深さ15～30cm前後である。

**柱穴** 確認された柱穴はP1～P3の3本であるが、位置関係からみて本来4本柱で、1本は未確認と思われる。柱間は長軸2.7m・短軸2.1mで、大きさは径25～30cm・深さ16～22cmである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### 10・11号方形建物跡(第136図)

**位置** D-28グリッド。中央広場の北方で、3・4号長方形大型建物跡に隣接する。

**重複関係** 本建物跡は3号長方形大型建物跡と重複する。切り合い関係は明確にできなかったが、周辺の状況等から本建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 10号は南辺部のみ確認であるが、一辺4.5mほどの隅丸方形と思われる。南北方向を主軸とみると、主軸方向は $N-30^{\circ}-W$ で、中央広場の方に向けられている。なお、10号は主軸方向が少し変わるが、ほぼ同規模のものと思われる。

**周囲の状況** 周囲は小ピット列が巡らされている。小ピットの大きさは、径20～30cm・深さ10～20cm前後で、一部溝状の部分のみみられる。

**柱穴** 確認されなかった。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

## 5 掘立柱建物跡

### J1号掘立柱建物跡 (第138図)

**位置** F-28グリッド。中央広場の北西部で、1・2・16号長方形大型建物跡群に隣接する。

**重複関係** J17号竪穴住居跡及び1・2号長方形大型建物跡と重複するが、いずれも本建物跡が切っていることを確認している。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸9.45m・短軸3.1m。今回確認された掘立柱建物跡の中では最大である。長軸方向の柱間はほぼ等間隔で、3.1～3.3m。主軸方向は $N-35^{\circ}-W$ で、1号長方形大型建物跡等と同じく中央広場のほぼ中心に向かっていてる。

**柱穴** 柱穴はP1～P8の8本。平面形はほぼ円形で、直径45～60cm・深さ75～92cmとかなりしっかりとしたものである。底面径や土層断面等から推測すると直径25cm前後の柱が使われていたものと思われる。

#### 出土遺物

**土器** 図示しえたのは3点(第155図1～3)である。1はP1内から出土した胴部片で、4本組紐の回転痕文が施される。関山Ⅱ式のものと思われる。2はP8内から出土した胴部片で、結節文がみられる。3はP5内から出土した底部片で、1段Rと1段Lの羽状縄文が施される。

### J2号掘立柱建物跡 (第139図)

**位置** F-29グリッド内。中央広場の北西で、1・2・16号長方形大型建物跡群に隣接する。

**重複関係** J15号竪穴住居跡及び1・2・16号長方形大型建物跡・9号方形建物跡と重複するが、9号方形建物跡以外は本建物跡が切っていることを確認している。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸8.45m・短軸2.3m。長軸方向の柱間はほぼ等間隔で、2.7～3.05m。主軸方向は $N-28^{\circ}-E$ で、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

**柱穴** 柱穴はP1～P8の8本で、P3とP5には付け替えを行った様子が窺える。平面形はほぼ円形で、直径50～60cm・深さ64～96cmと、J1号掘立柱建物跡同様かなりしっかりとしたものである。底面径や土層断面等から推測すると直径25～30cm程の柱が使われていたものと思われる。

## 出土遺物

**土器** 図示したのは4点(第155図4~7)である。1はP3内から出土した胴部片で、4本一組の棒状工具による平行沈線が施される。5・6はP4内から出土した胴部片で、いずれも2段の縄に0段の条を巻いた附加条1種縄文を地文とし連続爪形文が施される。7はP6内から出土した胴部片で、1段Rの縄による網目状捻糸文がみられる。

### J3号掘立柱建物跡(第140図)

**位置** D-28~29グリッド内。中央広場のほぼ真北に位置する。

**重複関係** 3号長方形大型建物跡と重複する。切り合い関係を層位的に確かめることはできなかったが、他地区の状況等から判断して本建物跡が切っているものと思われる。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸8.45m・短軸2.3m。長軸方向の柱間は2.0~3.65mと、ややばらつきがみられる。主軸方向はN-1°-Eで、中央広場のほぼ中心に向かっていている。

**柱穴** 柱穴はP1~P7の7本で、長軸方向P1とP4の間の柱穴は未確認である。平面形はほぼ円形で、直径35~40cm。深さは20~25cmとやや浅めである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### J4号掘立柱建物跡(第141・142図)

**位置** E-29グリッド内。中央広場の北方で、墓塚群に隣接している。また立地的には台地平坦部のほぼ中央に位置し、墓塚群を含めた集落全体を見渡せるような地点にあたる。

**重複関係** 本建物跡及びJ5~7号の4棟の掘立柱建物跡は、形態的・構造的に関連性の高いものであり、同一地点で建て替えを繰り返したものと考えられる。柱穴どうしの切り合い関係からは、本建物跡がJ5~7号それぞれに切られていることが確認されるが、J5~7号間には直接の切り合いが認められていない。なおJ6号は、隣接するJ13号竪穴住居跡を切っている。

**規模・形状** 柱穴配置は楕円形もしくは八角形ともとれるが、ここでは長軸方向に棟持ち柱(P7・P8)を配す2間×2間の亀の甲型と考えたい。大きさは長軸5.95m・短軸5.7m。柱間は長軸方向が2.45~2.6m、短軸方向が2.15~2.25mでそれぞれほぼ等間隔である。主軸方向はN-48°-Eで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

**柱穴** 柱穴はP1~P8の8本。平面形はいずれも不整円形で、直径90~140cmと中央広場の墓塚並の大型である。さらに底面には径50~80cmの浅くて硬化したくぼみがみられ、巨大な柱を据えたものと考えられる。なお確認面からの深さは30~55cm程度と、規模のわりには浅めなものである。

## 出土遺物

**土器** 図示したのは3点(第155図9~11)である。9はP8内から出土した胴部片で、2種類の捻糸文(1段Rを2本一組で巻いたものと1段Lを2本一組で巻いたもの)による羽状縄文が施される。10もP8内から出土した胴部片で、2段LRとRLで羽状構成をとる。繊維が含まれず諸磯式とみられる。11はP6から出土した胴部片で、2段LRとRLの羽状縄文が施される。

**石器** 図示したのは石皿1点(第159図1)で、P1-P2間の小ピットからの出土である。

#### J 5号掘立柱建物跡 (第141・142図)

位置及び重複関係 J 4号掘立柱建物跡に同じ。

規模・形状 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸6.5m・短軸3.4m。長軸方向の柱間は2.05～2.25mでほぼ等間隔である。主軸方向はN-33°-Eで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

柱穴 柱穴はP 9～P 16の8本で、平面形は円形もしくは隅丸方形。大きさは直径55～65cm・深さ44～70cmで、底面に径15cm前後・深さ数cmの小さなくぼみを有するものもみられる。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J 6号掘立柱建物跡 (第141・142図)

位置及び重複関係 J 4号掘立柱建物跡に同じ。

規模・形状 柱穴配置は、長軸方向に棟持ち柱を配す2間×2間の亀の甲型で、大きさは長軸7.15m・短軸3.5m。長軸方向の柱間は2.8～3.25mでほぼ等間隔である。主軸方向はN-57°-Eで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

柱穴 柱穴はP 17～P 24の8本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径45～65cm・深さ28～61cmで、底面からさらに径25～30cm・深さ30～40cmの柱穴を有するものもみられる。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J 7号掘立柱建物跡 (第141・142図)

位置及び重複関係 J 4号掘立柱建物跡に同じ。

規模・形状 柱穴配置は、長軸方向に棟持ち柱を配す2間×2間の亀の甲型で、長軸方向の中央柱がやや外へ張り出している。大きさは長軸8.4m・短軸4.8mで、長軸方向の柱間は3.3～3.6mでほぼ等間隔である。主軸方向はN-57°-Eで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

柱穴 柱穴はP 25～P 32の8本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径40～90cm・深さ11～49cmで、いずれも浅い底面からさらに径20～30cm・深さ5～30cmの柱穴を2段に掘り下げている。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J 8号掘立柱建物跡 (第143図)

位置 G-29～30グリッド内。中央広場の西方で、南西緩斜面寄りに位置する。

重複関係 J18・30号竪穴住居跡及び7・8号方形建物跡と重複するが、周辺の状況等から本建物跡が最も新しいものと考えられる。

規模・形状 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸8.95m・短軸2.3m。長軸方向の柱間は2.7～3.3mとややばらつきがある。主軸方向はN-29°-Wで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

柱穴 柱穴はP 1～P 8の8本で、平面形は隅丸方形もしくは楕円形である。大きさは直径50～60cm・深さ43～66cmで、底面は比較的平らである。P 1～3に柱の付け替えがみられることから、建て替え等があったものとみられる。

出土遺物 出土遺物無しである。

### J 9号掘立柱建物跡 (第144図)

**位置** G-29～30グリッド内。中央広場の西方で、南西緩斜面寄りに位置する。

**重複関係** 15号長方形大型建物跡と重複し、J18・30号竪穴住居跡及びJ 8号掘立柱建物跡等に隣接するが、直接的な切り合い関係はみられない。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸6.3m・短軸2.0m。長軸方向の柱間は両側(1.8～2.0m)に対して中央間(2.0m)がやや広がっている。主軸方向はN-9°-Eで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

**柱穴** 柱穴はP 1～P 8の8本で、平面形は円形もしくは楕円形である。大きさは直径25～40cm(P 7は除く)・深さ20～50cmで、P 8には支えに使用したとみられる川原石が入っていた。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### J 10号掘立柱建物跡 (第145図)

**位置** G-30グリッド内。中央広場の西方で、南西緩斜面寄りに位置する。

**重複関係** J18号竪穴住居跡、13・14号長方形大型建物跡及びJ19号掘立柱建物跡等と重複する。切り合い関係から本建物跡はJ19号掘立柱建物跡より新しく、さらに周辺状況等からいずれも竪穴住居跡・長方形大型建物跡を切っているものと思われる。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸8.15m・短軸2.0m。長軸方向の柱間は2.55～2.85mでほぼ等間隔である。主軸方向はN-25°-Wで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

**柱穴** 柱穴はP 1～P 8の8本で、平面形は楕円形もしくは不整形。大きさは直径45～60cm・深さ25～59cmで、P 2のように二段に掘られたものもみられる。

**出土遺物**

**石器** 図示しえたのは磨石1点(第159図2)である。

### J 19号掘立柱建物跡 (第145図)

**位置** G-30グリッド内。中央広場の西方で、南西緩斜面寄りに位置する。

**重複関係** J18号竪穴住居跡、13・14号長方形大型建物跡及びJ10号掘立柱建物跡等と重複する。切り合い関係から本建物跡はJ10号掘立柱建物跡に切られ、さらに周辺状況等からいずれも竪穴住居跡・長方形大型建物跡を切っているものと思われる。

**規模・形状** 柱穴配置は2列8本(3間×1間)の長方形で、大きさは長軸8.1m・短軸1.85m。長軸方向の柱間は2.55～2.8mでほぼ等間隔である。主軸方向はN-27°-Wで、長軸方向が中央広場の中心に直交した形になっている。

**柱穴** 柱穴はP 9～P 15の7本で、平面形は楕円形もしくは不整形。大きさは直径50～75cm・深さ22～45cmで、径の大きさのわりには浅めである。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

### J 11号掘立柱建物跡 (第146図)

**位置** G-31グリッド内。中央広場の南西方向で、南西緩斜面縁付近に位置する。

**重複関係** 本建物跡は、J8・29号竪穴住居跡及びJ12・13号掘立柱建物跡と重複又は隣接する。掘立柱建物跡どうしの切り合い関係は不明であるが、周辺部の状況等からいずれも竪穴住居跡よりも新しいものと考えられる。

**規模・形状** 柱穴配置は2列6本(2間×1間)の長方形で、大きさは長軸5.0m・短軸2.6m。長軸方向の柱間はほぼ等間隔(2.4～2.55m)で、主軸方向はN-24°-Wである。

**柱穴** 柱穴はP1～P6の6本で、平面形は円形もしくは楕円形。大きさは直径35～52cm・深さ56～95cmで、しっかりとした深さを持っている。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### J12号掘立柱建物跡(第147図)

**位置及び重複関係** J11号掘立柱建物跡に同じ。

**規模・形状** 柱穴配置は1間×1間の4本で、やや台形。大きさは長軸2.3m・短軸2.2m。長軸を主軸とすると、主軸方向はN-87°-Wである。

**柱穴** 柱穴はP1～P4の4本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径38～50cm・深さ17～43cmで、P1・2は二段になっている。

**出土遺物** 出土遺物無しである。

#### J13号掘立柱建物跡(第148図)

**位置及び重複関係** J11号掘立柱建物跡に同じ。

**規模・形状** 柱穴配置は2列6本(2間×1間)の台形気味の長方形で、大きさは長軸3.4m・短軸2.2m。長軸方向の柱間は1.4～1.9mとややばらつきがある。主軸方向はN-71°-Eである。

**柱穴** 柱穴はP1～P6の6本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径40～50cm・深さ28～68cmで、P1・3等は二段になっている。

**出土遺物**

**土器** 図示しえたのは1点(第155図8)で、P4内から出土した口縁部片である。波状口縁で、器形は強く内湾している。4本一組の棒状工具による連続刺突文を主体とし、間に2本一組の棒状工具による鋸歯文を配している。

#### J14号掘立柱建物跡(第149図)

**位置** G-32グリッド内。中央広場の南方で、南西緩斜面縁辺近くに位置する。

**重複関係** 他の住居・建物跡等との重複関係はみられない。

**規模・形状** 柱穴配置は1間×1間の長方形で、大きさは長軸3.0m・短軸2.2m。長軸を主軸とすると、主軸方向はN-84°-Eである。

**柱穴** 柱穴はP1～P4の4本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径65～70cm・深さ40～48cm。P2以外は二段でロート状となっており、径20～25cm程の柱であったことが窺われる。

**出土遺物** 出土遺物無しである。



#### J15号掘立柱建物跡 (第150図)

位置 G-32グリッド内。中央広場の南方で、南西緩斜面縁近くに位置する。

重複関係 北東隅の柱穴が奈良時代の竪穴住居跡に切られている。

規模・形状 柱穴配置は1間×1間の長方形で、大きさは長軸3.65m・短軸3.15m。長軸を主軸とすると、主軸方向はN-84°-Eである。

柱穴 確認された柱穴はP1~P3の3本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径58~66cm・深さ90~99cmとかなり深め。底面径からすると直径25cm前後の柱であったことが窺われる。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J16号掘立柱建物跡 (第151図)

位置 G-32グリッド内。中央広場の南方で、南西緩斜面縁近くに位置する。

重複関係 J26号竪穴住居跡及びJ17号掘立柱建物跡と重複。本建物跡はJ26号竪穴住居跡を切っているが、J17号掘立柱建物跡との先後関係は不明である。

規模・形状 柱穴配置は1間×1間の長方形で、大きさは長軸3.8m・短軸2.3m。長軸を主軸とすると、主軸方向はN-10°-Eである。

柱穴 柱穴はP1~P4の4本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径53~67cm・深さ41~86cm。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J17号掘立柱建物跡 (第152図)

位置及び重複関係 J16号掘立柱建物跡に同じ。

規模・形状 柱穴配置は1間×1間の長方形で、大きさは長軸3.3m・短軸2.8m。長軸を主軸とすると、主軸方向はN-41°-Wである。

柱穴 柱穴はP1~P4の4本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径40~63cm・深さ44~58cm。

出土遺物 出土遺物無しである。

#### J18号掘立柱建物跡 (第153図)

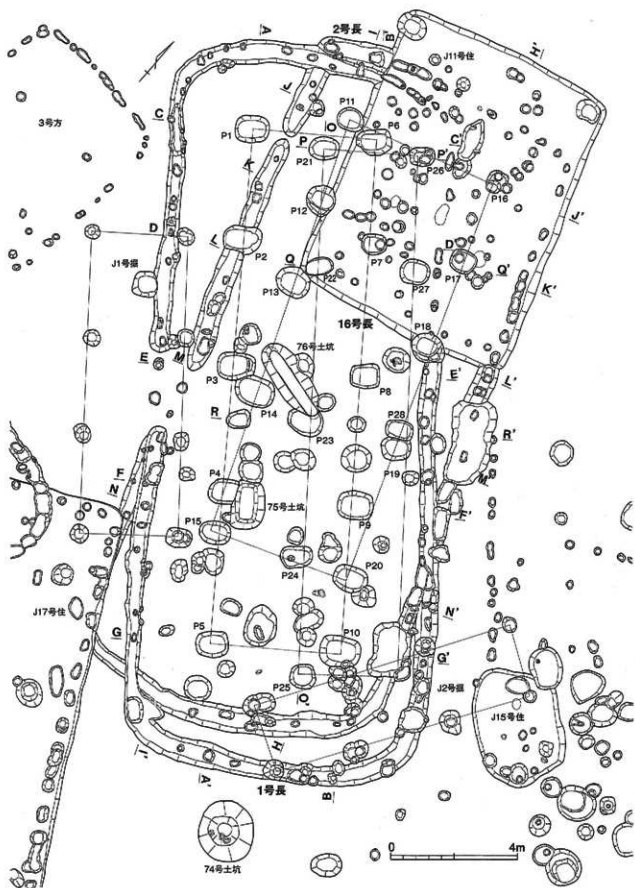
位置 C-29グリッド内。中央広場の北方で、北東急斜面部近くに位置する。

重複関係 他の住居・建物跡等との重複関係はみられない。

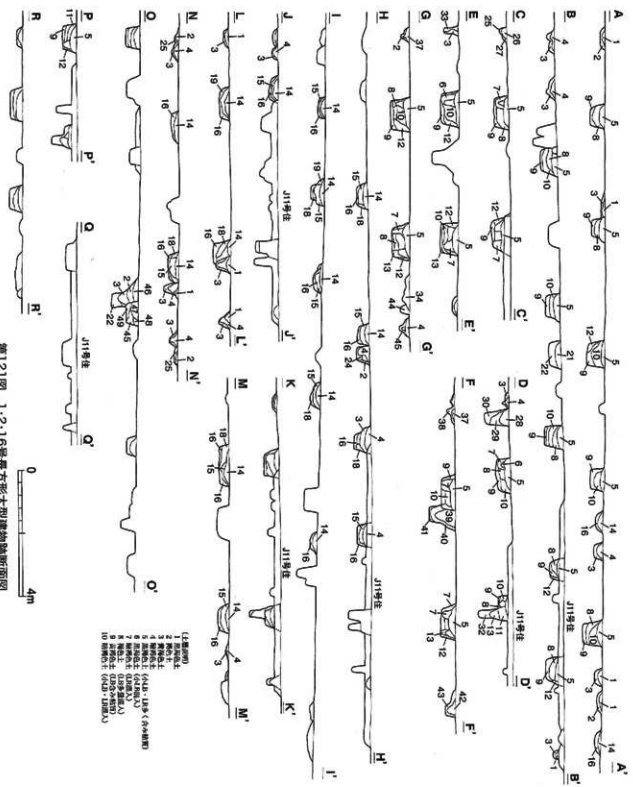
規模・形状 柱穴配置は長軸方向に棟持ち柱を配す2間×2間の亀の甲型で、大きさは長軸4.3m・短軸2.5m。長軸方向の柱間は北側(1.2/1.35m)に対して南側(1.8/1.75m)がやや広い。主軸方向はN-1°-Eで、中央広場の中心に向かう形になっている。

柱穴 柱穴はP1~P8の8本で、平面形はほぼ円形。大きさは直径30~36cm・深さ28~59cm。なお西側柱列は、P9を入れて3間であった可能性も考えられる。

出土遺物 出土遺物無しである。



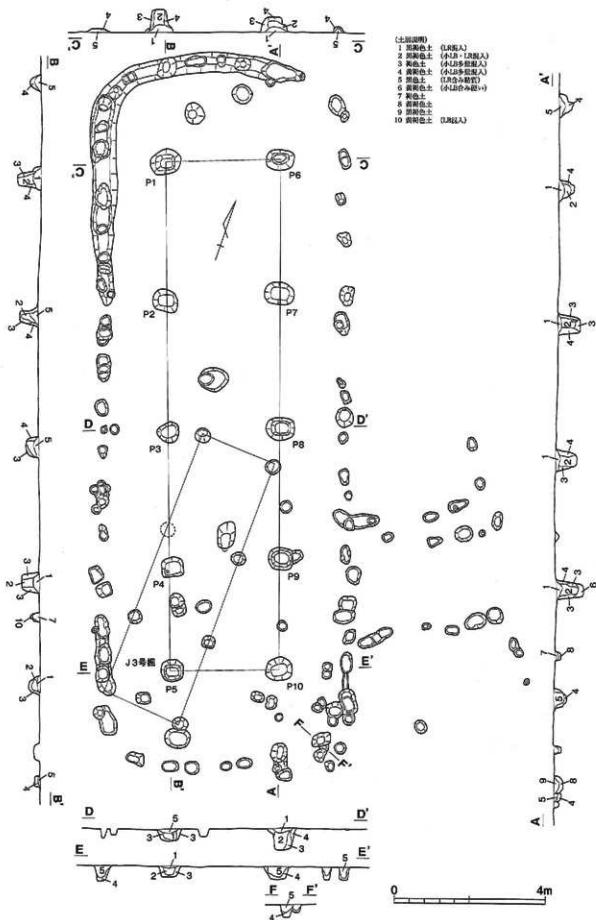
第120图 1·2·16号長方形大型建物跡平面图



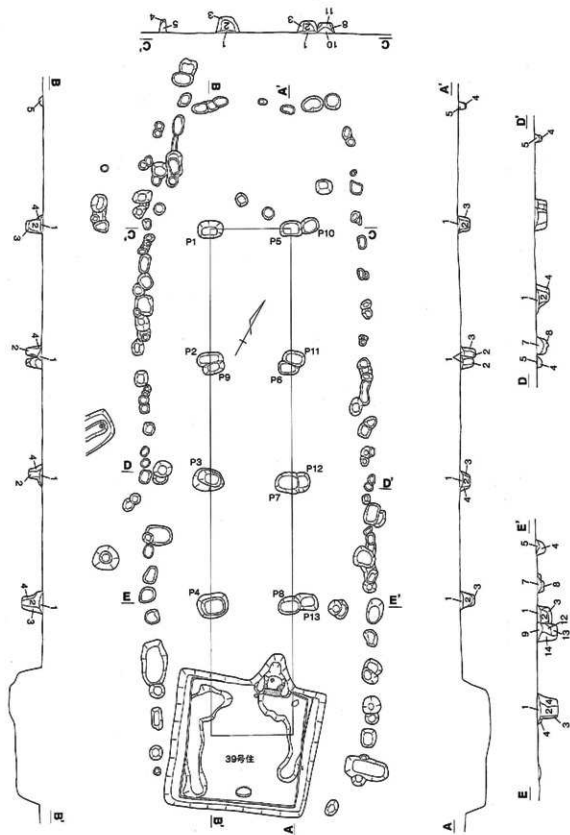
第121圖 1·2·16号長方形大型建築物断面圖

- (注釋說明)
- 1 基礎(土)
  - 2 基礎(土)
  - 3 基礎(土)
  - 4 基礎(土)
  - 5 基礎(土)
  - 6 基礎(土)
  - 7 基礎(土)
  - 8 基礎(土)
  - 9 基礎(土)
  - 10 基礎(土)

- 11 基礎(土) (G12 - 12.5) (中央部)
- 12 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 13 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 14 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 15 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 16 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 17 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 18 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 19 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 20 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 21 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 22 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 23 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 24 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 25 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 26 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 27 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 28 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 29 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 30 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 31 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 32 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 33 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 34 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 35 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 36 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 37 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 38 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 39 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 40 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 41 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 42 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 43 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 44 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 45 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 46 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 47 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 48 基礎(土) (G12 - 12.5)
- 49 基礎(土) (G12 - 12.5)



第122图 3号长方形大型建物跡平面・断面图

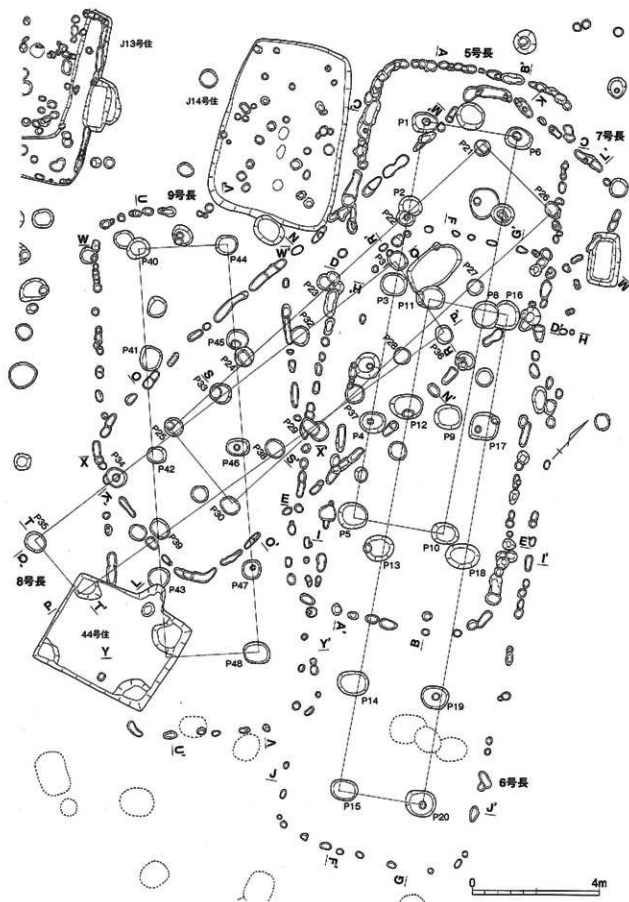


(土質説明)  
 1 赤色土 (灰層入)  
 2 赤色土 (灰を含む層入)  
 3 赤色土 (灰・小石・土少量混入)  
 4 赤褐色土 (灰・小石・土少量混入)  
 5 赤褐色土 (灰少量混入)  
 6 赤色土  
 7 暗褐色土

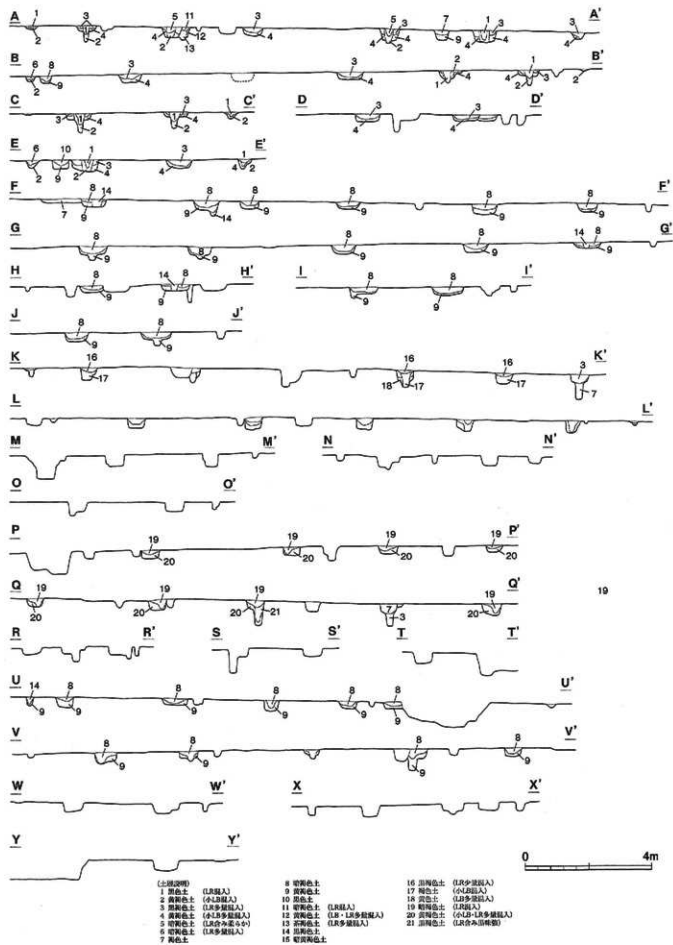
8 赤褐色土  
 9 赤褐色土  
 10 赤色土 (水石多量混入)  
 11 赤褐色土 (灰層入)  
 12 赤褐色土 (水石混入)  
 13 赤色土 (水石・土少量混入)  
 14 赤褐色土 (土少量混入)

0 4m

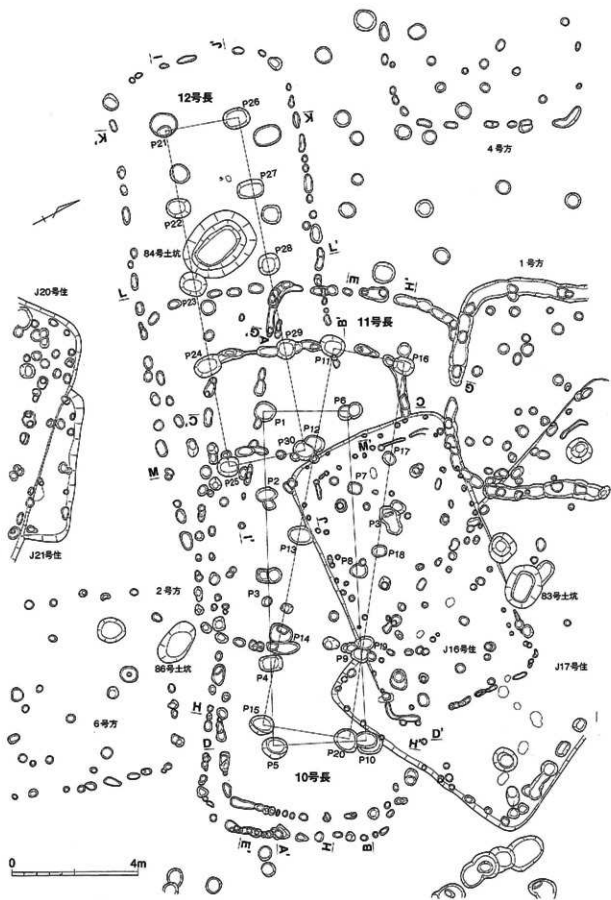
第123図 4号長方形大型建物跡平面・断面図



第124図 5~9号長方形大型建物跡平面図



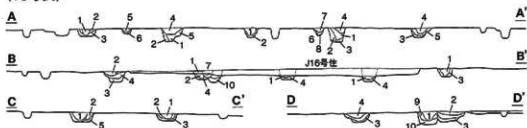
第125图 5~9号长方形大型建物跡断面図



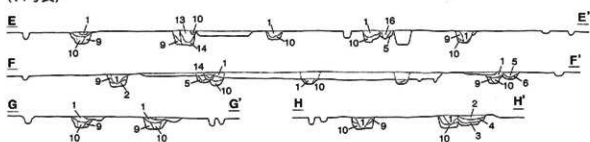
第126图 10~12号长方形大型建物跡平面图



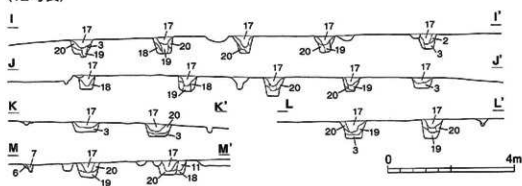
(10号長)



(11号長)



(12号長)

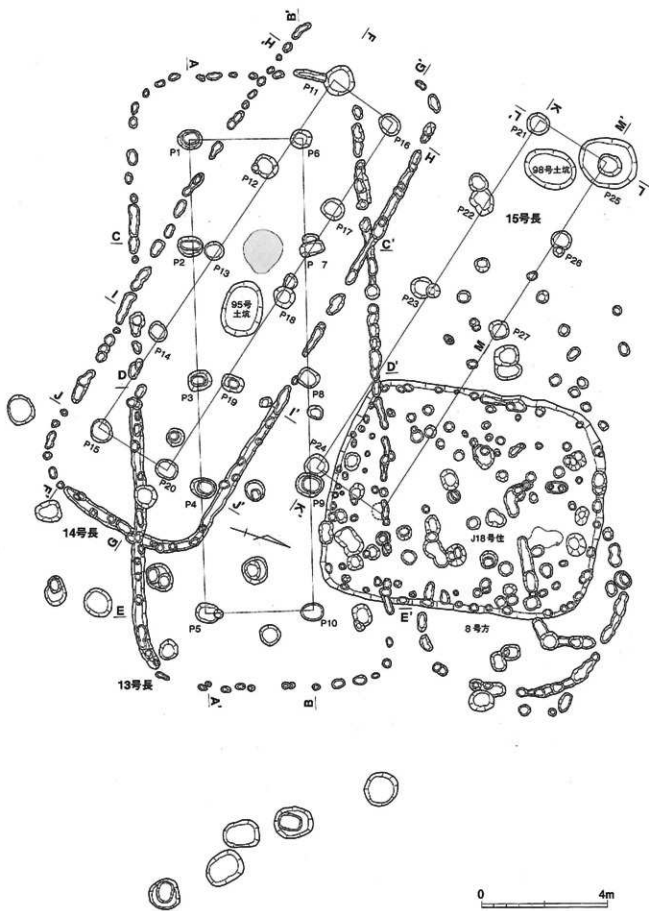


(土質説明)

- 1 黒色土 (L層底土)
- 2 黒褐色土 (小L層底土)
- 3 黒褐色土 (L層多量混入)
- 4 黒褐色土 (L層多量混入)
- 5 褐色土
- 6 赤褐色土
- 7 黒色土
- 8 赤褐色土 (L層多量混入)
- 9 赤褐色土 (L層多量混入)
- 10 黒色土 (L層多量混入)

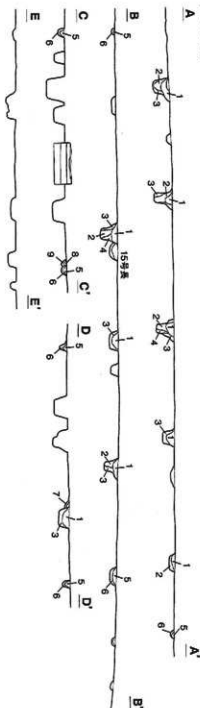
- 11 赤褐色土 (L層底土)
- 12 赤褐色土 (L層・L層多量混入)
- 13 赤褐色土 (小L層多量混入)
- 14 赤褐色土 (L層多量混入)
- 15 赤色土 (赤褐色)
- 16 赤色土 (小L層底土)
- 17 赤色土 (L層少量混入)
- 18 赤褐色土 (L層少量混入)
- 19 赤褐色土 (小L層・L層多量混入)
- 20 赤色土 (小L層・L層多量混入)

第127図 10~12号長方形大型建物跡断面図

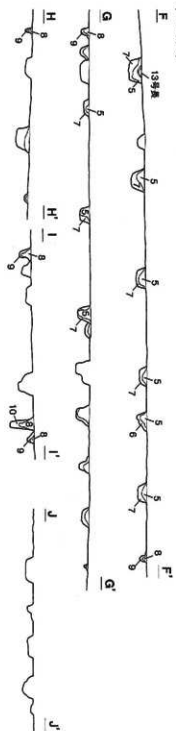


第128图 13~15号长方形大型建物跡平面图

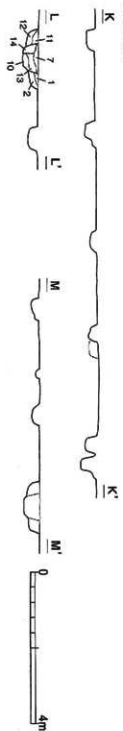
(13号奥)



(14号奥)

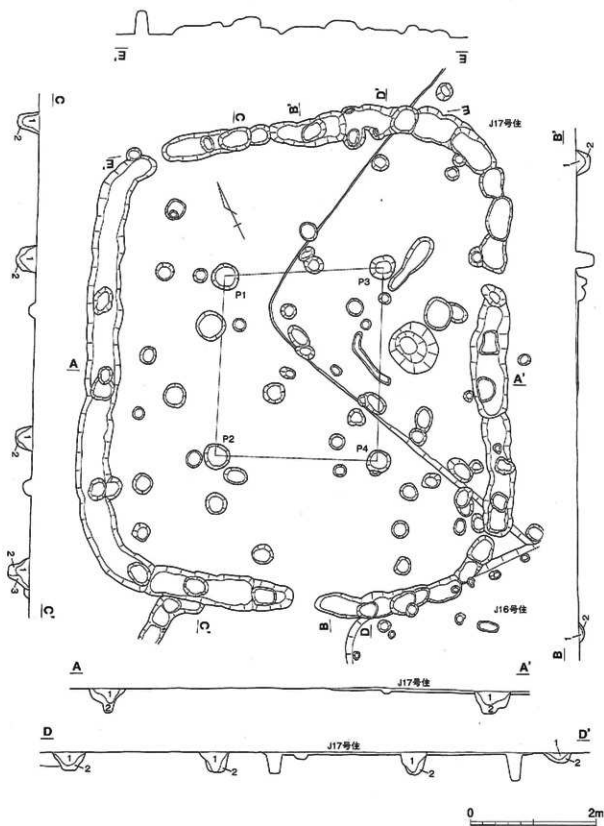


(15号奥)



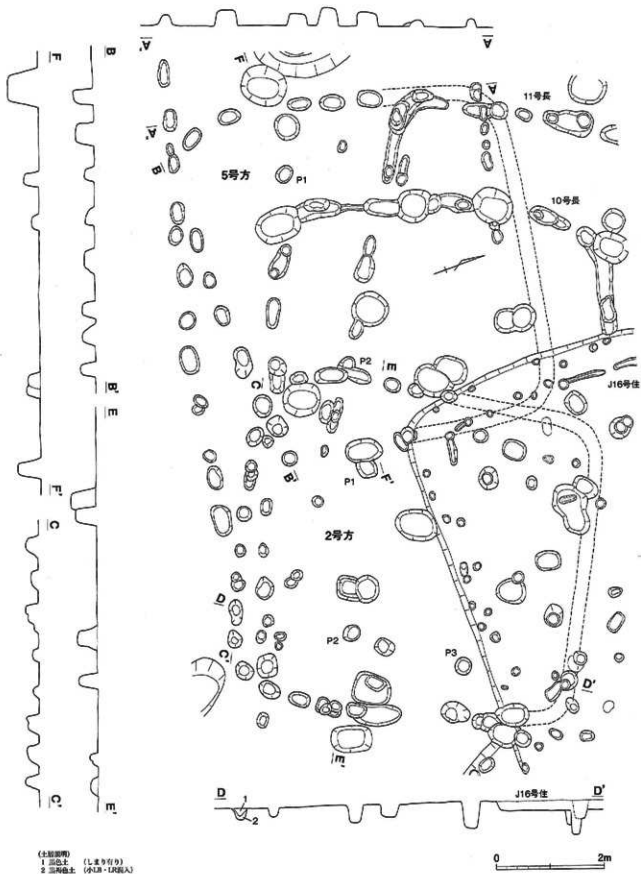
- (注) 1. 1号奥 (1号奥)  
 2. 2号奥 (2号奥)  
 3. 3号奥 (3号奥)  
 4. 4号奥 (4号奥)  
 5. 5号奥 (5号奥)  
 6. 6号奥 (6号奥)  
 7. 7号奥 (7号奥)  
 8. 8号奥 (8号奥)  
 9. 9号奥 (9号奥)  
 10. 10号奥 (10号奥)  
 11. 11号奥 (11号奥)  
 12. 12号奥 (12号奥)  
 13. 13号奥 (13号奥)  
 14. 14号奥 (14号奥)  
 15. 15号奥 (15号奥)

第129图 13~15号奥方形大型建筑物断面图

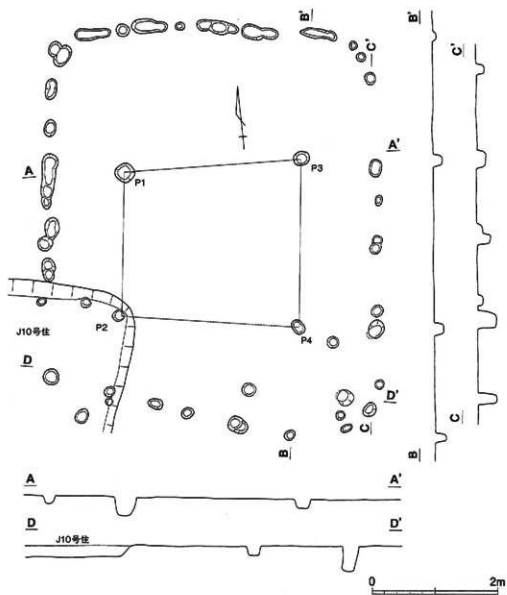


(本図面用)  
 1 褐色土 (R.22土)  
 2 褐色土 (R.4土・R.5土・R.6土)  
 3 黄褐色土 (R.7土)

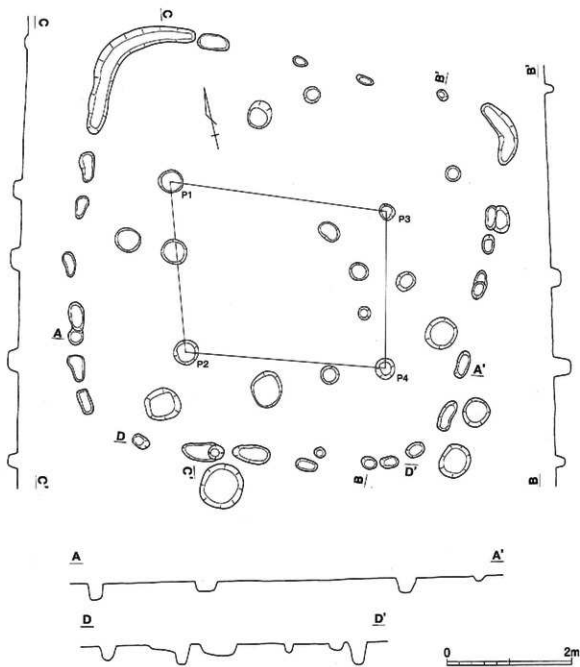
第130图 1号方形建物跡平面・断面图



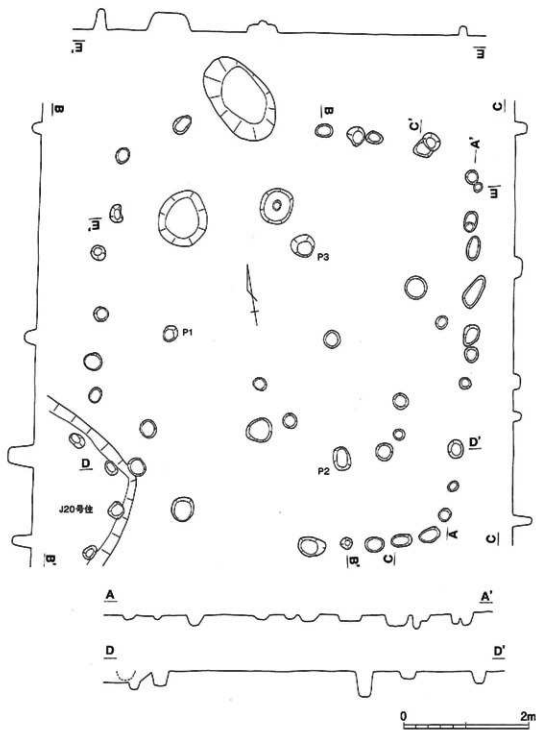
第131图 2.5号方形建物跡平面・断面图



第132图 3号方形建物跡平面・断面図

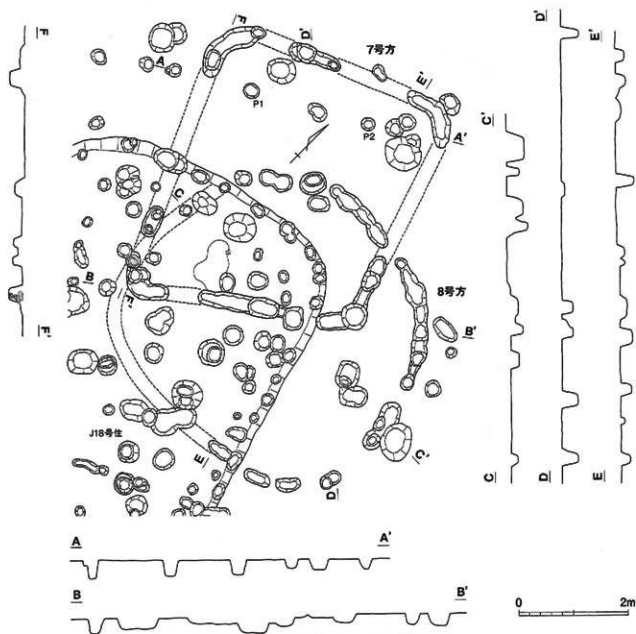


第133图 4号方形建物跡平面・断面图

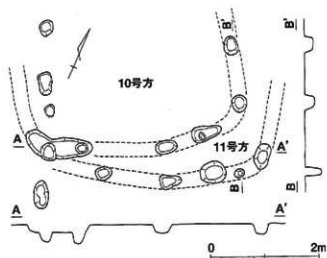


第134图 6号方形建物跡平面・断面图

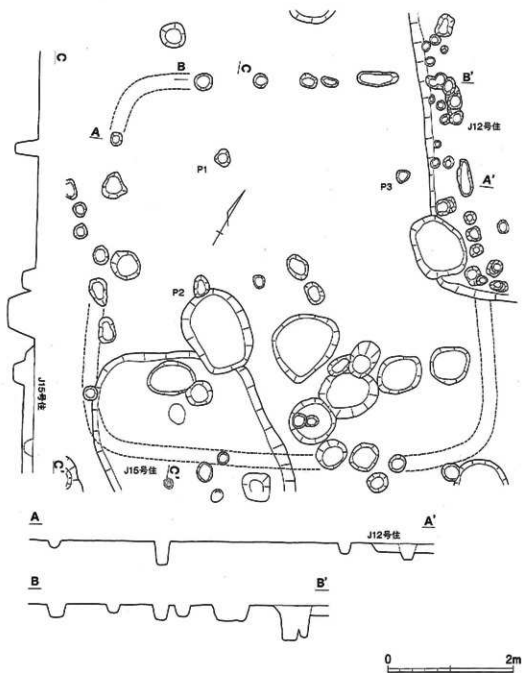




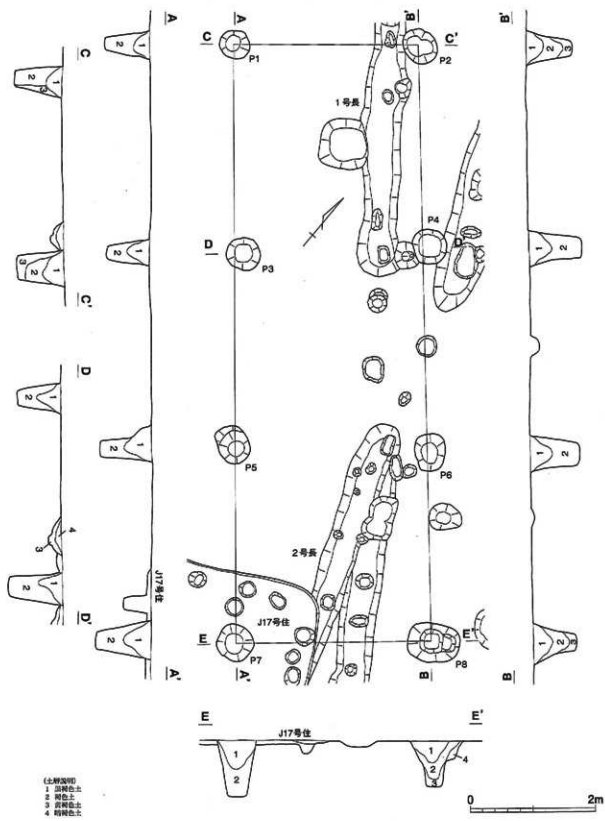
第135图 7·8号方形建物跡平面・断面図



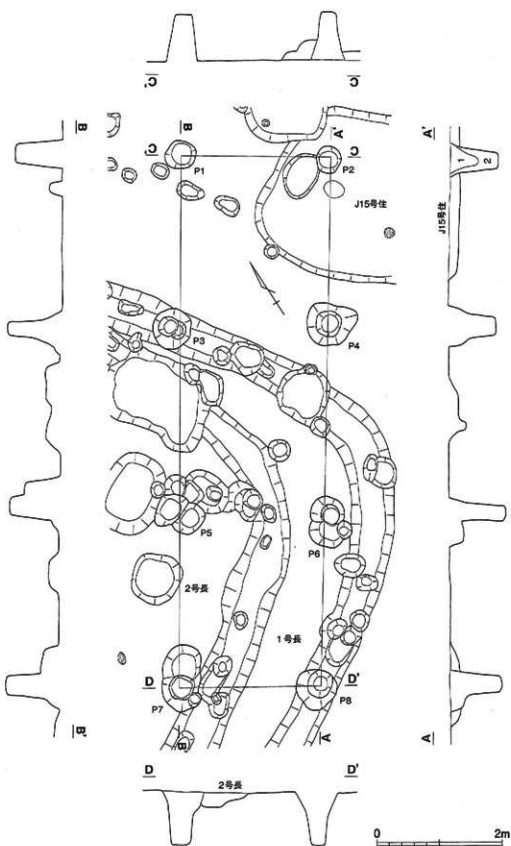
第136图 10·11号方形建物跡平面・断面図



第137图 9号方形建物跡平面・断面図

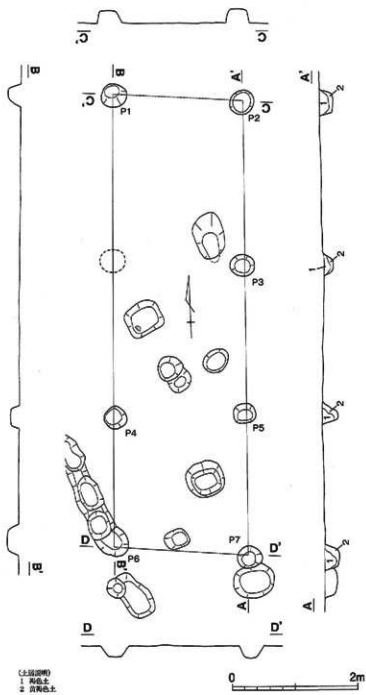


第138图 J1号独立柱建物跡平面・断面图

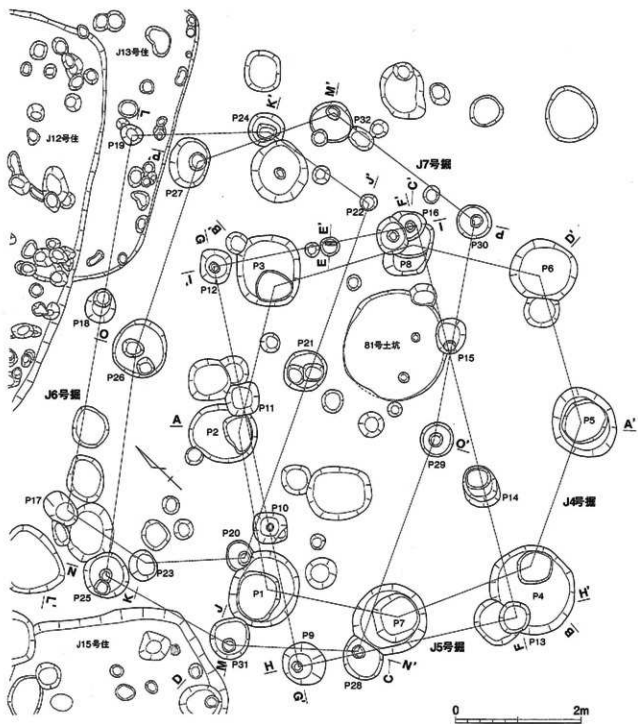


(土質説明)  
 1 赤褐色土 (灰多量混入)  
 2 褐色土 (少量多量混入)

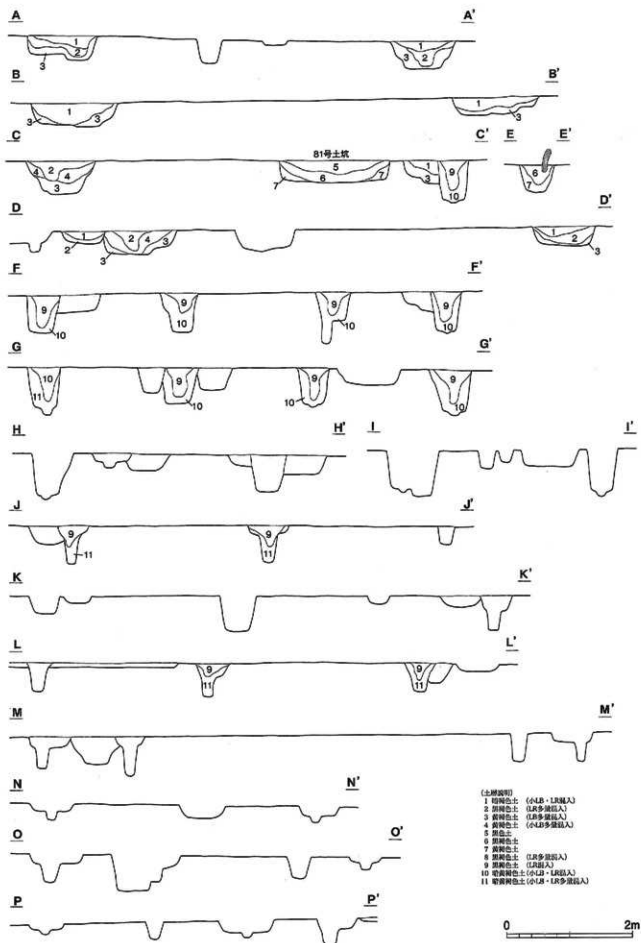
第139図 J2号獨立柱建物跡平面・断面図



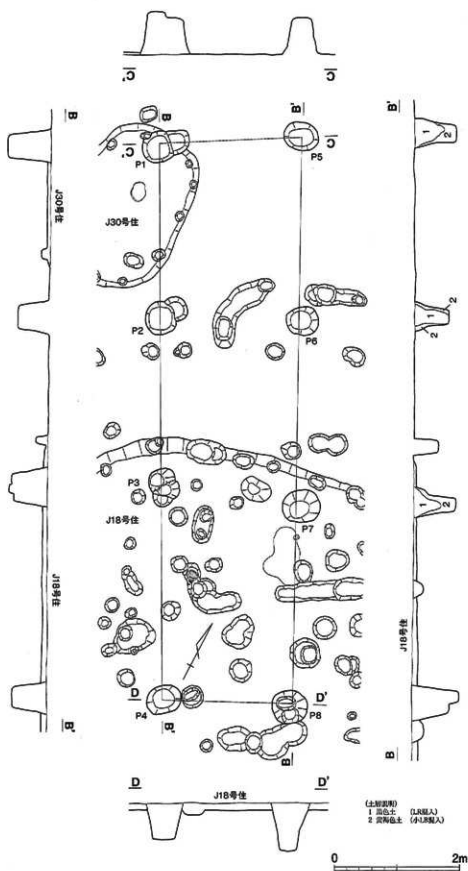
第140図 J3号獨立柱建物跡平面・断面図



第141图 J4~7号掘立柱建物跡平面图

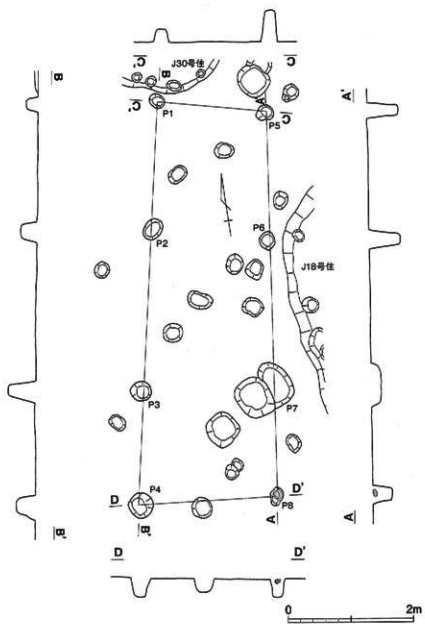


第142图 J4~7号掘立柱建物跡断面图

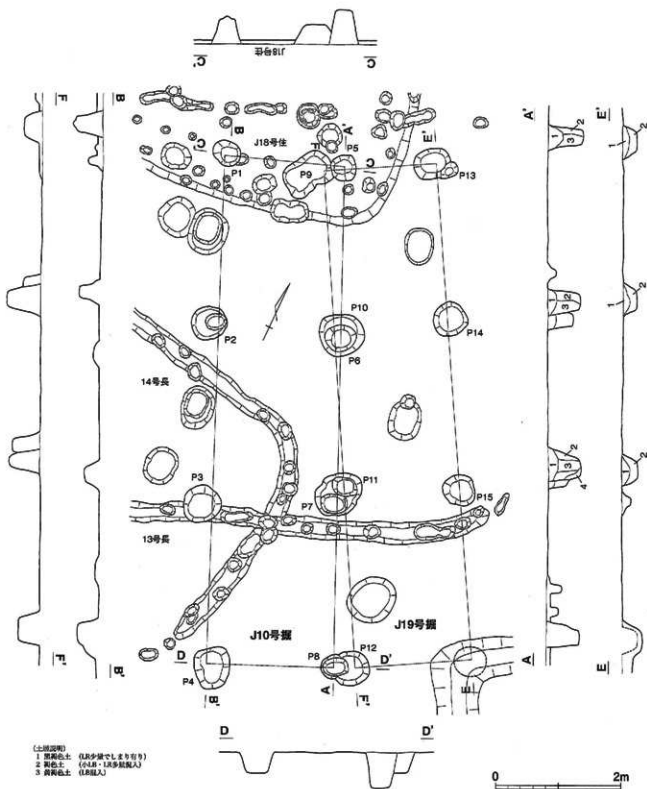


第143图 J8号独立柱建物跡平面・断面图

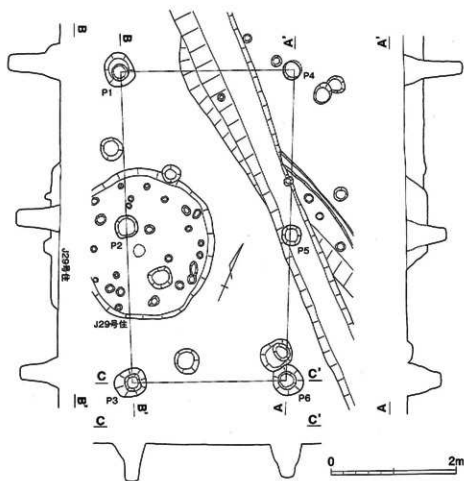




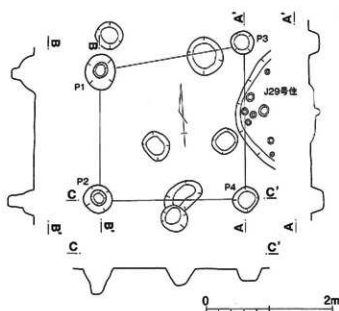
第144図 J9号掘立柱建物跡平面・断面図



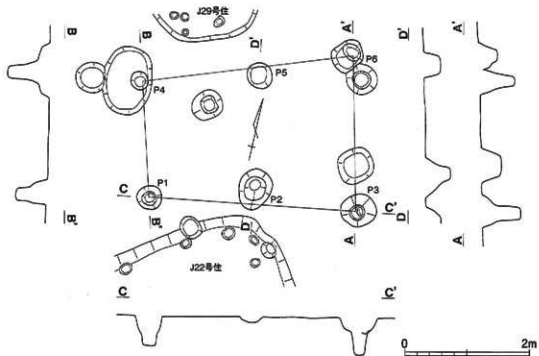
第145図 J10・19号独立柱建物跡平面・断面図



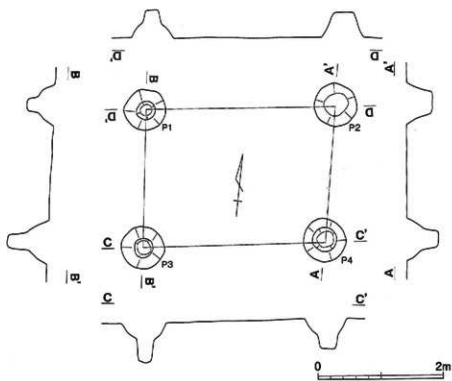
第146图 J11号掘立柱建物跡平面・断面図



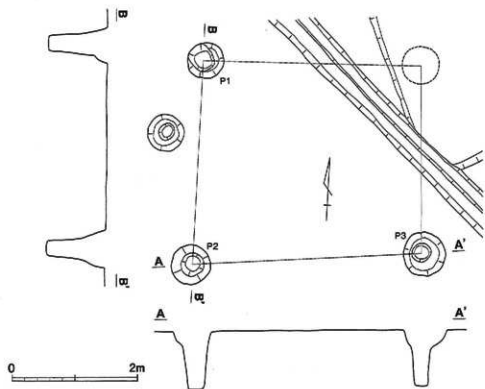
第147图 J12号掘立柱建物跡平面・断面図



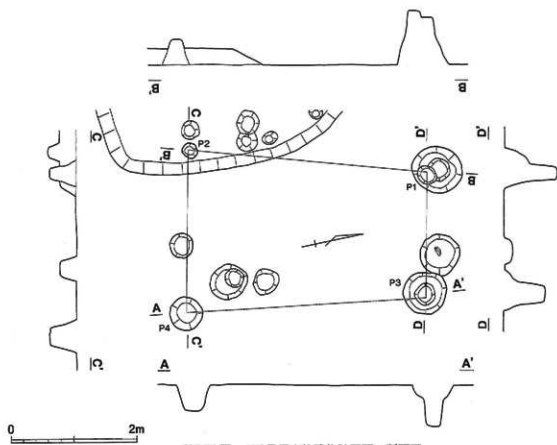
第148图 J13号掘立柱建物跡平面・断面图



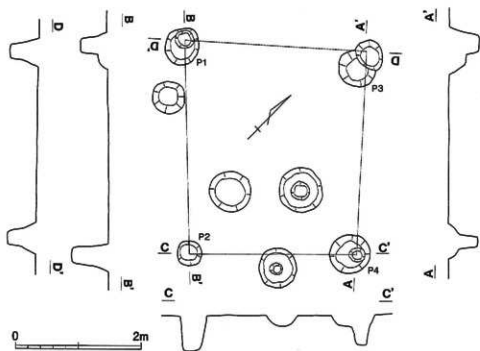
第149图 J14号掘立柱建物跡平面・断面图



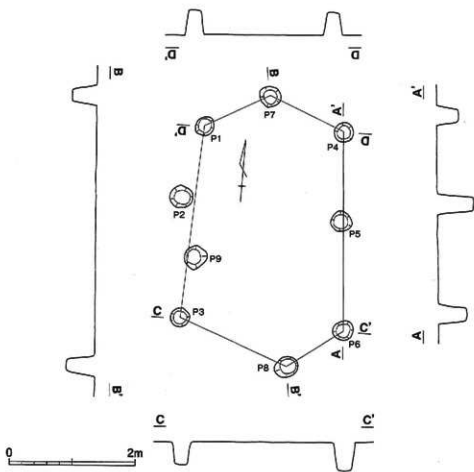
第150图 J15号独立柱建物跡平面・断面図



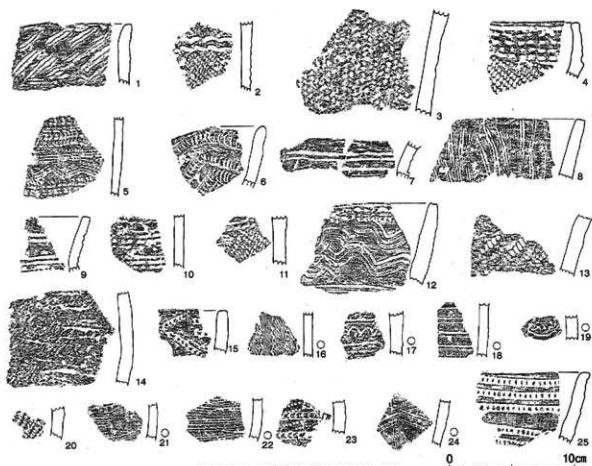
第151图 J16号独立柱建物跡平面・断面図



第152图 J17号掘立柱建物跡平面・断面图

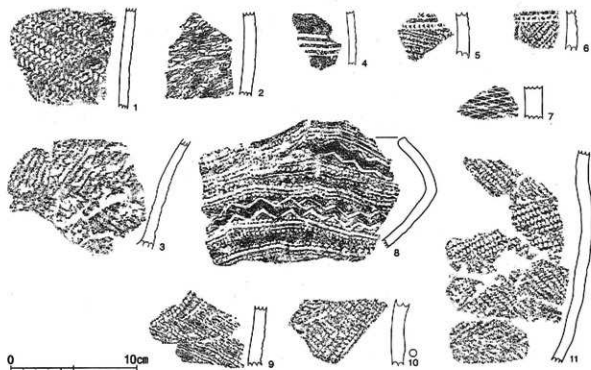


第153图 J18号掘立柱建物跡平面・断面图



第154圖 長方形大型建物跡出土土器

(1~3:1号, 4~7:2号, 8~11:1・2号確認品, 12~13:3号, 14~16:6号)  
 (17~19:5・6号確認品, 20~22:7号, 23~24:9号, 25:16号)

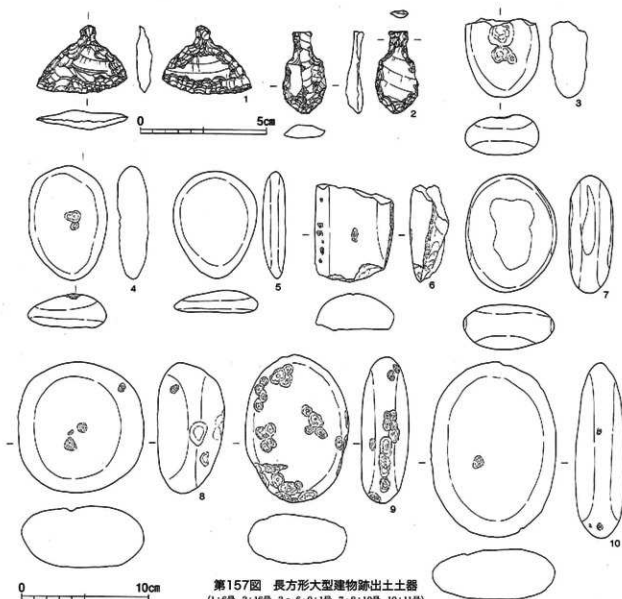


第155圖 掘立柱建物跡出土土器

(1~3:J1号, 4~7:J2号, 8:J1J2号, 9~11:J4号)



第156図 1号方形建物跡出土石器

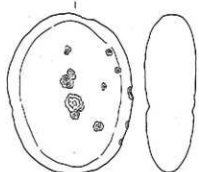
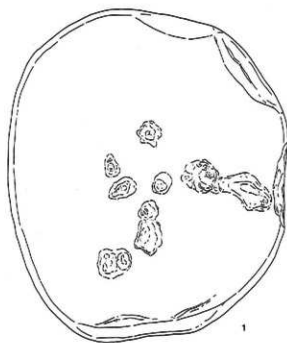
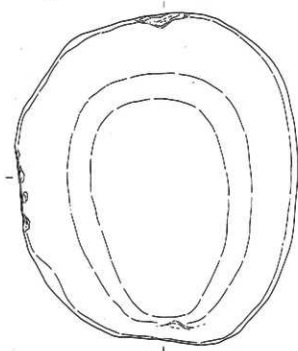


第157図 長方形大型建物跡出土石器  
(1:6号, 2:16号, 3~6:9:10, 7~8:10号, 10:11号)

第30表 長方形大型建物跡出土石器計測表

No	遺構名	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土位置
1	6号長方形大型建物跡	石匙	2.6	3.6	0.6	3.21	流紋岩	P12内
2	16号長方形大型建物跡	石匙	3.2	1.8	0.6	2.47	鉄石英	P21内
3	1・2号長方形大型建物跡	磨石	(6.2)	5.8	3.2	120	安山岩	遺構確認面
4	1・2号長方形大型建物跡	磨石	9.0	6.1	2.6	210	流紋岩	遺構確認面
5	1・2号長方形大型建物跡	磨石	8.4	6.6	1.7	140	安山岩	遺構確認面
6	1・2号長方形大型建物跡	磨石? (7.3)	(6.2)	(3.1)	210	安山岩	遺構確認面	
7	10号長方形大型建物跡	磨石	9.3	7.2	3.5	360	流紋岩	P10内
8	10号長方形大型建物跡	磨石	10.4	9.9	5.3	786	安山岩	南西コーナー溝内
9	1・2号長方形大型建物跡	磨石	11.7	8.2	3.7	450	安山岩	遺構確認面
10	11号長方形大型建物跡	磨石	14.0	10.0	3.8	740	安山岩	P1内





第158図 1号方形建物跡出土石器

第159図 堀立柱建物跡出土石器  
(1:14号, 2:110号)

第31表 1号方形建物跡出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質
1	磨石	(5.7)	8.5	3.1	170	安山岩

第32表 堀立柱建物跡出土石器計測表

No	遺物名	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土位置
1	J4号堀立柱建物跡	石皿	26.3	22.1	4.7	2,970	安山岩	柱列上ビット内
2	J10号堀立柱建物跡	磨石	12.7	9.8	4.3	670	安山岩	P 8 内

## 6 墓坑・土坑

今回の調査では、広場を中心に340基の土坑が確認された。これら土坑のうち、広場北西の一角には装身具や副葬品等を伴う一群がみられ、これらについては明らかに墓と思われることから墓坑として取り扱った。その他の土坑については、主に形状的な特徴から、楕円形・円形・長方形等に分類される。なお、広場内で確認された土坑の内、138基については平面確認のみにとどめ、盛土保存としている。また遺構番号については、聖山公園遺跡内からの継続としたため59号から始まり、さらに後述する落とし穴状土坑も確認段階では土坑と一連の番号を付したものである。

### (1) 墓坑

今回の調査では203基の土坑を発掘したが、このうち装身具や副葬品を出土した墓坑は100号・101号・103号・104号・106号・110号・114号・117号の8基で、これらはすべて広場北西の一角に集中していた。具体的には、J17号竪穴住居跡や10号長方形大型建物跡など多くの住居・建物跡が密集する地点のすぐ近くで、直径6mほどの範囲にサークルを描くような形状に配置されていた。

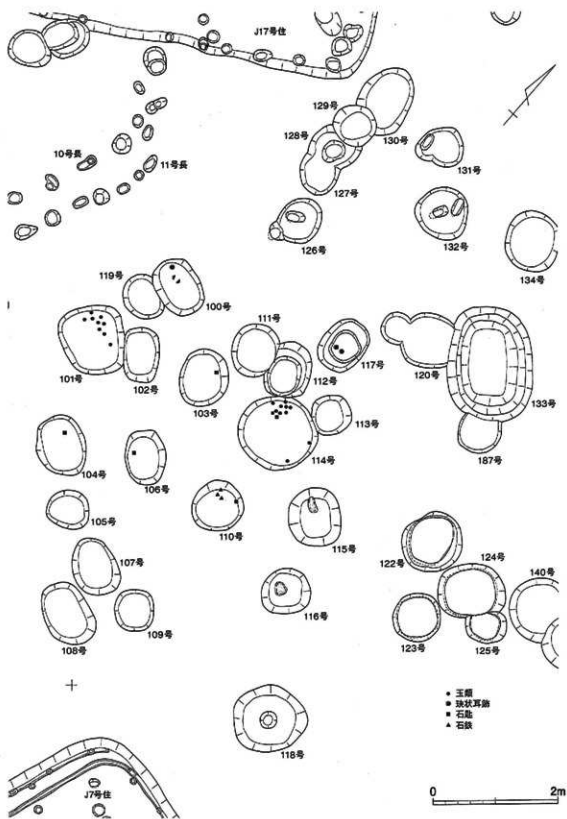
#### ア 各墓坑と遺物出土状況 (第160・161図)

**100号墓坑** 平面形は長径110cm・短径80cm・主軸方向N-70°-Wの楕円形で、確認面からの深さは53cm。北壁寄りから狹状耳飾一对が出土。壁際の2は完形であったが、内側の1は補修孔を持つもので2点に分かれていた。いずれも底面から浮いた状態であったが、特に1の方は高い位置(底面から20~30cm)で出土した。出土状況からみて、片方の狹状耳飾を補修の上、耳に装着したまま葬られたものと考えられる。覆土はしまりのある黒褐色土で、特に下層にはロームブロックの混入が目立っていた。

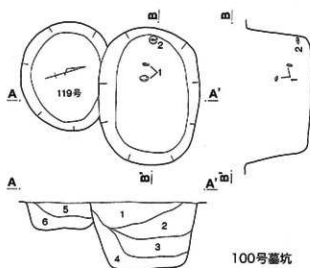
**101号墓坑** 平面形は長軸126cm・短軸121cmの隅丸方形で、主軸方向はN-46°-W。確認面からの深さは50cmで、底面はほぼ平坦。中央から北東壁にかけて、一連のものともみられる管玉7点と丸玉2点が出土。これらの玉類はいずれも底面から浮いた状態で、少し離れた丸玉9を除けば平面で50cm以内に、また垂直方向では30cm以内に集中していた。首飾りとして装着した状態で葬られたものともみられる。覆土はしまりのある黒褐色土で、特に下層にはロームブロックの混入が目立っていた。

**114号墓坑** 平面形はほぼ円形で、長径143cm・短径137cm。確認面からの深さは55cmで、底面はほんの僅かだけ鍋底状を呈している。北西部の壁寄りから、管玉6点・小玉5点及び石匙1点がまとまって出土。いずれも床面から浮いた状態であったが、平面的には約40cm以内、垂直的には25cm以内に集中していた。石匙9が最も内側で底面に近い位置であったことから、これら玉類は石匙をペンダントのように付けた一連のものであった可能性が考えられる。さらにこれらの反対側・東南部の壁際からは、大ぶりの管玉2点が出土。いずれも底面から10cmほど浮いた状態で、50cmほど間隔を置いていた。これらの状況から想定すると、被葬者は石匙の付いた首飾りを装着し、両足首にも管玉を付けていた可能性が考えられる。覆土はしまりのある黒褐色土で、全体にロームブロックが多く含まれていた。

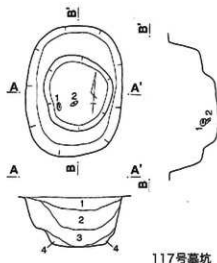
**117号墓坑** 平面形は長径102cm・短径76cm・主軸方向N-6°-Wの楕円形で、確認面からの深さは38cm。底面は二段に掘り込まれ、中央部に径60cm・深さ10cmほどの鍋底状の凹みを有する。中央部やや南よりから狹状耳飾一对(2点)が東西方向に並んで出土。2点の間隔は10数cm。い



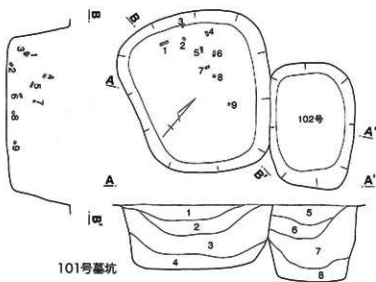
第160図 広場北西隅の墓坑群



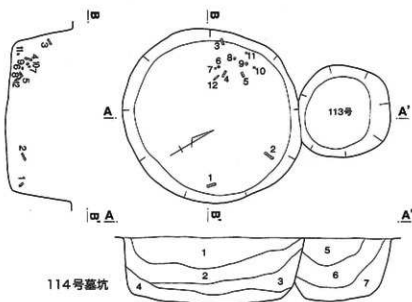
100号墓坑



117号墓坑



101号墓坑



114号墓坑

(土质说明)

100・117号

- 1 原褐色土 (原色のみ混じりあり)
- 2 原褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 3 原褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 4 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 5 黄褐色土 (原色多量混入)
- 6 黄褐色土 (原色多量混入)
- 7 黄褐色土 (原色多量混入)
- 8 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)

101・114号

- 1 原褐色土 (原色のみ混じりあり)
- 2 原褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 3 原褐色土 (原色・小砂混入)
- 4 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 5 黄褐色土 (原色混入)
- 6 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 7 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)

117号

- 1 原褐色土 (原色のみ混じりあり)
- 2 原褐色土 (原色・小砂混入)
- 3 黄褐色土 (原色・小砂多量混入)
- 4 黄褐色土 (小砂多量混入)



第161图 100・101・114・117号墓坑玉類等出土状況

ずれも底面から約10cm浮いた状態で、切り込み部はほぼ北方向を向いていた。それぞれ左右の耳に装着したまま葬られたものと考えられる。

**103号墓坑** 平面形は長径105cm・短径91cm・主軸方向N-39°-Wの楕円形で、確認面からの深さは55cm。北東の壁寄り、底面から5cmほど浮いた地点より、石匙1点が出土。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土で、粘質で堅くしまっていた。

**104号墓坑** 平面形は長径115cm・短径91cm・主軸方向N-64°-Wの楕円形で、確認面からの深さは53cm。北西の壁寄りのほぼ底面から、石匙1点が出土。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土で、全体に堅くしまっていた。

**106号墓坑** 平面形は長径102cm・短径76cm・主軸方向N-46°-Wの楕円形で、確認面からの深さは61cm。南西壁際中央で、底面から8cmほど浮いた地点より、石匙1点が出土。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土で、全体に堅くしまっていた。

**110号墓坑** 平面形は長径97cm・短径94cmのほぼ円形で、確認面からの深さは57cm。中央部より北壁寄り、石匙1点・石鏃3点が出土。石匙は底面から4cmほど、石鏃は底面から2~25cmと、それぞれ浮いた状態で出土した。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土で、全体に堅くしまっていた。

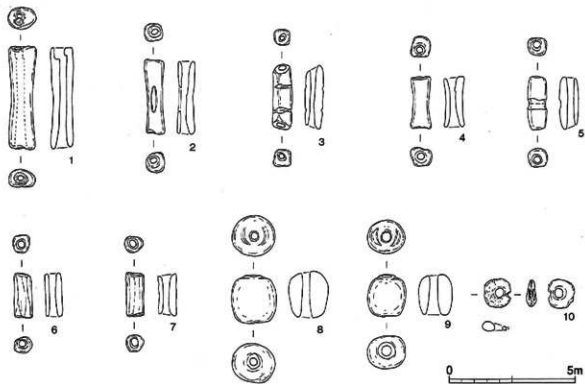
#### イ 出土遺物

**袂状耳飾** 100号墓坑出土の袂状耳飾一対(第164図)は、乳白色系の光沢のある石材を使用したもので、厚さ5mmの円盤状に成形され、これに径6~7mmの中央孔と幅2mm前後の細い切り込みが入る。いずれも形状は僅かに横長の楕円形で、中央孔は中心より上部に穿たれている。1の補修孔は径1mmほどで、両面から抉り開けられている。また2の中央孔上部両面には、切り込み部の割付溝が僅かに残されている。

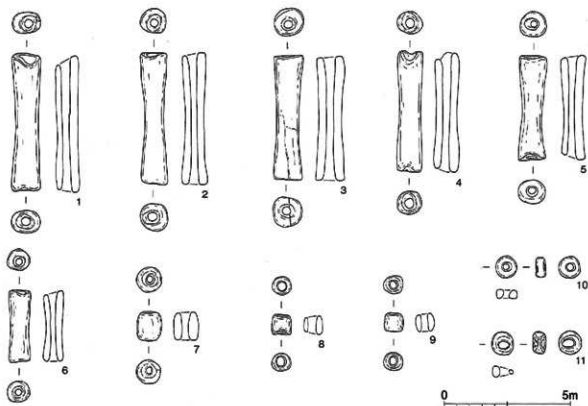
117号墓坑出土の袂状耳飾一対(第165図)は、濃緑色半透明の石材を使用したもので、厚さ4~4.5mmの円盤状に成形され、これに径7~8mmの中央孔と幅2.5mm前後の細い切り込みが入る。いずれも形状は僅かに横長の楕円形で、中央孔は中心よりやや上部に穿たれている。大きさは100号墓坑出土のものより一回り大きい。なお切り込み部はいずれも斜めに磨り切られている。

**玉類** 101号墓坑出土の玉類(第162図)は、管玉7点(1~7)・丸玉2点(8・9)・小玉1点(10)の計10点で、10以外は乳白色系の光沢のある石材を使用したものである。管玉は中央部が細く括れるタイプ(1・2・4)と直線的なタイプ(3・5~7)、さらに断面で見ると円形のもの(1・2・6・7)と隅丸方形のもの(3・4・5)に分かれる。大きさはまちまちであるが、中央部が細く括れるタイプは大ぶりのものに多い。穿孔は3mm前後で、いずれも両面からであるが、1・2・4等には食い違いの段が残されている。なお3・5には、さらに截断して小玉に加工するためのものと思われる割付溝が残されている。丸玉(8・9)は長さと同径で、球形が強く意識されている。いずれも片側に截断時のものとみられる溝が残されている。小玉(10)の外縁には、装飾的なものと思われる刻みがみられる。

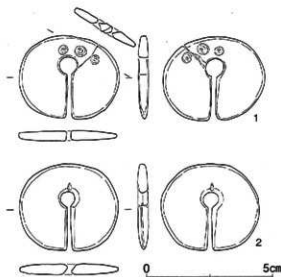
114号墓坑の玉類(第163図)は、管玉6点(1~6)・小玉5点(7~11)の計11点で、11以外は乳白色系の光沢のある石材を使用したものである。管玉はすべて中央部が細く括れるタイプであり、6以外はいずれも大型で、101号土坑出土中最大のもの(第162図1)より大きい。穿孔は3mm前後で、1・5には僅かな食い違いの段が残る。なお1・4・5等の端部が抉れた形状に成形されているのは、骨製品を意図的に模したものと考えられる。8・9は長さと同径になる小玉である。101号墓坑出土の截断溝を残した管玉(第162図3・5)を切り離せばほぼ同



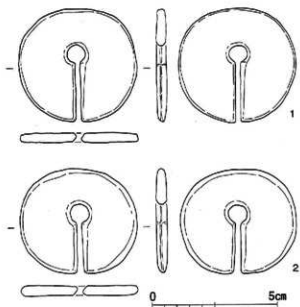
第162图 101号墓坑出土玉類



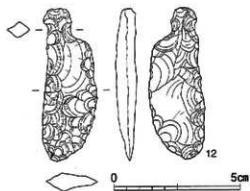
第163图 114号墓坑出土玉類



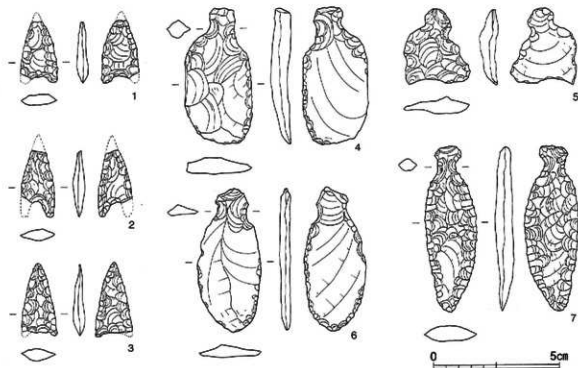
第164图 100号墓坑出土玦状耳饰



第165图 117号墓坑出土玦状耳饰



第166图 114号墓坑出土石匕



第167图 墓坑出土石器 (1~4:110号, 5:103号, 6:104号, 7:106号)

型同大であり、製作工程が窺い知れる。10・11は厚み（長さ）の薄い白玉状の小玉である。

石器 土坑内出土の石器は、石鏃3点（110号墓坑）・石匙5点（103・104・105・110・114墓坑から各1点）の計8点である。石鏃はいずれも一部欠損したもの、また石匙は103号墓坑のものを除きすべて縦型である。

第33表 墓坑出土遺物一覧表

墓坑	番号	種類	大きさmm	重さg	色	石質	墓坑	番号	種類	大きさmm	重さg	色	石質
100号	1	袂状耳飾	52×42×5	17.92	緑白色	ネフライト	114号	1	管玉	72×11~14.5	18.25	乳白色	ネフライト
	2	袂状耳飾	5.15×44×5	19.93	乳白色	ネフライト		2	管玉	69×10~13.5	17.84	乳白色	ネフライト
101号	1	管玉	54×11~13.5	13.36	乳白色	ネフライト		3	管玉	64.5×13~15.5	22.20	乳白色	ネフライト
	2	管玉	38×8~10	4.67	乳白色	ネフライト		4	管玉	62.5×12~13.5	18.28	乳白色	ネフライト
	3	管玉	33×11	5.47	乳白色	ネフライト		5	管玉	54.5×10~14	12.12	乳白色	ネフライト
	4	管玉	27×9~12	4.45	乳白色	ネフライト		6	管玉	36×9~11.5	6.80	乳白色	ネフライト
	5	管玉	27×9.5	4.10	乳白色	ネフライト		7	小玉	14.5×13	3.72	乳白色	ネフライト
	6	管玉	22×9	2.74	乳白色	ネフライト		8	小玉	10×10	1.28	乳白色	ネフライト
	7	管玉	22×9	2.62	乳白色	ネフライト		9	小玉	9×10.5	1.36	乳白色	ネフライト
	8	丸玉	23.5×23	15.77	乳白色	ネフライト		10	小玉	5×11	1.01	乳白色	ネフライト
	9	丸玉	20.5×20.5	9.80	乳白色	ネフライト		11	小玉	6.5×11.5	1.16	乳白色	不明
	10	小玉	4.5×15	1.26	黒褐色	蛇紋岩		12	石匙	59×21×8	10.40	赤褐色	チャート
103号	5	石匙	28×25×7	3.74	赤褐色	チャート	117号	1	袂状耳飾	62×59×4	25.34	濃緑色	ネフライト
104号	6	石匙	56×25×4	5.08	白色	流紋岩		2	袂状耳飾	61×54×4.5	28.27	濃緑色	ネフライト
106号	7	石匙	64×22×7	9.19	褐色	チャート	※大きさの欄は、袂状耳飾が長さ×短径×厚さ、玉類が長さ×径、石匙・石鏃が長さ×幅×厚さ。また、管玉で中央部が細くなるものについては長さ×最小径～最大径とした。 なお石質については、付属の「宇都宮市新古谷古道跡出土玉類の化学分析結果について」を参照されたい。						
110号	1	石鏃	24×15×4	1.64	灰緑色	チャート							
	2	石鏃	25×14×4	1.44	灰緑色	チャート							
	3	石鏃	28×15×4	1.27	緑白色	流紋岩							
	4	石匙	53×24×7	11.25	乳白色	石英							

## (2) 土坑

ここでは、前述した8基の墓坑も含めて、今回確認された土坑群の形状的な特徴や分布状況等について触れることにしたい。

### ア 形状的な特徴（第169～177図）

各土坑の規模・内容等は一覧表に示したとおり様々であるが、平面的な形状を重視すると楕円形・円形・長方形・隅丸方形の4種に分けられる。なお厳密には正円となるものはなく、長径・短径の小さいものを円形と分類している。

楕円形土坑 調査した203基中、最も多い100基を確認した。代表例としては墓坑として扱った100号や104号が挙げられ、大きさは長軸1m強・短軸80cm前後・深さ50cm余りである。ただし全体では大きさにかなり幅がみられ、長軸で2mを越えるもの（62号や236号）から60cm代のもの（145号や249号）まで様々である。また特異な例としては、底面が二段になるもの（112号や155号）、底面に小穴があるもの（171号や182号）などがみられる。



**円形土坑** 楕円形土坑に次ぐ84基を確認した。墓坑として扱った110号や114号が代表例で、やはり大きにはばらつきが見られる。最も多いのは110号に代表される径1m前後のもので、114号のように径1.5m前後を越えるものは少数(81号や92号)である。楕円形土坑同様、底面が二段になるもの(128号や152号)、底面に小穴があるもの(126号や131号)などもみられる。

**長方形土坑** 全体で16基と確認数は少なかった。大きさは様々で、長軸が90cm前後のもの(137号や167号)から2mを越えるもの(63号や71号)までみられる。なお、長方形以外に共通点があるものとしては、東壁が二段になるもの(63号や71号)、長軸方向が同様で深さがあるもの(75号・77号・79号)などが挙げられる。

**隅丸方形土坑** 確認したのは僅かに3基だけである。大きさままぢまちであり、楕円形や円形の一つととらえてもいいのかもかもしれないが、墓坑として扱った101号が代表例ということで、あえて分類したものである。

**配石土坑** 覆土の上層又は中層から、大きめな川原石が1個ないし2個出土した土坑が18基確認されている。形状的な内訳は楕円形土坑が11基、円形土坑が7基で、長方形土坑や隅丸方形土坑には認められない。このうち201号土坑・235号土坑などからは、長さ30～40cmの川原石が出土しているが、中心部に立てられていたものが横転した可能性も考えられる。

#### イ 分布状況

第7図の集落全体図は、古墳時代及び奈良時代の遺構を除いたものである。これをもとに、広場を中心とした土坑群の分布状況に着目すると、いくつか特徴的な在り方がみえてくる。

まず広場全体の分布状況であるが、住居・建物跡群寄りに密度が濃く、中心部へ行くに従って薄くなっている。特に中心部の半径10m程の範囲は空白に近い状況とも言える。つまり広場中心の空白地帯を取り巻くように環状に配置されている様子が窺える。その規模は広場いっぱいになり、実際には集落が載る細長い台地に沿った楕円形(70×80m)の環状を呈している。なおJ7号・8号堅穴住居跡や5～9号長方形大型建物跡などは、この環状土坑群に食い込んだような立地となっている。

次に土坑一つ一つが単独ではなく、小グループとして分布する状況である。前述した墓坑群(100号・101号・104号・106号・110号・114号・117号)はその典型で、7基の土坑が直径6mほどのサークルを描くように配されていた。周辺を見渡すと、このような小グループ(7～8基の土坑が直径6～7mのサークルを描く)が隣接したり重なったりしている状況であることが分かる。因みに墓坑群が確認された広場北西の一面(第168図)だけでも、このような小グループが10カ所程度(130号～138号、153号～160号、192号～198号など)みられる。おそらく広場全体では、このような小グループが数十カ所に登り、その集合体として前述した環状土坑群を形成したものと考えられる。なお、小グループ毎における土坑形状(楕円形・円形・長方形・隅丸方形)の偏り等は、特に認めることができなかった。

#### ウ 出土遺物(第180～185図)

**土器** 1は60号土坑出土の口縁部片で、粗大な連続爪形文が施される。2・3は61号土坑出土で、2は半截竹管の沈線文が施される口縁部片、3は1段Lの無節縄文を地文とする胴部片である。4～6は62号土坑出土で、いずれも五領が台式と思われる。4には平行沈線と鋸歯文、5には半截竹管の刺突文等がみられ、6の胴部には結節文のある2段RLの単節斜縄文が施される。7～10は65号土坑出土である。7～9は連続爪形文を施すもので、8は米字状を描いている。10は半截竹管の肋骨文で、棒状工具による円形刺突が配される。7～10はいずれも繊維が微量含まれず、諸磯a式と思われる。

11～14は70号土坑出土である。11～13は葺瓦状燃糸文を施すもので、同一個体とみられる。14は連続爪形文で米字状を描くものとみられる。15は80号土坑出土の口縁部片で、4本一組の棒状工具による平行沈線とコンパス文が施される。16～17は83号土坑出土のいずれも胴部片で、16は1段Lのループ文、17は貝殻腹縁文、18は2段RL・LRの羽状縄文である。19は84号土坑出土の底部片である。縦位の2段LRの結節文が施され、五領が台と思われる。20～26は87号土坑出土である。20の口縁部片は半截竹管による平行沈線文が施され、21の口縁部片は2段RLの単節斜縄文が地文である。23・25は連続爪形文が施されるもので、25は米字状に描かれている。24は円形刺突文がみられ、纖維が微量で諸磯式と思われる。27・28はいずれも88号土坑出土の胴部片である。27は連続爪形文で地文は附加条1種縄文である。28は2段RL・LRの羽状構成で、結節文を有する。29・30は89号土坑出土である。29は大型の胴部で、2つの附加条2種（2段RLに0段lを右巻きしたものと2段LRに0段rを左巻きしたもの）による羽状縄文が施される。30は胴部下半で、2段RL・LRの羽状縄文を地文とし、連続爪形文で区画された横位無文帯が巡る。31～34は90号土坑出土で、31の口縁部には連続爪形文が施される。なお33は纖維が含まれず諸磯式とみられる。35は91号土坑出土の口縁部片で、口唇部押圧と歯状工具による横位沈線がみられる。纖維微量で諸磯式とみられる。36～39は92号土坑出土で、36の口縁部片には横位沈線文、37の胴部片には4本一組の棒状工具による波状文がみられる。40～42は95号土坑出土の胴部片で、40には半截竹管による菱形文・小波状文、41には連続爪形文がみられる。43は110号土坑出土の波状口縁部片で、0段多条で2段LRのループ文が施される。44・45は119号土坑出土の頸部片で、半截竹管による連続爪形文・平行沈線文がみられる。46・47は121号土坑出土で、46の頸部くびれ部には半截竹管の平行沈線文が巡る。48・49は133号土坑出土の胴部片で、48は附加条2種縄文が施される。50は160号土坑出土の胴部片で、2段RLの単節斜縄文が施される。51は161号土坑出土の胴部片で、同じく2段RLの単節斜縄文が施される。52は171号土坑出土の波状口縁部片で、連続爪形文が施される。53は172号土坑出土の胴部片で、2段RLの単節斜縄文が施される。54・55は176号土坑出土で、54の口縁部は連続爪形文により楕円形区画や米字状の十字区画が描かれている。56・57は199号土坑出土で、57の口縁部片には円形刺突文がみられる。58・59は200号土坑出土の胴部片で、58には円形刺突文がみられる。60～64は207号土坑出土である。60の口縁部片には三角印刻文、61の胴部片には縦位の隆帯貼附等、五領が台式の特徴がみられる。地文はいずれも縦位の2段RLであり、中期初頭段階のものと思われる。65・66は216号土坑出土で、65の口縁部片には連続爪形文が施される。67・68は219号土坑出土の胴部片で、67は反撚の縄文で、68は附加条1種縄文でそれぞれ羽状縄文を施している。

**石器** 詳細は別表(第40表)のとおりであるが、出土量は少なく、土坑全体でも石鏃4点・石匙2点・磨石14点・石皿2点ほどである。

## 7 落とし穴状土坑

ここで落とし穴状土坑としたものは、平面的な遺構確認の段階では一般の土坑として扱ったが、調査の結果明らかに深さがあり、特徴的な形状を有したものである。確認数は全体で16基であり、形状的な特徴から楕円形と溝型の2種類に分けられた。

### ア 形状的な特徴(第178・179図)

**楕円型** 本類型としたのは、59号・61号・65号・72号・73号・83号・84号・87号・88号・90号・91号・133号の12基である。基本的な形状は、楕円形の開口部からややロート状に掘り下げられ、底面が楕円もしくは隅丸長方形になるものである。大きさは、開口部の長軸が119～266cm・底面の長軸が59～152cm・深さが142～262cmと幅がみられるが、全体に一般の土坑と比して大規模である。特にその深さは圧倒的で、大部分のものはローム層を掘り抜き、鹿沼軽石層の下部まで達している。埋土はいずれも自然堆積であり、ロームブロックや鹿沼軽石粒を多量に含むのが特徴である。

**溝型** 本類型としたのは、60号・76号・78号・99号の4基である。基本的な形状は、長方形もしくは長楕円形の開口部から幅の狭い溝状に掘り下げられたもので、底部が長軸方向にオーバーハングしているもの(76号)もみられる。大きさは、開口部の長軸が136～280cm・底面の長軸が110～264cm・深さが72～122cmとまちまちであるが、底部幅(18～55cm)はいずれも長軸長に対して非常に狭くなっている。埋土の状況は60号・76号・78号の3基で確認できたが、共通点としてはいずれも自然堆積で粘性が強いこと、下層がロームを主体とした黄褐色であることなどが挙げられる。なお99号は底面長軸方向の両端に小穴を有するような形状になっているが、実際にはこのローム主体の下層を掘り切れていない可能性が高い。

#### イ 分布状況

これら落とし穴状土坑の分布状況を集落との関係でみると、広場内に位置するのは僅か(61号・65号など)、むしろ住居・建物跡群と重なっているものが大部分である。また、重複関係をみると、楕円型の73号・83号・84号・87号が竪穴住居を切っていること、溝型の76号・99号が竪穴住居跡や長方形大型建物跡に切られていることなどが指摘できる。以上のことから、これら落とし穴状土坑は集落とは直接的関係が無く、さらに楕円型と溝型も時期を異にしていたものと思われる。

まず楕円型の分布は、広場中心部近くの61号・65号を除けば、台地の縁辺部に寄っていると見える。また、83号・84号・133号あるいは72号・73号・87号・88号のように複数基がほぼ等間隔に配置されたような状況も特徴的である。61号・65号や90号・91号(調査区外への展開も)もそのような意識のもとに配置されたものであろう。

一方溝型の分布は、調査区の北部寄りや台地を横断しているようにも見えるが、4基と調査例が少ないこともありそれ以上の特徴は見出し難い。

第34表 土坑一覽表(1)

番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
62	E-32	楕円形	206×180	鍋底	48	N-30°-E	
63	E-31	長方形	205×84	130×26	62	N-28°-W	東壁が二段
64	F-32	円形	110×106	100×85	67	—	
66	F-32	長方形	186×123	157×92	34	N-8°-E	
67	F-32	長方形	195×101	164×70	28	N-10°-W	
68	F-31	長方形	167×80	142×46	49	N-10°-W	
69	F-32	長方形	176×102	152×75	26	N-38°-E	
71	F-31	長方形	230×132	183×65	56	N-12°-W	東壁が二段
74	F-29	円形	186×172	45×43	87	—	川原石3点
75	F-28	長方形	145×105	94×44	84	N-32°-W	
77	D-29	長方形	118×99	113×51	73	N-36°-W	
79	E-29	長方形	159×79	131×48	74	N-30°-W	J13住を切る
81	E-29	円形	174×155	167×151	36	—	
85	F-31	長方形	122×59	104×41	46	N-9°-W	
86	G-29	楕円形	145×86	93×59	73	N-25°-W	
89	F-28	楕円	87×72	60×53	29	N-56°-E	土器埋設
92	H-32	円形	229×220	196×179	20	—	川原石2点
93	H-32	楕円形	125×116	80×69	28	N-70°-W	
94	H-32	楕円形	196×106	169×77	21	N-2°-W	底に小穴2個
95	H-29	楕円形	144×103	112×80	54	N-80°-E	
96	H-29	長方形	137×100	114×73	29	N-3°-W	
98	G-29	長方形	131×74	110×55	18	N-40°-W	
100	F-29	楕円形	110×80	92×56	53	N-10°-W	狭状耳飾1対
101	F-29	隅丸方形	126×121	109×96	50	N-46°-W	管玉7・丸玉2
102	F-29	楕円形	99×67	75×54	59	N-40°-W	
103	F-29	楕円形	105×91	86×70	55	N-39°-W	石匙1
104	F-29	楕円形	115×91	96×68	53	N-64°-W	石匙1
105	F-29	円形	80×75	64×54	26	—	
106	F-29	楕円形	102×76	78×56	61	N-46°-W	石匙1
107	F-29	楕円形	110×86	87×58	37	N-55°-W	
108	F-29	楕円形	119×87	94×65	55	N-68°-W	
109	F-29	円形	78×72	61×59	21	—	
110	F-29	円形	97×94	85×77	57	—	石匙1・石鏝3
111	F-29	円形	98×90	75×71	36	—	
112	F-29	楕円形	103×86	85×65	51	N-23°-W	底面二段
113	F-29	円形	77×74	58×52	49	—	
114	F-29	円形	146×137	127×119	54	—	管玉6・小玉5・石匙1
115	F-29	楕円形	110×96	71×55	46	N-56°-W	川原石1点
116	F-29	円形	93×83	60×58	39	—	川原石1点
117	F-29	楕円形	102×72	88×62	38	N-6°-W	狭状耳飾1対 底面二段
118	F-30	円形	135×122	96×89	38	—	石鏝1 底面に小穴
119	F-29	楕円形	86×64	69×52	22	N-73°-W	
120	F-29	楕円形	115×102	90×83	12	N-50°-E	
121	F-30	円形	86×80	65×61	16	—	
122	F-29	楕円形	116×108	98×75	72	N-20°-W	

第35表 土坑一覧表(2)

番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
123	F-29	円形	90×88	77×75	103	—	
124	F-29	楕円形	126×96	96×84	96	N-43°-E	
125	F-29	円形	78×65	55×50	71	—	
126	F-29	円形	90×77	72×61	27	—	底面に小穴
127	F-29	円形	85×75	62×55	21	—	
128	F-29	円形	100×95	64×60	25	—	底面二段
129	F-29	円形	78×76	55×46	33	—	
130	F-29	楕円形	129×93	103×70	25	N-14°-W	
131	F-29	円形	85×74	68×55	23	—	底面に小穴
132	F-29	円形	100×92	82×76	21	—	底面に小穴
134	F-29	楕円形	109×98	90×83	26	N-30°-W	
135	F-29	円形	94×88	78×71	25	—	
136	F-29	楕円形	116×90	99×74	29	N-16°-W	
137	F-29	長方形	90×81	68×60	33	N-62°-E	
138	F-29	円形	98×88	80×73	27	—	
139	F-29	円形	101×95	85×77	25	—	
140	F-29	円形	115×111	89×83	18	—	
141	F-29	円形	107×104	77×73	32	—	
142	G-30	円形	93×90	76×72	25	—	
143	G-30	楕円形	91×72	73×61	20	N-88°-W	川原石1点
144	G-30	楕円形	73×59	60×42	16	N-67°-W	
145	G-30	楕円形	62×48	49×37	21	N-26°-W	
146	G-30	円形	66×48	63×46	30	—	J7住に切られる
147	G-30	円形	72×70	54×52	17	—	
148	G-30	楕円形	108×91	92×75	20	N-87°-W	底面に小穴
149	G-30	円形	67×55	52×48	22	—	
150	G-30	円形	95×88	78×73	19	—	
151	G-30	円形	132×127	110×106	19	—	底面に小穴
152	G-30	円形	110×106	51×46	43	—	底面二段
153	G-30	楕円形	116×90	62×37	63	N-87°-W	北壁が二段
154	G-30	隅丸方形	65×64	50×48	20	—	
155	G-30	楕円形	107×90	64×44	52	N-8°-W	底面二段
156	G-30	楕円形	96×73	74×56	28	N-29°-W	
157	G-30	楕円形	102×84	79×62	35	N-54°-W	
158	G-30	隅丸方形	83×80	64×55	31	—	
159	G-30	楕円形	110×81	94×65	16	N-35°-E	
160	G-30	楕円形	126×98	101×72	52	N-4°-E	底面二段
161	G-30	楕円形	183×140	155×112	20	N-31°-W	川原石1点
162	G-30	楕円形	151×128	123×105	22	N-64°-W	
163	F-30	楕円形	124×115	94×80	21	N-89°-W	
164	F-30	円形	90×83	69×65	19	—	
165	F-30	円形	80×74	63×55	25	—	
166	F-30	円形	91×82	74×65	26	—	底面に深い穴
167	F-30	長方形	89×75	70×56	17	N-15°-W	
168	F-30	円形	104×103	86×84	59	—	底面二段

第36表 土坑一覧表(3)

番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
169	F-30	円形	121×116	97×90	21	—	川原石1点
170	F-30	円形	120×118	98×95	16	—	
171	F-29	楕円形	119×96	62×46	42	N-50°-W	底面に小穴
172	F-29	円形	110×107	63×48	20	—	
173	F-29	円形	131×125	136×91	29	—	底面に小穴
174	F-29	楕円形	85×58	131×95	26	N-88°-W	
175	F-29	楕円形	78×65	90×62	19	N-46°-E	
176	F-29	楕円形	160×114	70×52	24	N-25°-E	川原石1点
177	F-29	楕円形	155×117	62×57	23	N-22°-W	
178	F-29	楕円形	118×89	169×71	31	N-2°-W	底面に小穴2個
179	F-29	楕円形	88×69	112×72	32	N-70°-E	川原石1点
180	F-29	円形	80×73	86×63	20	—	
181	F-30	楕円形	193×86	52×50	114	N-52°-W	
182	F-30	楕円形	143×102	86×63	23	N-88°-E	底面に小穴
183	G-31	楕円形	101×84	112×80	19	N-87°-E	
184	F-30	円形	130×126	72×69	21	—	
185	F-30	楕円形	158×125	86×70	41	N-85°-E	
186	F-30	楕円形	135×96	90×84	24	N-1°-W	
187	F-29	円形	83×79	70×66	23	—	
188	F-30	楕円形	180×114	95×94	29	N-79°-W	底面2段
189	F-30	円形	110×107	112×90	30	—	
190	F-30	円形	88×86	105×87	36	—	
191	F-30	円形	110×108	73×69	22	—	川原石1点
192	F-30	楕円形	140×111	138×118	26	N-85°-E	川原石1点
193	F-30	楕円形	129×108	61×56	23	N-26°-E	底面に小穴
194	F-30	円形	93×91	72×54	25	—	
195	F-30	楕円形	159×144	75×68	27	N-40°-W	
196	F-30	円形	79×75	116×109	23	—	
197	F-30	楕円形	90×74	107×104	22	—	
198	F-30	楕円形	99×86	86×72	17	N-22°-E	
199	F-30	円形	148×136	82×63	22	—	川原石1点
200	F-30	円形	132×130	94×90	20	—	
201	F-30	楕円形	103×92	73×65	20	N-44°-E	川原石1点
202	F-30	楕円形	98×82	172×110	24	N-45°-W	
203	F-30	円形	120×113	88×72	26	—	
204	F-30	円形	89×84	118×100	11	—	
205	F-30	楕円形	199×126	84×64	18	N-48°-E	
206	F-30	楕円形	117×90	98×90	14	N-15°-E	川原石1点
207	G-32	楕円形	142×119	88×71	51	N-15°-W	
208	G-32	楕円形	101×82	98×76	13	N-18°-W	
209	G-32	円形	108×106	(93×60)	17	—	
210	G-31	楕円形	115×102	81×74	33	N-80°-W	
211	F-32	楕円形	121×97	64×50	51	N-76°-E	
212	F-32	楕円形	(112×80)	71×55	35	N-4°-W	
213	G-32	楕円形	101×85	79×72	14	N-39°-W	

第37表 土坑一覧表(4)

番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
214	F-32	楕円形	95×77	82×76	39	N-30°-W	
215	F-32	楕円形	100×91	86×84	59	N-35°-W	
216	G-32	円形	104×97	97×90	21	—	
217	G-32	円形	110×108	98×95	16	—	
218	G-32	円形	90×87	68×66	36	—	
219	F-32	円形	109×105	85×82	27	—	
220	F-32	円形	113×103	84×82	18	—	
221	F-32	楕円形	124×105	91×72	24	N-81°-E	
222	F-32	円形	118×115	87×84	69	—	
223	F-32	円形	81×76	53×48	52	—	
224	F-32	円形	88×85	55×50	14	—	川原石2点
225	F-32	楕円形	80×61	54×39	25	N-1°-W	
226	F-32	楕円形	99×87	85×64	32	N-80°-W	
227	F-32	円形	122×120	101×89	54	—	
228	F-32	円形	96×89	74×72	69	—	
229	F-32	楕円形	91×76	70×65	51	N-31°-W	川原石1点
230	F-32	楕円形	106×99	86×73	72	N-32°-W	
231	F-32	円形	110×104	92×87	19	—	
232	F-32	円形	103×96	77×75	21	—	
233	F-32	楕円形	110×93	83×70	20	N-36°-W	
234	F-32	楕円形	117×99	80×77	19	N-20°-E	
235	F-32	楕円形	129×92	103×73	19	N-22°-W	川原石1点
236	E-32	楕円形	239×140	205×117	14	N-87°-E	川原石1点
237	E-32	円形	67×65	53×51	29	—	
238	E-32	楕円形	120×91	98×79	20	N-30°-W	
239	F-29	円形	105×98	76×75	24	—	
240	F-32	円形	124×118	101×97	26	—	
241	F-30	円形	107×101	76×74	12	—	
242	F-32	円形	(145×135)	(87×80)	55	—	
243	F-32	円形	(130×120)	(80×70)	62	—	
244	F-32	楕円形	173×145	122×93	63	N-30°-W	
245	F-32	楕円形	82×65	65×51	24	N-80°-W	
246	F-32	楕円形	109×84	96×75	12	N-45°-E	
247	G-32	楕円形	102×84	76×65	20	N-10°-E	
248	G-32	楕円形	112×101	89×76	26	N-9°-W	
249	F-28	楕円形	66×61	54×41	25	N-42°-W	底面に小穴
250	F-28	楕円形	74×55	55×39	26	N-22°-E	
251	F-28	円形	55×51	42×38	22	—	
252	F-28	円形	94×87	57×55	41	—	
253	F-28	円形	72×65	50×42	22	—	
254	F-28	円形	80×69	43×41	45	—	
255	F-28	円形	75×72	54×52	36	—	
256	F-28	円形	65×63	48×46	24	—	
257	F-28	円形	83×75	56×51	33	—	
258	F-28	楕円形	131×98	92×78	22	N-28°-W	底面に小穴

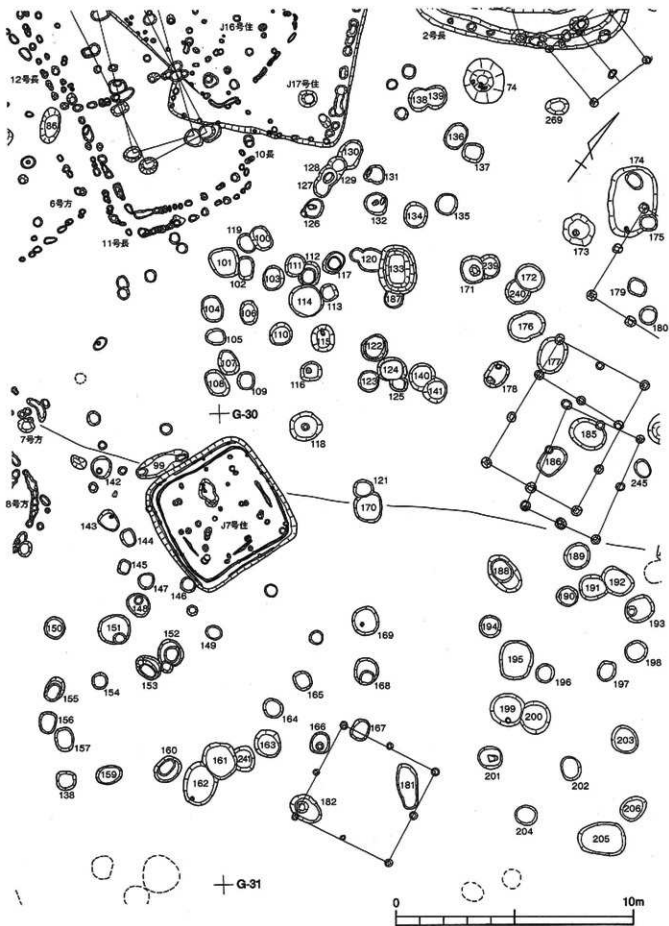
第38表 土坑一覧表(5)

番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
259	F-28	楕円形	85×80	63×54	27	—	
260	F-32	楕円形	160×120	106×77	72	N-50°-E	
261	E-29	楕円形	101×77	74×56	25	N-82°-W	
262	E-29	楕円形	88×75	81×67	34	N-14°-E	
263	E-29	楕円形	104×87	83×66	33	N-48°-W	
264	E-29	楕円形	111×92	93×78	15	N-18°-E	
265	E-29	楕円形	99×81	82×64	36	N-55°-W	
266	E-28	楕円形	92×81	78×67	36	N-37°-W	
267	E-28	円形	77×73	66×64	27	—	
268	E-28	円形	101×94	42×38	26	—	
269	F-29	楕円形	100×74	64×42	35	N-49°-E	
270	E-29	楕円形	(80×66)	(65×48)	23	N-8°-E	
271	E-29	円形	73×69	(57×56)	23	—	
272	E-29	楕円形	93×74	(65×45)	27	N-10°-E	
273	E-29	円形	70×68	(57×54)	28	—	
274	E-29	円形	69×64	(48×45)	28	—	
275	E-29	楕円形	81×59	(60×52)	32	N-61°-E	
276	E-29	長方形	94×58	(86×49)	27	N-4°-W	
277	E-29	楕円形	158×106	144×95	25	N-62°-E	
278	F-31	長方形	146×66	134×54	28	N-39°-E	
279	E-33	楕円形	87×58	72×45	31	N-85°-E	
280	G-32	楕円形	90×68	70×47	19	N-48°-E	
281	D-29	楕円形	187×113	166×96	12	N-3°-E	

第39表 落とし穴状土坑一覧表

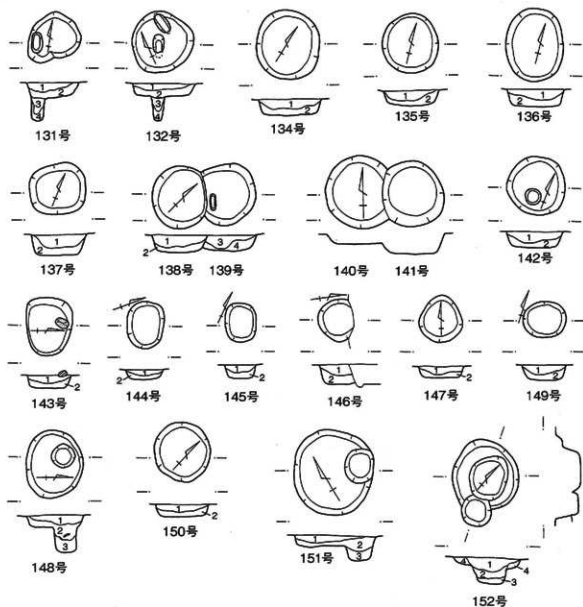
番号	グリッド	平面形	開口部径cm	底部径cm	深さcm	長軸方向	備考
59	C-28	楕円型	119×102	59×38	142	N-81°-W	底に小穴
60	D-28	溝型	136×73	110×19	122	N-75°-E	
61	E-31	楕円型	266×229	127×38	228	N-60°-W	
65	E-31	楕円型	227×185	115×51	252	N-82°-W	
72	G-32	楕円型	158×142	102×74	177	N-50°-E	底に小穴2個
73	G-31	楕円型	200×181	124×99	244	N-10°-W	J6号住を切る
76	F-28	溝型	(280×104)	264×39	88	N-78°-W	16号長に切られる
78	D-29	溝型	157×89	116×18	72	N-21°-E	
83	F-29	楕円型	128×110	132×96	185	N-38°-W	J16号住を切る
84	G-28	楕円型	236×181	150×84	196	N-19°-W	12号長を切る
87	H-31	楕円型	163×150	77×51	206	N-25°-W	J23号住を切る
88	H-31	楕円型	158×142	106×90	218	N-47°-W	
90	G-32	楕円型	211×181	152×93	262	N-52°-E	
91	G-33	楕円型	181×161	110×62	248	N-49°-E	
99	G-30	溝型	234×84	220×55	(28)	N-18°-E	J7号住に切られる
133	F-29	楕円型	207×155	120×68	188	N-43°-W	





第168図 広場北西部の土坑群





131・132号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (L形・小L形多线坑)
- 3 灰褐色土 (L形多线坑)

134・135・136・137号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (L形・L形多线坑)

138・139号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (L形・小L形多线坑)

142・143・144・145・147・149・150号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (小L形坑)

146号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 褐色土 (L形・小L形坑)

148号土坑

- 1 褐色土 (L形坑)
- 2 褐色土 (小L形坑)
- 3 灰褐色土 (L形坑)

151号土坑

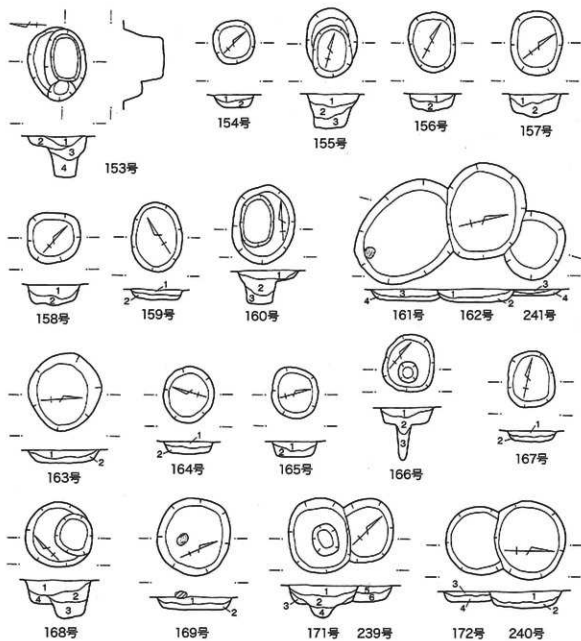
- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (小L形坑)
- 3 灰褐色土 (L形坑)

152号土坑

- 1 灰褐色土 (L形坑)
- 2 灰褐色土 (L形・小L形坑)
- 3 褐色土 (L形多线坑)
- 4 灰褐色土 (小L形坑)



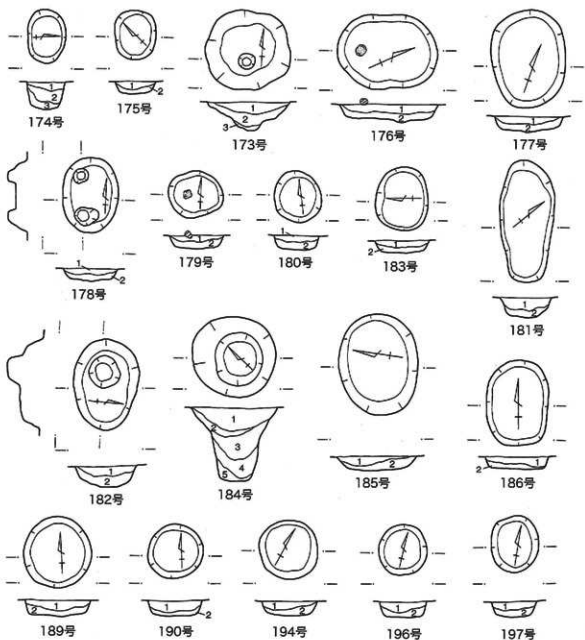
第170图 土坑平面・断面图(2)



- |                      |                      |                   |
|----------------------|----------------------|-------------------|
| 153号土坑               | 3 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 2 褐色土 (L, 夹多量炭屑)  |
| 1 深褐色土 (L, 炭屑)       | 161、162、241号土坑       | 3 褐色土 (L, 夹L, 炭屑) |
| 2 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 1 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 4 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑) |
| 3 黄褐色土 (L, 夹L, 小量炭屑) | 2 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 171、239号土坑        |
| 4 褐色土 (L, 夹多量炭屑)     | 3 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 1 黄褐色土 (L, 夹少炭屑)  |
| 154号土坑               | 4 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 2 褐色土 (L, 炭屑)     |
| 1 黄褐色土               | 164、165号土坑           | 3 黄褐色土 (L, 炭屑)    |
| 2 褐色土 (L, 夹多量炭屑)     | 1 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 4 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑) |
| 155号土坑               | 2 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 166号土坑            |
| 1 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 166号土坑               | 1 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑) |
| 2 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 1 黄褐色土 (L, 夹L, 小量炭屑) | 2 黄褐色土 (L, 炭屑)    |
| 3 黄褐色土 (L, 夹L, 小量炭屑) | 3 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 167、169号土坑        |
| 4 黄褐色土 (L, 夹多量炭屑)    | 167、169号土坑           | 1 黄褐色土 (L, 炭屑)    |
| 156号土坑               | 2 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 2 褐色土 (L, 夹多量炭屑)  |
| 1 黄褐色土 (L, 炭屑)       | 168号土坑               | 1 黄褐色土 (L, 炭屑)    |
| 157号土坑               | 1 黄褐色土 (L, 炭屑)       |                   |



第171图 土坑 平面·断面图 (3)

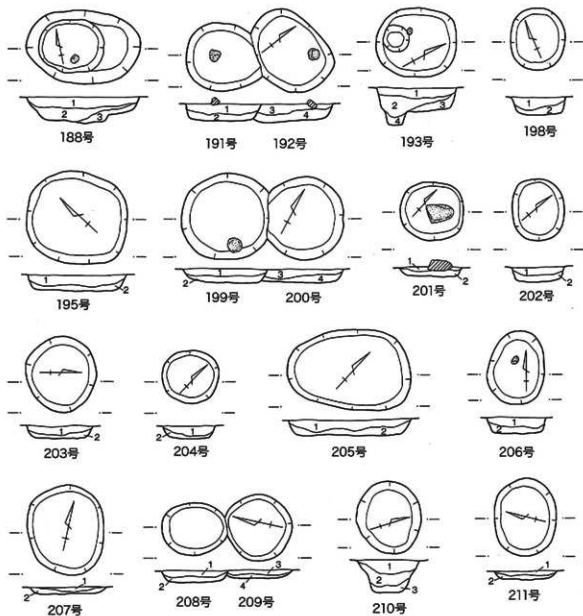


174号土坑  
 1 灰褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 2 褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 3 褐色土 (L.R.墓主人)  
 174号土坑  
 1 灰褐色土  
 2 褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 3 灰褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 4 灰褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 175·178·180号土坑  
 1 黄褐色土 (L.R.墓主人)  
 2 黄褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 176·177·178号土坑  
 1 黄褐色土 (L.R.墓主人)  
 2 黄褐色土 (L.R.墓主人)

181·182号土坑  
 1 灰褐色土 (L.R.墓主人)  
 2 褐色土 (L.R.墓主人)  
 184号土坑  
 1 灰褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 2 灰褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 3 黄褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 4 褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 5 黄褐色土 (L.R.多室墓主人)  
 185·186·188·189·194·196·197号土坑  
 1 黄褐色土 (L.R.墓主人)  
 2 黄褐色土 (L.R.多室墓主人)



第172图 土坑平面·断面图(4)



188号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 褐色土 (L层·小L层剖面)  
 3 淤积层土 (L层剖面)

191·192号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)  
 3 暗棕色土 (L层多量腐质层)  
 4 淤积层土 (L层·小L层多量腐质层)

193号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 暗棕色土 (L层·小L层剖面)

195号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

198号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

195·198·202·203·204·205·206号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)  
 199·200号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)  
 3 暗棕色土 (L层多量腐质层)  
 4 淤积层土 (L层·小L层多量腐质层)

201号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 褐色土 (L层多量腐质层)

202号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

203号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

204号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

205号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

206号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

207号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

208号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

209号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

210号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

211号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)

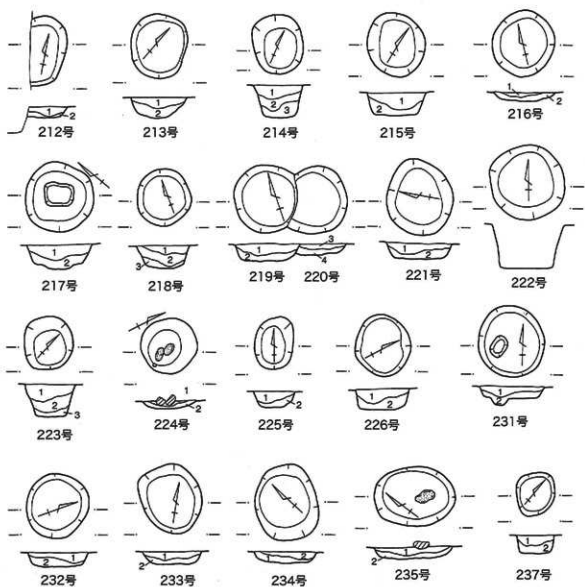
208·209号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)  
 3 暗棕色土 (L层剖面)

210号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)

211号土坑  
 1 淤积层土 (L层剖面)  
 2 淤积层土 (L层·小L层剖面)

0 2m

第173图 土坑平面·断面图(5)



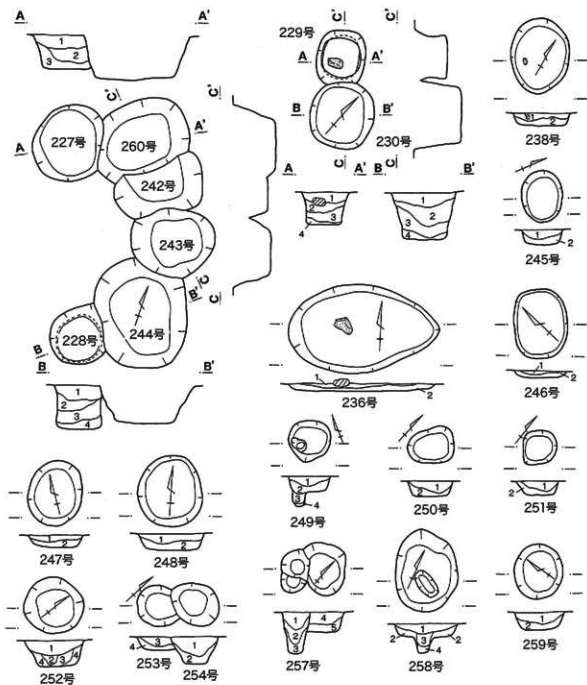
212・215・217・221・226・232・  
233・234号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 黄褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
213号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
214号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 暗褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
3 黄褐色土 (L.R.・L.雜入)  
216・244号土坑  
1 暗褐色土  
2 黄褐色土

218号土坑  
1 黑褐色土 (L.R.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・小L.多量雜入)  
3 褐色土 (L.R.含多粘質)  
219・220号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 黄褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
3 黑褐色土 (L.R.多)  
4 黄褐色土  
223号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・L.雜入)  
225号土坑  
1 黑褐色土 (L.R.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
225号土坑

1 黑褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
2 黄褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
231号土坑  
1 黑褐色土  
2 暗褐色土  
232号土坑  
1 暗褐色土 (L.R.雜入)  
2 黄褐色土 (L.R.・小L.雜入)  
237号土坑  
1 黑褐色土 (L.R.雜入)  
2 褐色土 (L.R.・小L.雜入)

0 2m

第174圖 土坑平面・断面圖 (6)



227・228・242・243・244・260号土坑

- 1 灰褐色土 (北灰层)
- 2 褐色土 (北灰-小灰层)
- 3 黄褐色土 (北灰-灰层)
- 4 灰褐色土 (北灰层)
- 5 灰褐色土 (北灰-小灰层)
- 6 黄褐色土 (北灰层)
- 7 黄褐色土 (北灰-小灰层)

229・230号土坑

- 1 暗褐色土 (北灰层)
- 2 暗褐色土 (北灰-小灰层)
- 3 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 4 黄褐色土 (北灰-小灰层)

238号土坑

- 1 深褐色土 (北灰层)
- 2 褐色土 (北灰-小灰层)
- 245号土坑
- 1 暗褐色土 (北灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 246号土坑
- 1 暗褐色土 (北灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 247・248号土坑
- 1 暗褐色土 (北灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 249号土坑
- 1 深褐色土 (北灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 249号土坑
- 1 深褐色土
- 2 黄褐色土
- 3 黄褐色土
- 4 粘土

250・251号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 黄褐色土
- 252号土坑
- 1 黄褐色土 (北灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 253・254号土坑
- 1 暗褐色土
- 2 黄褐色土
- 4 黄褐色土
- 257号土坑
- 1 暗褐色土
- 2 黄褐色土
- 3 黄褐色土

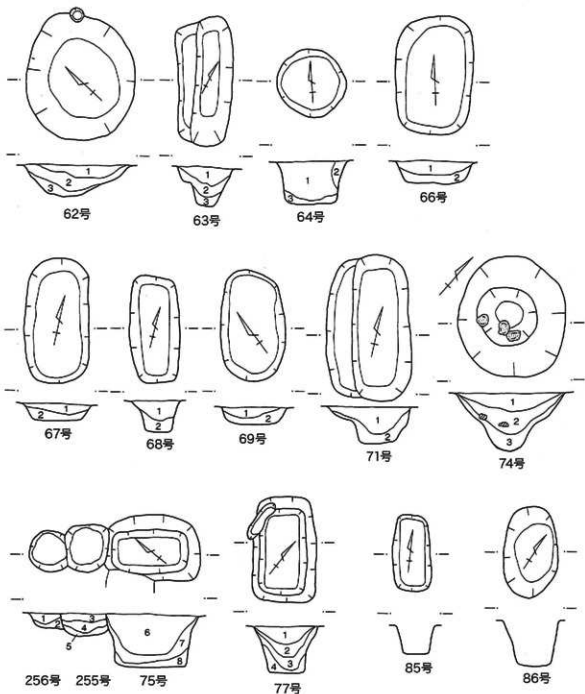
4 暗褐色土

- 5 黄褐色土
- 255号土坑
- 1 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 2 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 3 黄褐色土 (北灰-小灰层)
- 4 黄褐色土 (北灰层)
- 259号土坑
- 1 黄褐色土
- 2 黄褐色土

0 2m

第175图 土坑平面·断面图 (7)





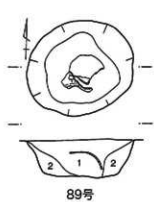
62号土坑  
 1 黄褐色土 (L, 灰土)  
 2 黄褐色土 (L, 灰土)  
 3 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 63号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 2 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 3 黄褐色土 (R-A, 土质)  
 64号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS)  
 2 黄褐色土  
 3 黄褐色土  
 66号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS)  
 2 黄褐色土

67号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS)  
 2 黄褐色土  
 68号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS)  
 2 黄褐色土 (L, R-LS)  
 69号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS)  
 2 黄褐色土  
 71号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-C-LS土质混入)  
 2 黄褐色土  
 74号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 2 黄褐色土 (L, R-LS土质混入)  
 3 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)

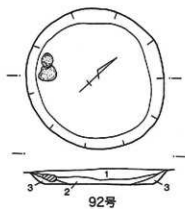
75·255·256号土坑  
 1 黄褐色土  
 2 黄褐色土  
 3 黄褐色土  
 4 黄褐色土  
 5 黄褐色土  
 6 黄褐色土  
 7 黄褐色土  
 8 黄褐色土  
 77号土坑  
 1 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 2 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 3 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)  
 4 黄褐色土 (L, R-LS少量混入)

第176图 土坑平面·断面图(8)

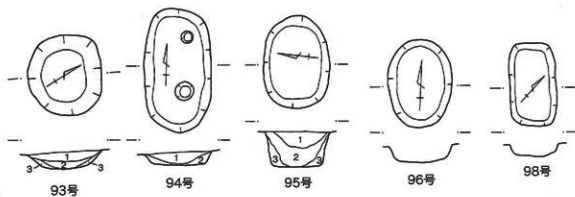




89号



92号



93号

94号

95号

96号

98号

89号土坑

- 1 青褐色土 (L, R, 粗人)
  - 2 灰褐色土 (L, R, 小L, 粗人)
- 92号土坑
- 1 灰褐色土 (L, R, 少, 粗人)
  - 2 青褐色土 (L, R, 多, 粗人)
  - 3 青灰色土 (L, R, 粗人)
- 93号土坑
- 1 灰褐色土 (L, R, 粗人)
  - 2 青灰色土 (L, R, 多, 粗人)
  - 3 黄褐色土 (L, R, 主, 粗)

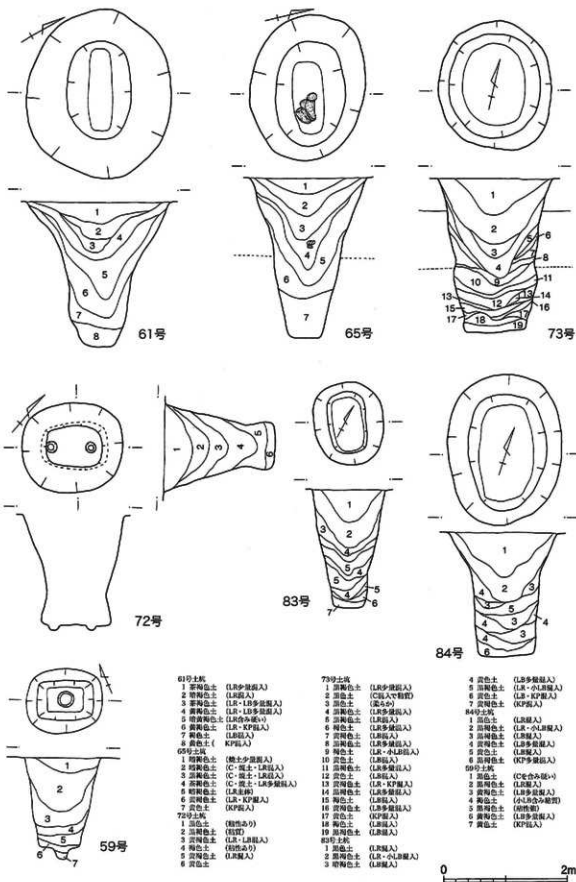
94号土坑

- 1 灰褐色土 (L, R, 粗人)
  - 2 青灰色土 (L, R, 多, 粗人)
- 95号土坑
- 1 灰褐色土 (粗)
  - 2 灰褐色土 (L, R, 少, L, 粗, 有9)
  - 3 黄褐色土 (L, R, 少, 粗人)

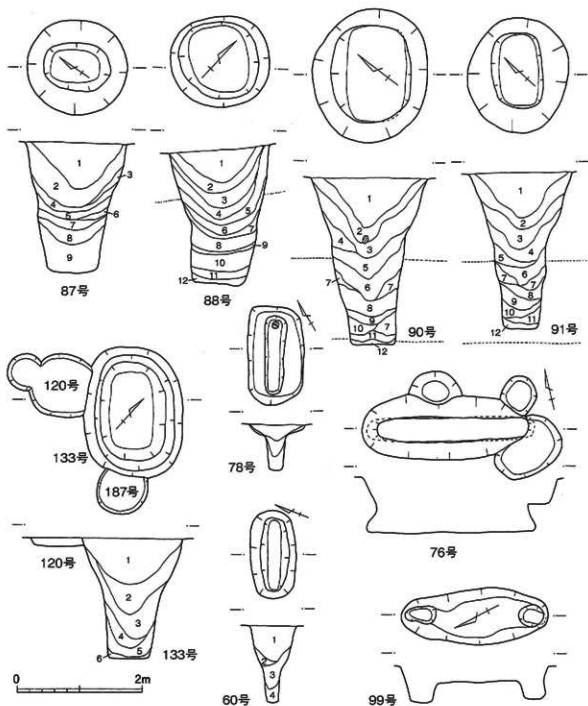
0 2m



第177图 土坑平面·断面图(9)



第178图 落とし穴状土坑平面・断面图(1)



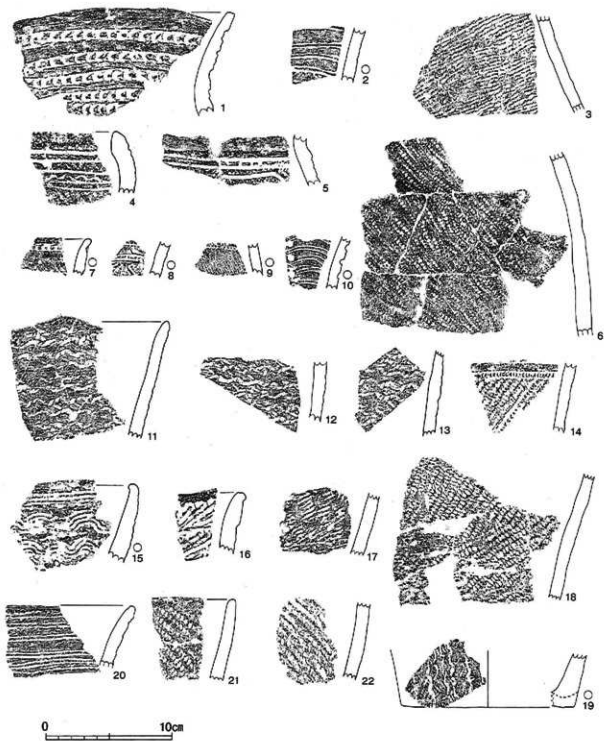
- 87号土坑  
 1 淤色土  
 2 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 3 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 4 淤褐色土 (LIR混入)  
 5 褐色土  
 6 淤褐色土  
 7 淤色土  
 8 淤褐色土 (LIR混入)  
 9 淤色土  
 88号土坑  
 1 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 2 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 3 淤褐色土 (C-LIR-少量混入)  
 4 淤褐色土 (LIR-LIR混入)  
 5 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 6 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 7 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 8 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 9 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 10 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 11 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 12 淤褐色土 (KP-少量混入)

- 9 淤色土 (KP混入)  
 10 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 11 淤褐色土 (LIR混入)  
 12 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 89号土坑  
 1 淤色土  
 2 淤褐色土 (LIR混入)  
 3 淤褐色土 (LIR-LIR混入)  
 4 淤褐色土 (LIR-LIR混入)  
 5 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 6 淤褐色土 (KP-LIR-少量混入)  
 7 淤褐色土 (KP-少量混入)  
 8 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 9 淤褐色土 (LIR混入)  
 10 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 11 淤褐色土 (LIR混入)  
 12 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 91号土坑  
 1 淤色土

- 2 淤褐色土 (LIR混入)  
 3 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 4 淤褐色土 (LIR-LIR混入)  
 5 淤褐色土 (LIR-LIR混入)  
 6 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 7 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 8 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 9 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 10 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 11 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 12 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 133号土坑  
 1 淤色土  
 2 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 3 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 4 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 5 淤褐色土 (LIR混入)  
 6 淤褐色土 (KP-LIR混入)  
 60号土坑  
 1 淤色土

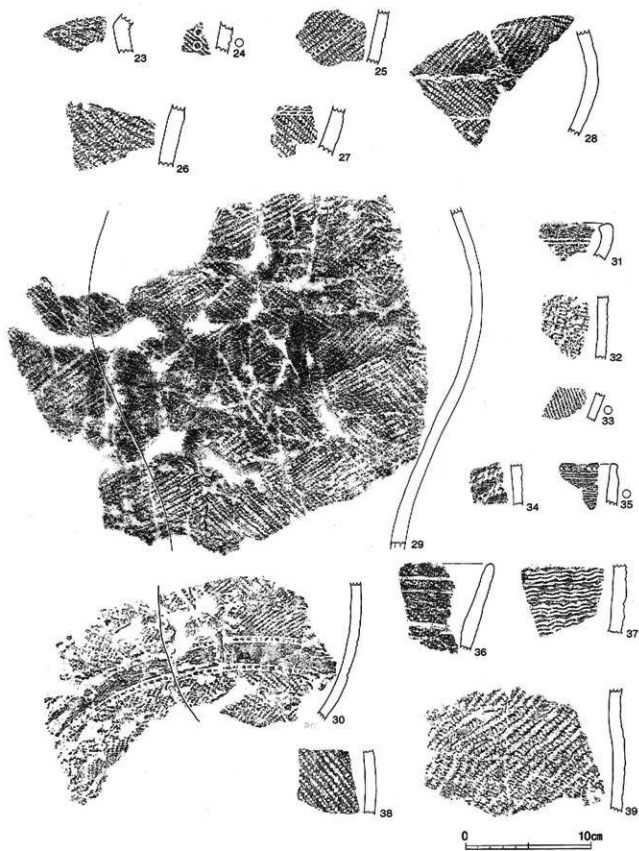
- 1 淤色土 (短槽型)  
 2 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 3 淤褐色土  
 4 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 76号土坑  
 1 淤褐色土  
 2 淤褐色土 (LIR混入)  
 3 淤褐色土 (LIR-少量混入)  
 4 淤褐色土 (LIR-少量混入)

第179图 落とし穴状土坑平面・断面图(2)

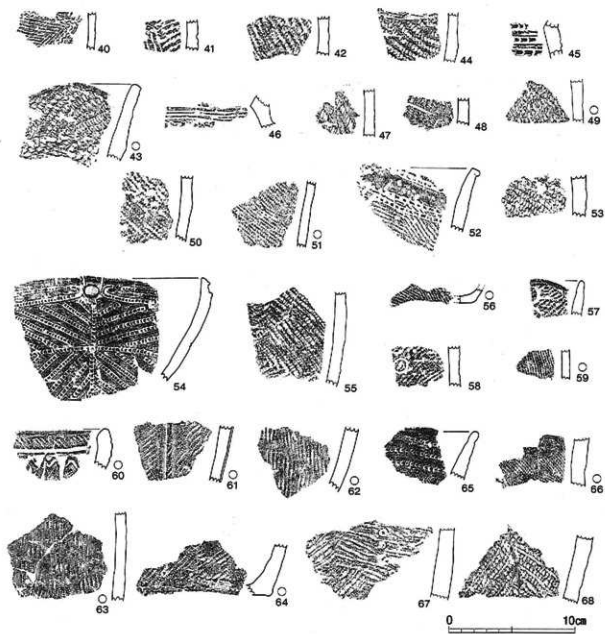


第180圖 土坑出土土器 (1)

(1: 60号, 2-3: 61号, 4~6: 62号, 7~10: 65号, 11~14: 70号,  
15: 80号, 16~18: 83号, 19: 84号, 20~22: 87号)

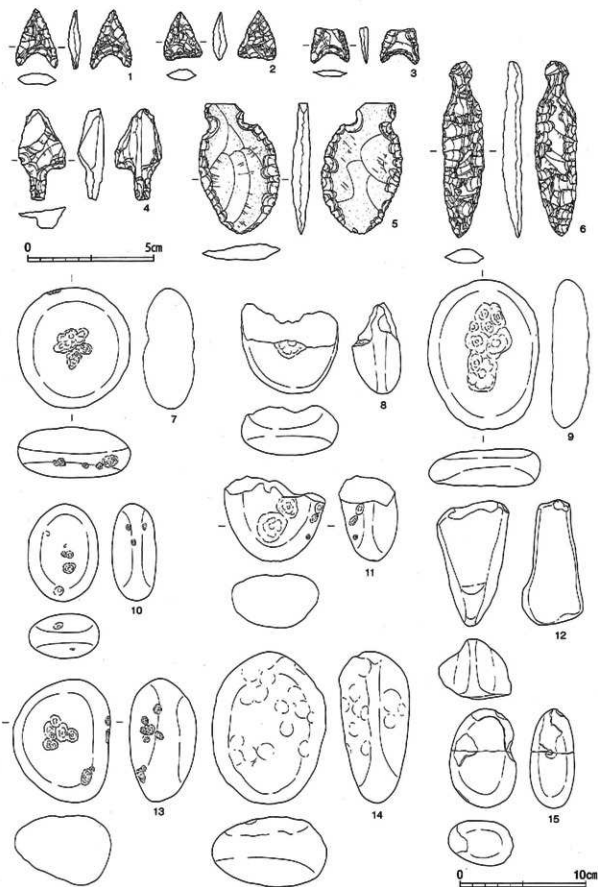


第181图 土坑出土土器(2)  
 (23~26: 87号, 27·28: 88号, 29·30: 80号,  
 31~34: 90号, 35: 91号, 36~39: 92号)



第182图 土坑出土土器(3)

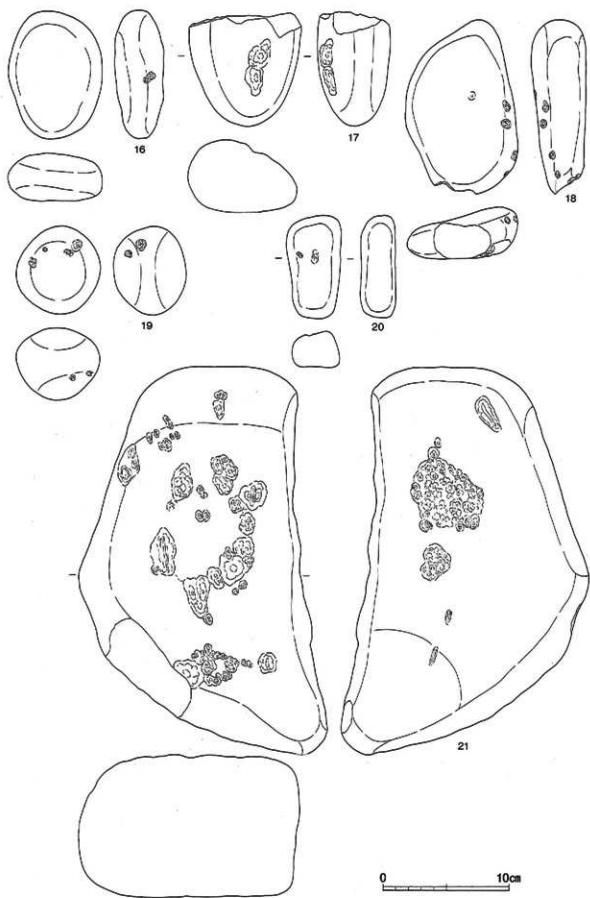
(40~42: 95号, 43: 110号, 44·45: 119号, 46·47: 121号, 48·49: 133号  
 50: 160号, 51: 161号, 52: 171号, 53: 172号, 54·55: 176号, 56·57: 190号  
 58·59: 200号, 60~64: 207号, 65·66: 216号, 67·68: 219号)



第183图 土坑出土石器(1)

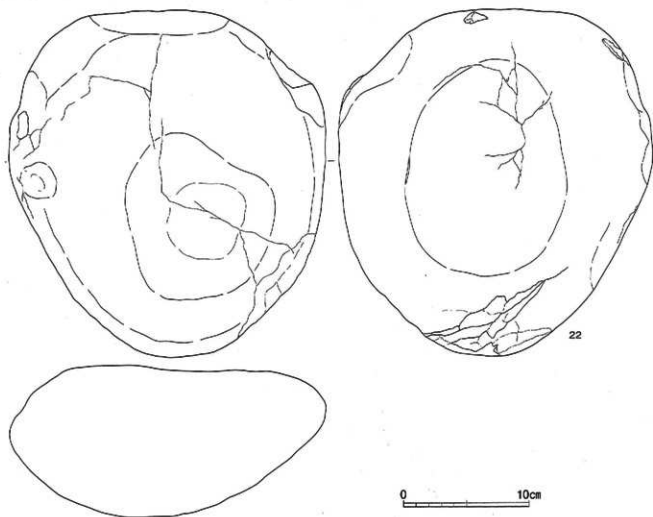
(1: 65号, 2: 88号, 3: 236号, 4: 80号, 5: 133号, 6: 61号, 7: 60号)  
 (8: 70号, 9: 84号, 10~11: 87号, 12: 88号, 13~15: 91号)





第184圖 土坑出土石器(2)

(16: 206号, 17: 121号, 18: 119号, 19: 224号, 20: 92号, 21: 65号)



第185図 土坑出土石器(3)

(22:224号)

第40表 土坑出土石器計測表

No	番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	No	番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質
1	65号	石鏃	2.3	1.7	0.4	0.93	チャート	12	87号	砥石	(9.9)	5.7	4.8	290	流紋岩
2	88号	石鏃	1.9	1.5	0.45	0.96	チャート	13	91号	磨石	9.7	7.5	5.8	510	安山岩
3	236号	石鏃	(1.4)	1.5	0.25	0.62	チャート	14	91号	磨石	12.1	9.1	5.6	880	砂岩
4	80号	石鏃?	3.6	1.8	0.7	4.44	チャート	15	91号	磨石	7.8	5.2	3.5	200	安山岩
5	133号	石鏃	5.2	3.2	0.6	10.11	流紋岩	16	206号	磨石	10.1	7.4	8.6	380	安山岩
6	61号	石鏃	6.9	1.7	0.7	8.40	チャート	17	121号	磨石	(8.7)	9.0	5.7	580	安山岩
7	60号	磨石	9.5	8.9	4.0	410	安山岩	18	119号	磨石	(13.8)	8.7	4.2	710	安山岩
8	70号	磨石	(7.2)	7.6	3.9	170	安山岩	19	224号	磨石	7.0	6.6	5.7	240	砂岩
9	84号	磨石	11.9	8.9	3.0	510	安山岩	20	92号	磨石	8.2	4.2	2.7	160	安山岩
10	87号	磨石	7.2	5.5	3.5	190	安山岩	21	65号	石皿	30.7	19.7	11.3	10,600	流紋岩
11	87号	磨石	(6.8)	8.1	4.7	290	安山岩	22	224号	石皿	27.4	25.0	12.0	11,100	安山岩

## 8 遺構外の出土遺物

今回の調査における土器出土量はコンテナ約80箱分と、遺構数・調査面積のわりには少なく、本遺跡の特徴の一つともなっている。特に中央広場内や住居・建物跡群の外側は少なく、僅かな破片資料が散見された程度である。また土器捨て場等の可能性を考え南西緩斜面部にトレンチ調査を実施したが、結果は同じであった。従って、遺構外出土土器資料については、掲載を割愛した。

一方、中央広場を中心にかなり多数の礫が出土している。拳大から人頭大の川原石が中心であるが、これらに混じって磨石・凹石・石皿等の石器類も一定量みられた。この分布域が墓坑群・土坑群と重なることから、その関係性が注目されたところであるが、集石等を示す資料はみられず、全体に散乱した状況であった。おそらく奈良時代における集落造営等をはじめ、後世の擾乱をかなり受けていたものと考えられる。

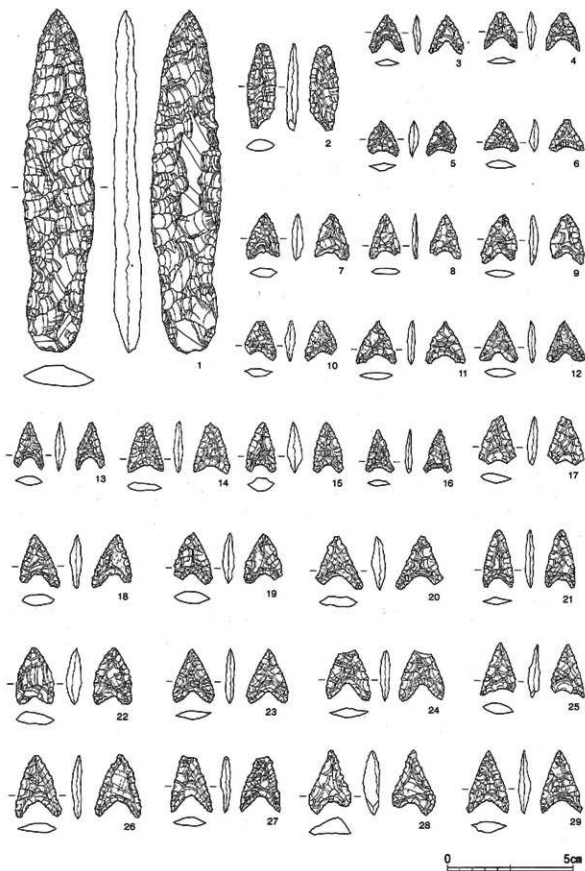


中央広場の礫出土状況

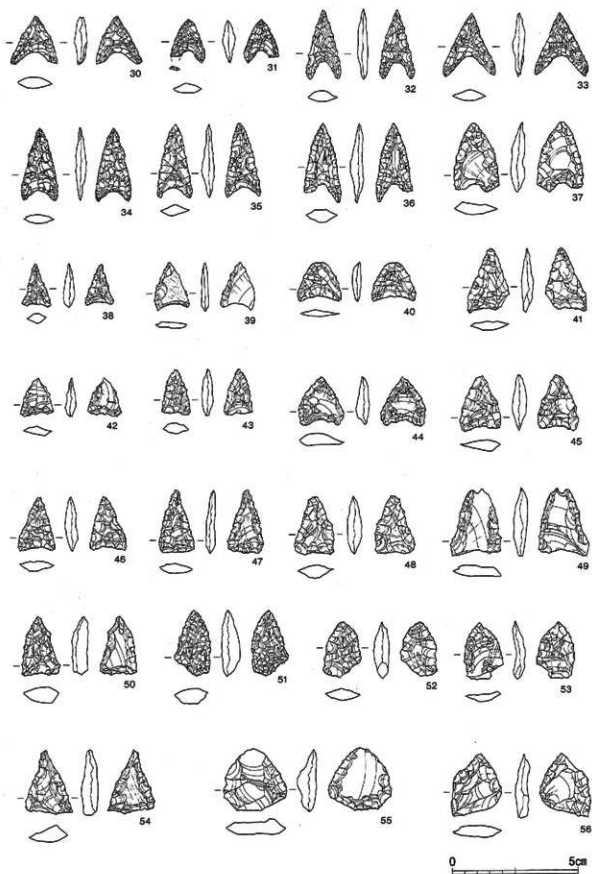
今回遺構外出土遺物として掲載した石器は、尖頭器・石槍2点、石鏃64点、石匙7点、削器7点、打製石斧5点、磨製石斧1点、磨石類（凹石含む）173点、石皿6点その他剥片・石核等である。

石鏃は基部の抉り込みの深い無茎のものが多く、全体の約6割を占める。次いで基部の平らな無形鏃が一定数みられ、有形鏃は僅か2点（第188図63・64）が確認されたのみである。石材的にはチャートが最も多く、全体の7割以上を占め、次いで黒曜石・頁岩等が一定量みられる。石匙は横型と縦型がほぼ半数で、石材的には石鏃と同様な傾向がみられる。なお、石斧の出土は極端に少なく、磨製石斧に至っては、遺構出土（第157図6）も含めて僅か2点という少なさである。

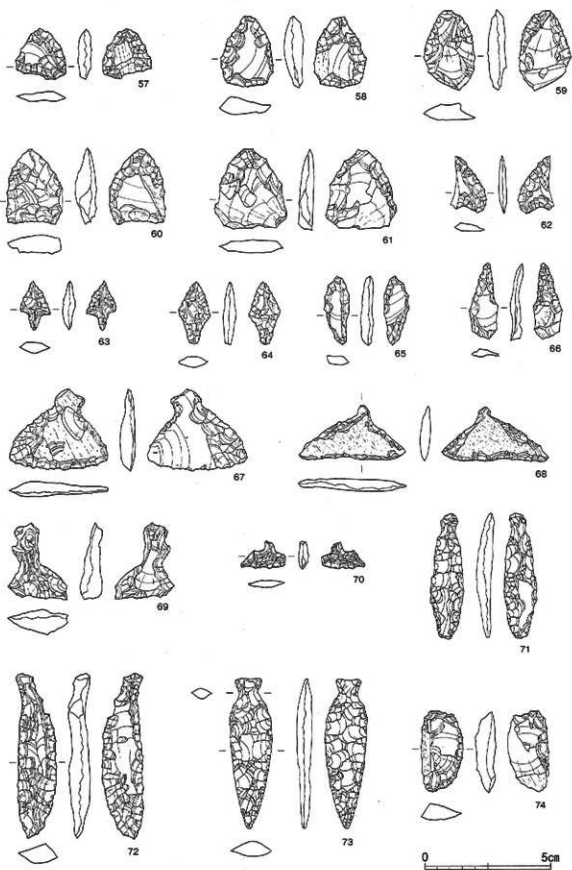
遺構外出土石器の中で最も多かったのは、遺構出土石器と同様に磨石類であった。形状は扁平円形もしくは楕円形の定型的なものから、不定形な川原石をそのまま使用したものまで様々で、大小差もかなりみられる。磨り面、敲き痕跡、凹み等がすべて確認できるものも多く見られ、多機能に使用されていた様子が窺われる。石材的には安山岩が圧倒的に多く、次いで流紋岩・砂岩等が一定量を占めている。なお石皿は、加工された定型的なものではなく、平たくて大きめの川原石（第206図282～第208図285・第209図289）を台石のように使用したものが多く見られる。



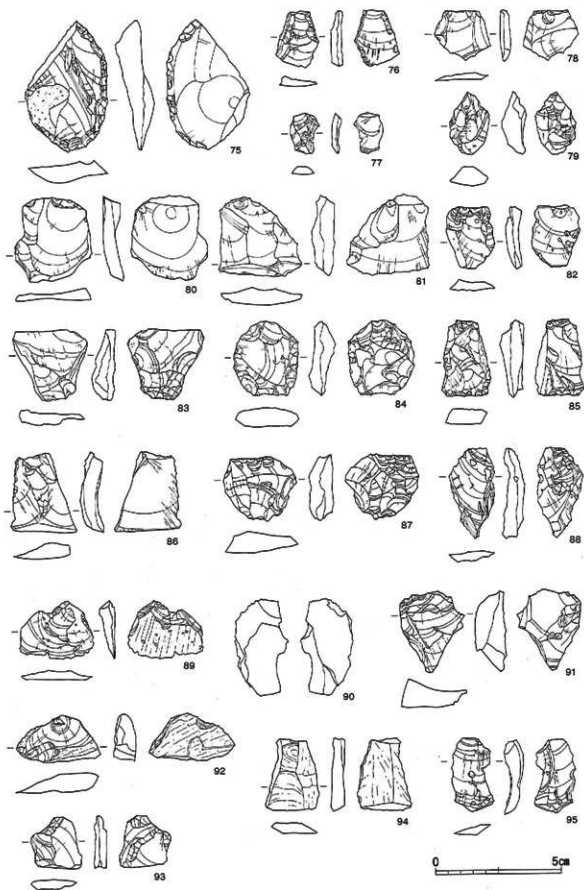
第186圖 遺構外出土石器 (1)



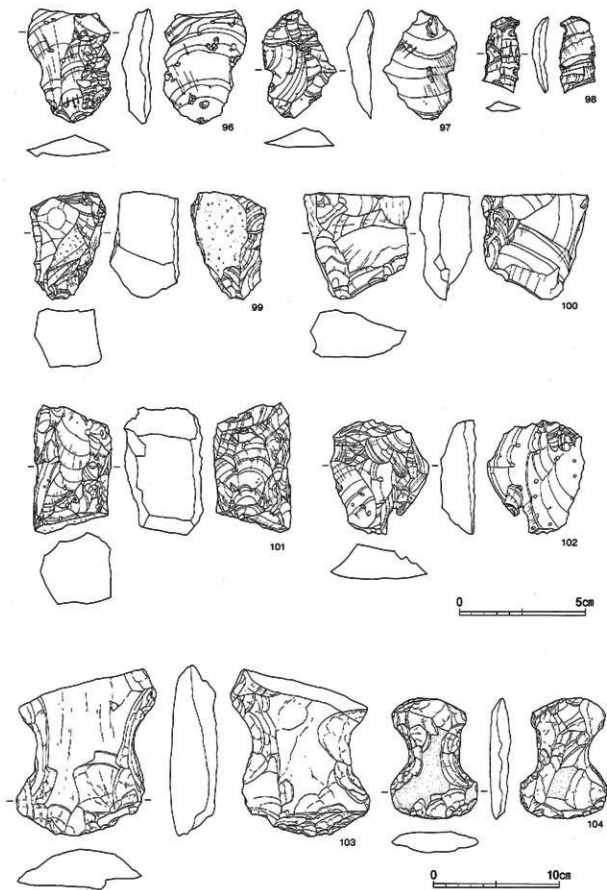
第187圖 遺構外出土石器(2)



第188圖 遼構外出土石器 (3)

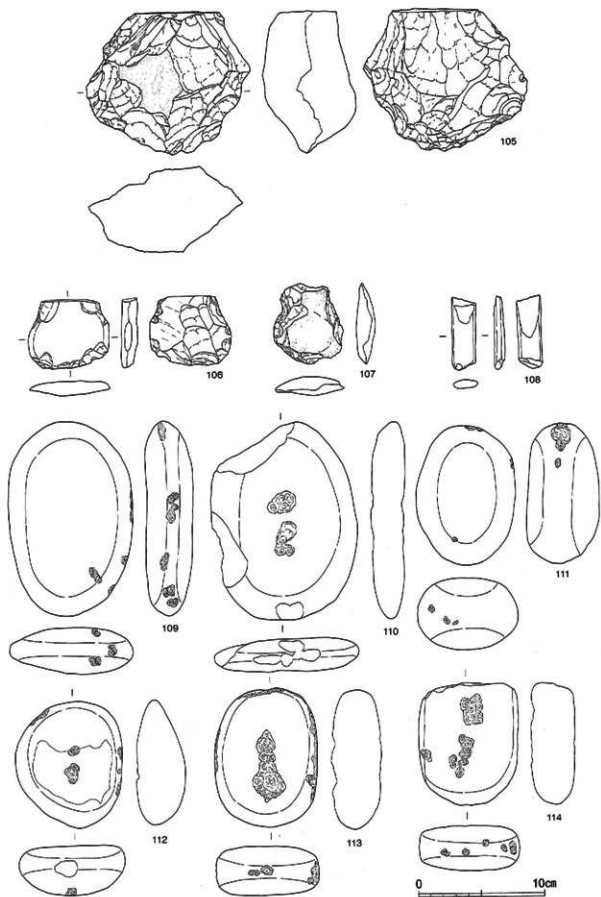


第189圖 遺構外出土石器(4)

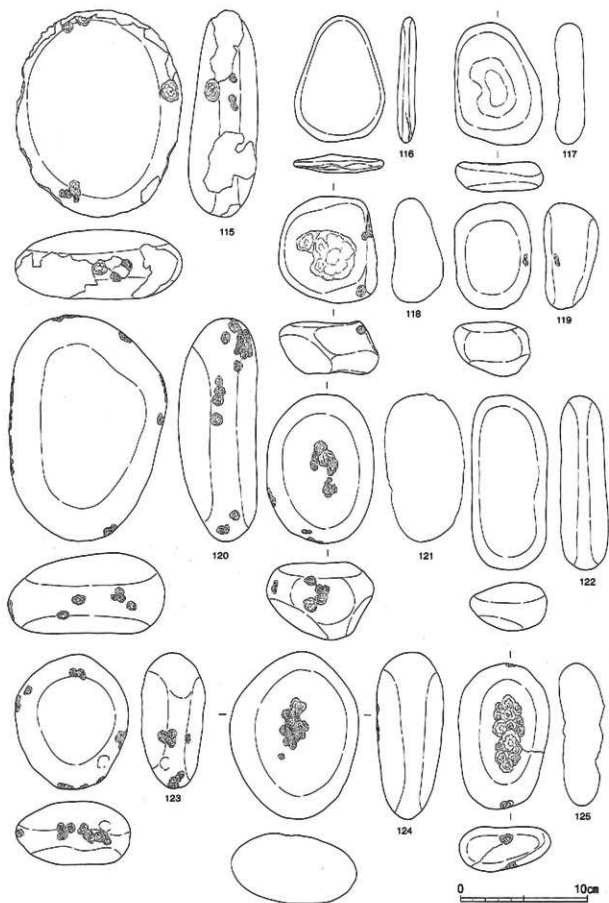


第190圖 遺構外出土石器 (5)

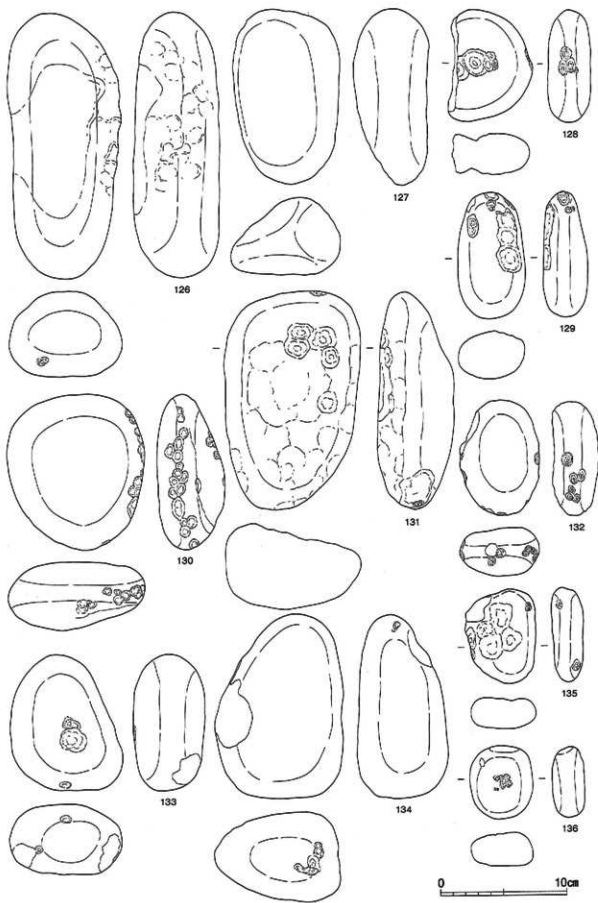




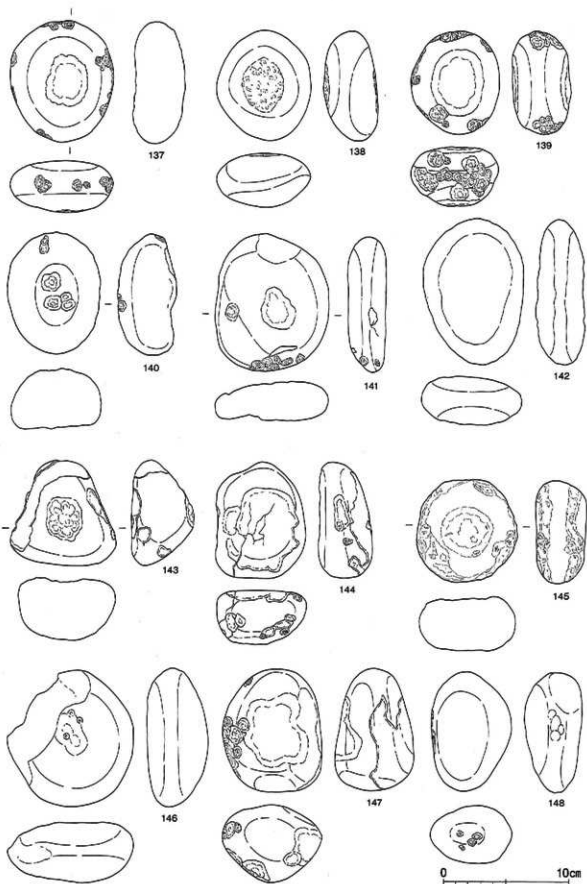
第191圖 遺構外出土石器(6)



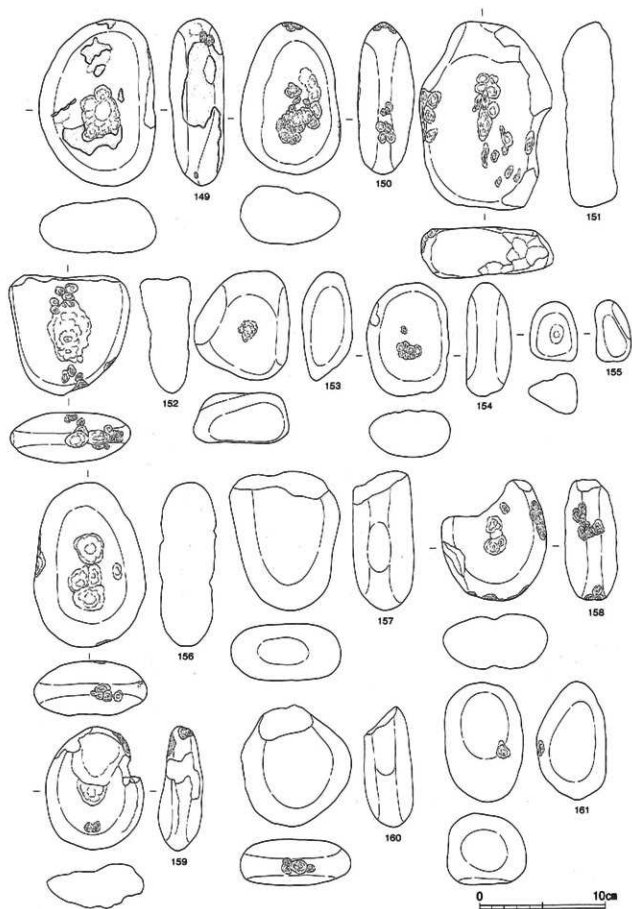
第192圖 遼東外出土石器 (7)



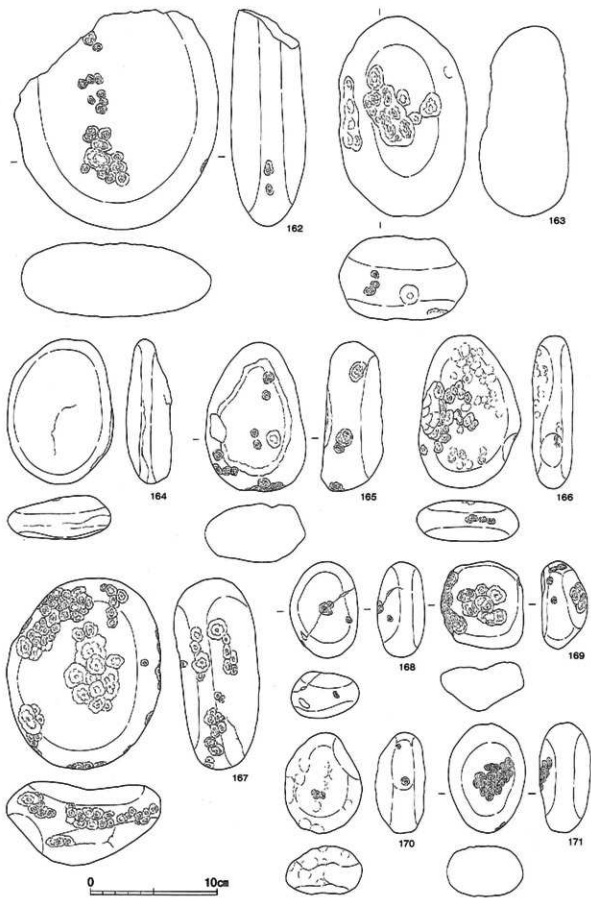
第193圖 遺構外出土石器 (8)



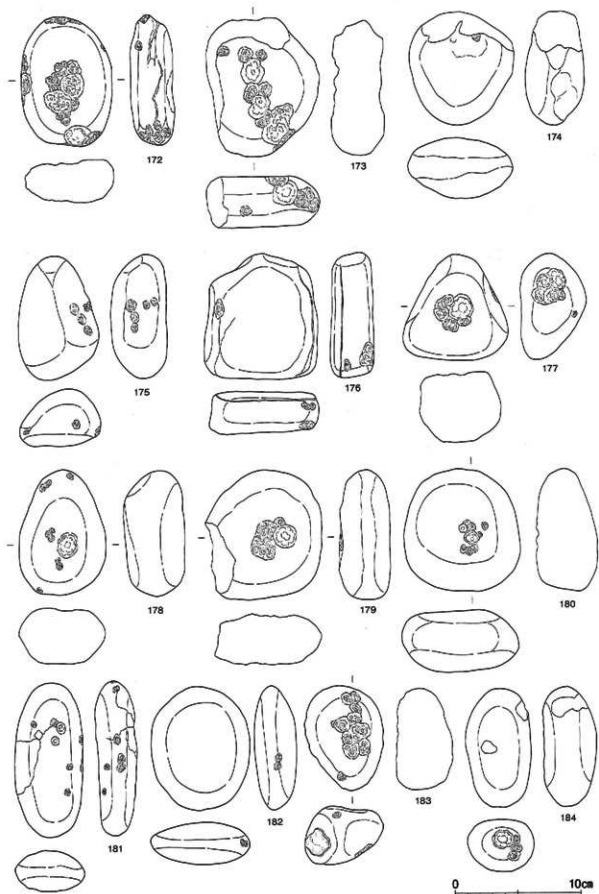
第194圖 遺構外出土石器(9)



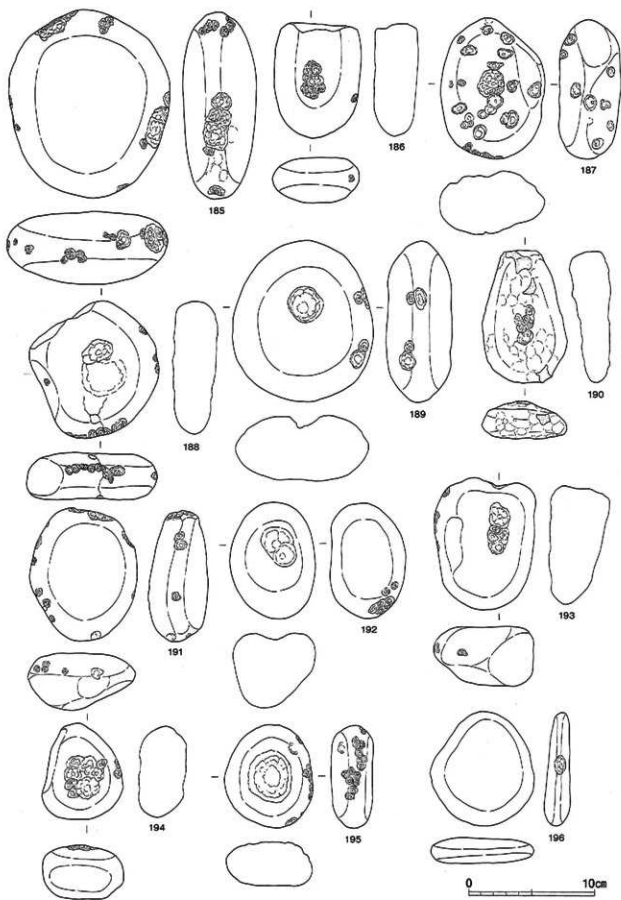
第195図 遺構外出土石器 (10)



第196圖 遺構外出土石器 (11)

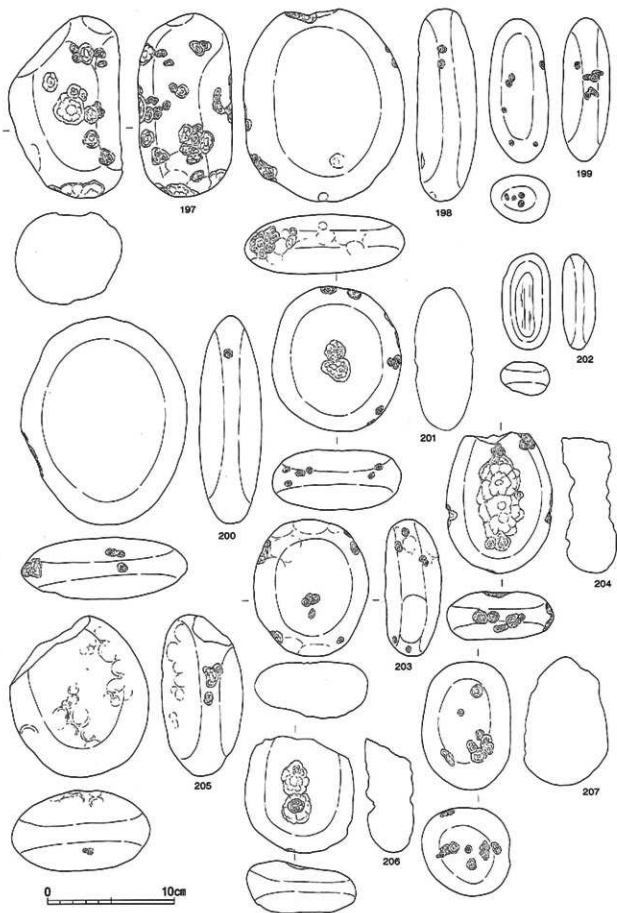


第197圖 遺構外出土石器 (12)

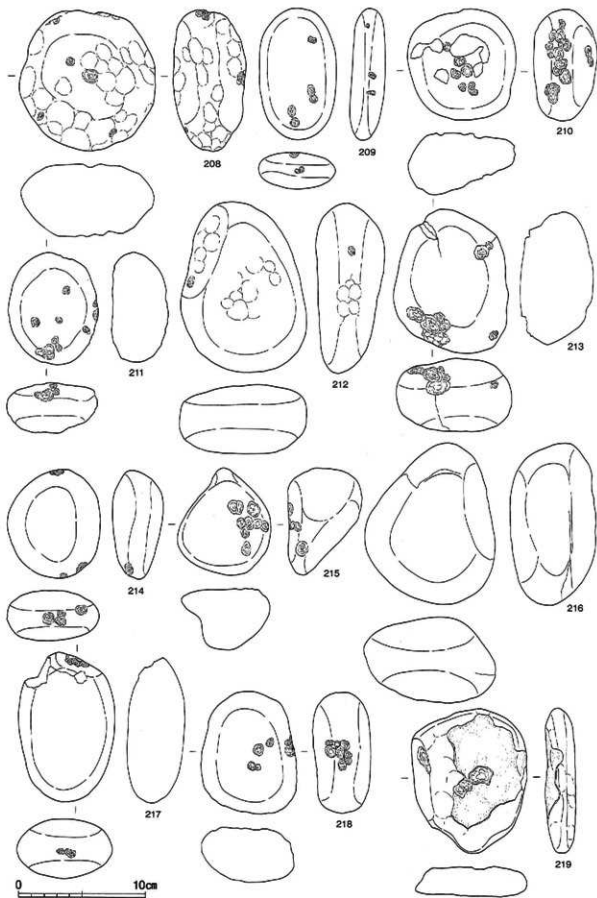


第198回 遺構外出土石器 (13)

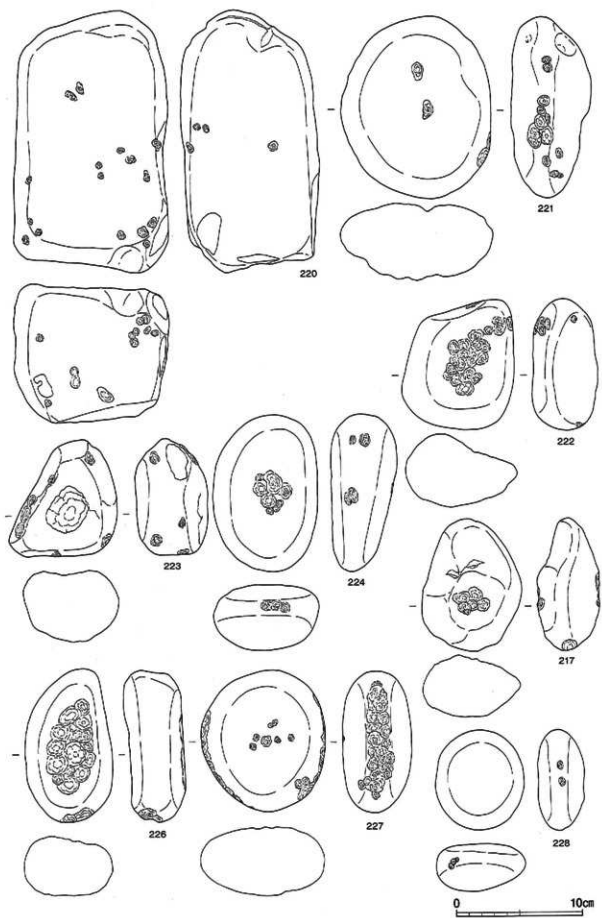




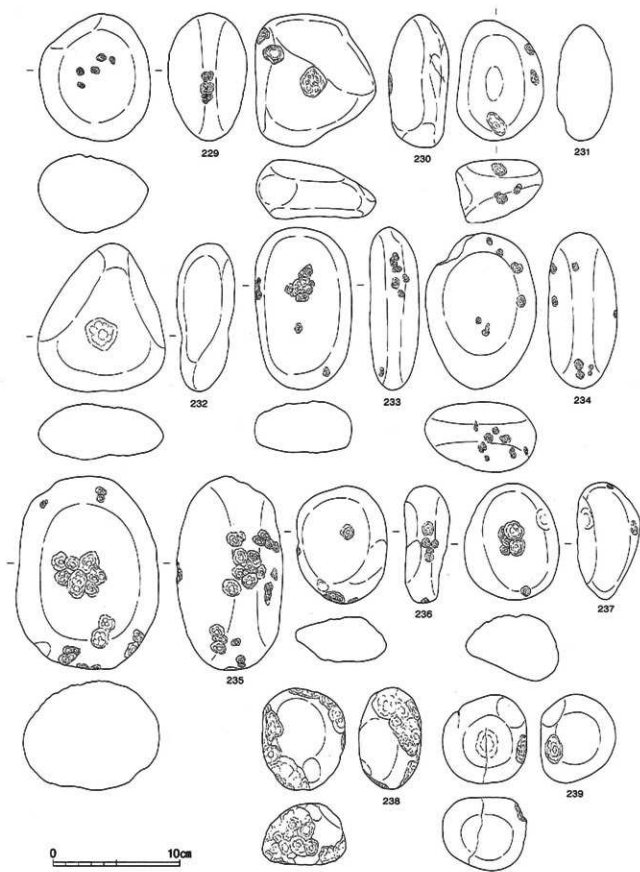
第199圖 遺構外出土石器 (14)



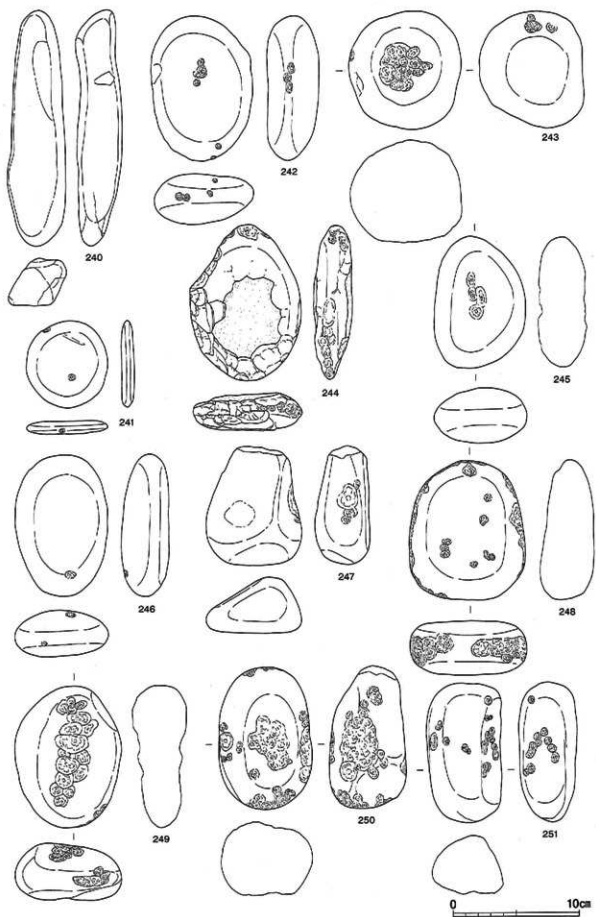
第200回 遺構外出土石器 (15)



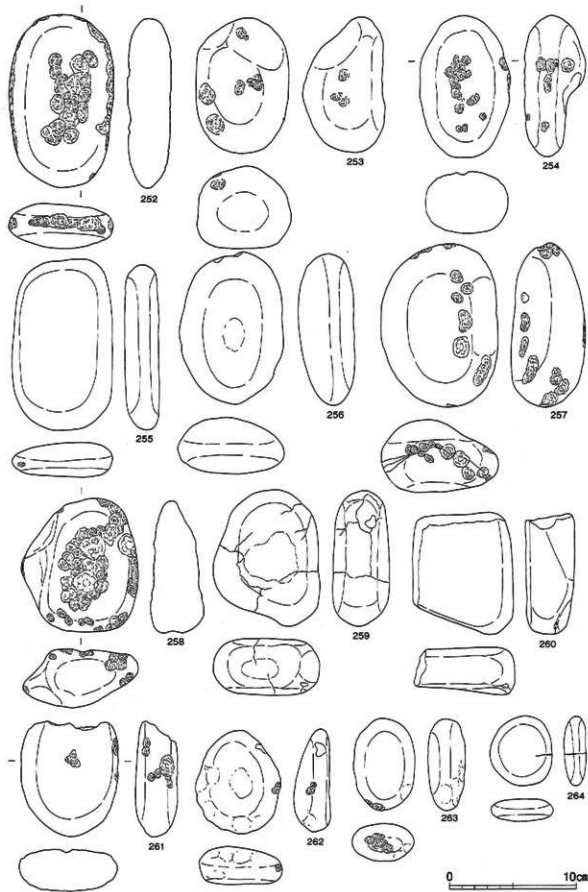
第201圖 遺構外出土石器 (16)



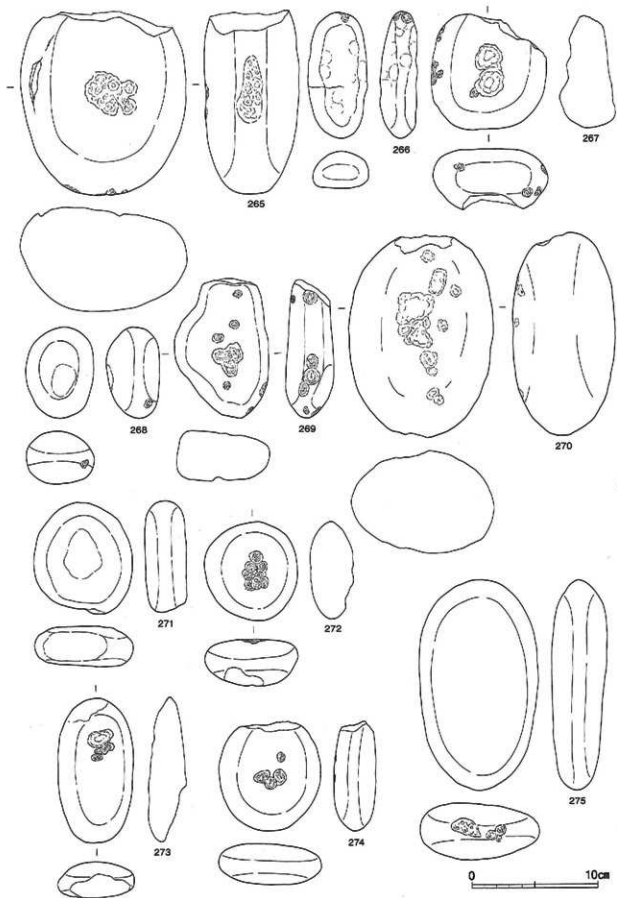
第202圖 遺構外出土石器 (17)



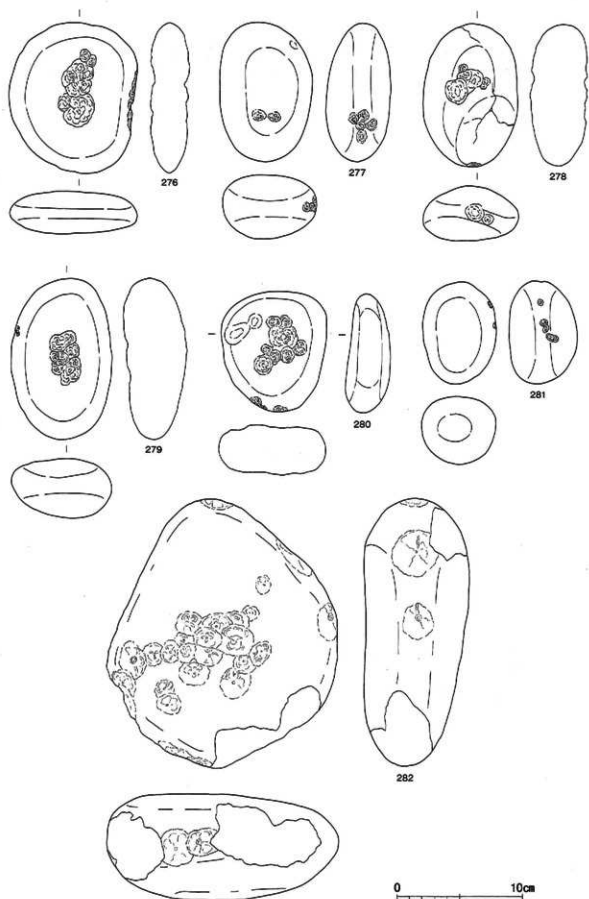
第203圖 遺構外出土石器 (18)



第204圖 遺構外出土石器 (19)

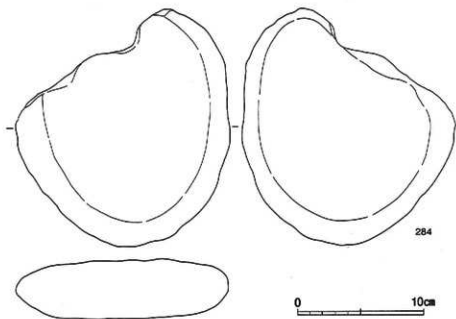
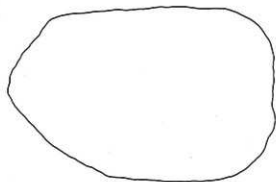
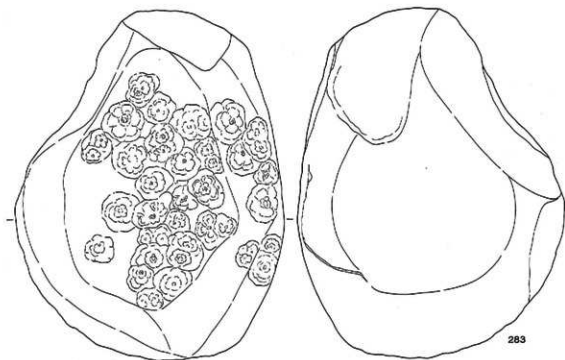


第205図 遺構外出土石器 (20)

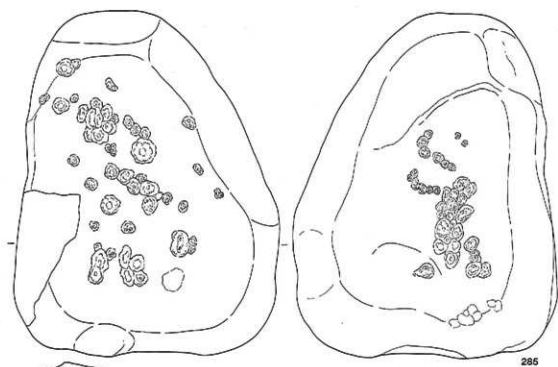


第206图 遺構外出土石器 (21)

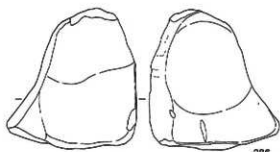
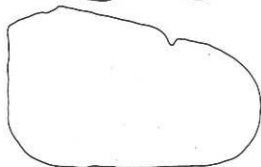




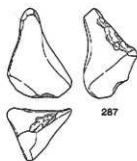
第207図 遺構外出土石器(22)



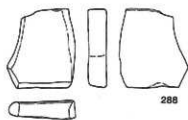
285



286



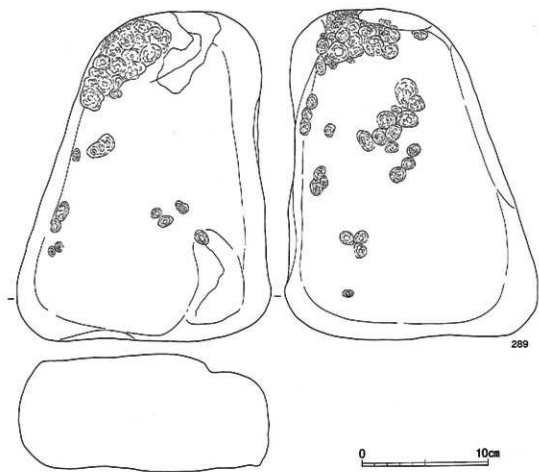
287



288



第208圖 遺構外出土石器 (23)



第209図 遺構外出土石器 (24)

第41表 遺構外出土石器計測表(1)

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地	No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地
1	石槍	13.5	2.8	1.0	37.12	埴質頁岩	G-32-6	50	石鏃	2.3	1.4	0.6	2.16	チャート	E-32-4
2	尖頭器	3.4	1.1	0.4	1.66	チャート	F-30-8	51	石鏃	2.6	1.5	0.6	2.43	玉髄	E-29-5
3	石鏃	1.5	1.4	0.25	0.32	埴質頁岩	F-32-1	52	石鏃	2.2	1.5	0.45	1.72	玉髄	G-31-1
4	石鏃	1.5	1.35	0.25	0.38	チャート	F-31-4	53	石鏃	2.3	1.5	0.25	1.05	黒曜石	D-30-8
5	石鏃	1.4	1.2	0.3	0.39	チャート	F-32-1	54	石鏃	2.4	1.7	0.6	2.11	チャート	E-31-15
6	石鏃	1.2	1.3	0.3	0.37	凝灰岩	F-33-2	55	石鏃	2.2	2.2	0.6	3.80	チャート	E-32-4
7	石鏃	1.8	1.3	0.35	0.86	チャート	F-31-7	56	石鏃	2.5	2.0	0.5	2.68	チャート	D-30-4
8	石鏃	1.8	1.2	0.2	0.33	チャート	D-28-7	57	石鏃	2.0	1.9	0.4	1.88	チャート	F-31-5
9	石鏃	2.0	1.45	0.3	0.66	チャート	G-31-16	58	石鏃	2.8	2.0	0.7	4.42	チャート	E-32-4
10	石鏃	(1.6)	1.3	0.3	0.53	チャート	D-30-7	59	石鏃	3.2	2.0	0.7	4.32	チャート	E-27-12
11	石鏃	1.7	1.6	0.3	0.51	黒曜石	F-32-10	60	石鏃	3.0	2.2	0.7	5.29	チャート	D-28-14
12	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.48	チャート	E-31-13	61	石鏃	3.2	2.8	0.5	6.20	チャート	H-31-14
13	石鏃	1.9	1.1	0.4	0.45	チャート	F-28-14	62	石鏃	2.3	1.5	0.25	0.69	黒曜石	D-31-8
14	石鏃	(2.0)	1.4	0.3	0.70	チャート	C-29-8	63	石鏃	1.9	1.2	0.4	0.70	チャート	E-31-11
15	石鏃	2.0	1.2	0.5	0.74	頁岩	E-28-5	64	石鏃	2.5	1.3	0.4	0.98	チャート	D-30-7
16	石鏃	1.7	1.2	0.2	0.30	チャート	F-30-2	65	石鏃?	2.7	1.0	0.4	1.33	玉髄	G-31-9
17	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.71	チャート	F-30-7	66	石鏃?	3.0	1.2	0.3	1.03	チャート	D-30-7
18	石鏃	2.1	1.5	0.4	0.89	チャート	D-30-12	67	石鏃	3.2	3.9	0.6	5.53	頁岩	E-27-15
19	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.93	チャート	F-30-10	68	石鏃	2.2	4.2	0.4	3.06	玉髄	H-32-5
20	石鏃	2.2	1.8	0.4	0.92	チャート	E-30-14	69	石鏃	3.0	2.3	0.8	3.60	赤色チャート	E-27-12
21	石鏃	2.3	1.2	0.25	0.70	チャート	G-29-8	70	石鏃	1.1	1.7	0.3	0.48	黒曜石	H-30-2
22	石鏃	2.2	1.5	0.5	1.37	黒曜石	E-33-1	71	石鏃	5.0	1.3	0.6	3.36	チャート	E-29-8
23	石鏃	2.2	1.6	0.35	0.85	チャート	E-30-14	72	石鏃	6.5	1.55	0.8	7.50	チャート	F-31-15
24	石鏃	(2.0)	1.8	0.4	0.92	チャート	C-29-8	73	石鏃	5.9	1.7	0.6	4.92	埴質頁岩	C-30-4
25	石鏃	2.1	1.3	0.4	0.73	チャート	E-31-4	74	削器	3.2	1.6	0.65	3.83	チャート	G-30-9
26	石鏃	2.5	1.7	0.3	1.20	頁岩	F-30-5	75	削器	5.6	3.3	0.7	15.09	チャート	E-30-5
27	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.94	チャート	E-32-4	76	削器	2.2	1.7	0.35	1.23	黒曜石	D-32-4
28	石鏃	2.5	1.7	0.6	1.86	チャート	E-29-1	77	剥片	1.6	1.2	0.3	0.48	黒曜石	D-32-4
29	石鏃	2.5	1.7	0.3	1.09	チャート	D-30-7	78	剥片	1.6	2.0	2.2	1.64	チャート	C-28-12
30	石鏃	1.9	1.8	0.5	0.99	流紋岩	G-30-7	79	剥片	2.5	1.6	0.8	2.36	黒曜石	D-30-1
31	石鏃	1.7	1.5	0.5	0.57	黒曜石	G-32-2	80	剥片	3.3	3.0	0.5	6.12	チャート	C-28-12
32	石鏃	2.7	1.4	0.4	1.02	流紋岩	G-29-15	81	剥片	3.1	3.3	0.6	8.36	チャート	C-28-16
33	石鏃	2.5	2.1	0.4	1.03	チャート	G-30-5	82	剥片	2.4	2.0	0.4	1.83	黒曜石	D-29-7
34	石鏃	2.8	1.4	0.4	1.24	チャート	H-32-2	83	削器	2.8	3.0	0.4	5.84	赤色チャート	E-30-5
35	石鏃	2.9	1.4	0.4	1.13	埴質頁岩	G-28-14	84	削器	2.9	2.6	0.7	6.64	チャート	C-29-11
36	石鏃	3.1	1.5	0.55	1.25	埴質頁岩	G-27-16	85	削器	3.0	2.1	0.6	5.19	チャート	D-30-8
37	石鏃	2.7	1.8	0.4	2.22	チャート	D-31-8	86	剥片	3.2	2.6	0.6	5.65	チャート	D-30-15
38	石鏃	1.7	1.1	0.35	0.50	チャート	G-32-6	87	削器	2.6	3.0	0.7	6.39	玉髄	D-30-6
39	石鏃	1.9	1.4	0.2	0.57	チャート	D-30-7	88	剥片	3.6	1.9	0.6	3.25	黒曜石	D-31-10
40	石鏃	1.55	1.7	0.25	0.68	チャート	G-28-11	89	剥片	2.3	3.0	0.35	2.63	黒曜石	D-31-9
41	石鏃	2.5	1.6	0.35	1.26	赤色チャート	G-28-6	90	剥片	3.2	2.5	1.1	7.47	赤色チャート	E-29-5
42	石鏃	1.55	1.3	0.3	0.43	黒曜石	F-30-6	91	※88と95の黒曜石剥片の接合部						
43	石鏃	1.8	1.1	0.4	0.66	チャート	E-28-14	92	剥片	1.9	3.4	0.7	5.38	チャート	D-31-10
44	石鏃	1.9	1.8	0.5	1.36	黒曜石	F-29-13	93	剥片	2.1	2.0	0.4	2.21	チャート	E-27-12
45	石鏃	2.2	1.6	0.45	1.52	チャート	G-28-9	94	剥片	2.8	2.1	0.4	2.71	粘板岩	E-27-4
46	石鏃	2.1	1.5	0.4	0.99	チャート	D-28-5	95	剥片	2.9	1.7	0.3	2.55	黒曜石	D-31-10
47	石鏃	2.5	1.4	0.4	1.08	チャート	E-30-16	96	剥片	4.5	3.3	0.8	11.90	黒曜石	D-32-4
48	石鏃	2.3	1.6	0.5	1.50	チャート	D-29-11	97	剥片	4.2	2.8	0.9	6.63	黒曜石	D-29-11
49	石鏃	2.7	2.0	0.5	2.80	チャート	E-30-16	98	剥片	3.0	1.4	0.4	1.70	黒曜石	H-32-11

第42表 遺構外出土石器計測表(2)

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地	No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地
99	石核	4.0	2.9	2.7	36.95	玉髄	E-29-5	148	磨石	9.6	6.5	4.8	394	安山岩	E-30-11
100	石核	4.2	4.2	1.85	37.70	チャート	G-31-3	149	磨石	13.2	9.3	4.3	751	流紋岩	E-32-1
101	石核	5.1	2.8	2.9	58.42	黒曜石	D-30-15	150	磨石	12.1	7.9	4.8	662	砂岩	E-32-1
102	薄片	4.5	3.7	1.8	19.95	黒曜石	E-31-7	151	磨石	15.0	10.5	3.8	1,770	安山岩	E-32-12
103	石弁	13.2	9.8	3.3	570	流紋岩	G-32-3	152	磨石	(9.5)	9.5	4.1	461	安山岩	E-32-13
104	石弁	9.6	6.8	1.6	119	安山岩	F-33-6	153	磨石	8.6	7.5	3.7	362	安山岩	E-32-12
105	石弁 (11.3)	12.8	5.8	340	流紋岩	P-31-5	154	磨石	9.0	6.5	3.5	318	安山岩	E-32-7	
106	石弁 (5.4)	6.4	1.2	70	流紋岩	G-28-11	155	磨石	4.8	3.7	3.2	82	安山岩	E-32-12	
107	石弁 (6.4)	5.5	1.6	50	安山岩	E-32-10	156	磨石	13.0	8.9	4.3	570	砂岩	E-33-1	
108	磨製石弁 (5.8)	1.9	0.7	15	粘板岩	G-32-6	157	磨石 (11.0)	8.7	4.8	7.0	701	安山岩	F-27-14	
109	磨石	15.4	9.8	3.5	760	安山岩	E-28-4	158	磨石 (9.5)	8.3	4.1	374	安山岩	F-27-14	
110	磨石	15.6	11.5	2.7	585	流紋岩	E-28-16	159	磨石	9.8	7.2	3.5	319	安山岩	F-27-14
111	磨石	10.9	7.8	5.4	625	流紋岩	E-28-8	160	磨石	9.7	8.7	3.8	437	安山岩	F-28-6
112	磨石	10.0	8.4	4.0	451	安山岩	E-28-8	161	磨石	9.5	6.4	5.5	517	安山岩	F-28-2
113	磨石	11.0	8.1	4.0	470	安山岩	E-28-15	162	磨石 (17.3)	15.5	5.4	1,762	安山岩	F-28-6	
114	磨石 (9.8)	7.8	3.5	447	安山岩	E-28-16	163	磨石	15.8	10.2	7.1	1,352	安山岩	F-28-13	
115	磨石	16.3	13.1	5.5	1,587	流紋岩	E-28-16	164	磨石	11.5	8.4	3.7	479	安山岩	F-28-10
116	磨石	9.9	7.2	1.4	140	安山岩	E-28-8	165	磨石	11.8	7.8	4.9	617	安山岩	F-28-2
117	磨石	9.7	6.9	2.4	260	安山岩	E-28-7	166	磨石	12.1	8.1	3.2	423	安山岩	F-29-6
118	磨石	8.4	7.8	4.0	410	安山岩	E-29-2	167	磨石	15.1	12.1	6.7	1,716	安山岩	F-29-6
119	磨石	8.4	6.0	4.2	325	安山岩	E-29-3	168	磨石	7.6	5.4	3.7	200	安山岩	F-29-7
120	磨石	17.8	12.4	6.4	2,050	砂岩	E-29-3	169	磨石	7.0	6.5	3.5	217	安山岩	F-29-7
121	磨石	11.9	8.5	6.0	880	安山岩	E-29-1	170	磨石	8.1	6.1	4.0	245	安山岩	F-29-7
122	磨石	13.8	6.1	4.1	505	安山岩	E-29-1	171	磨石	8.7	6.1	4.0	264	安山岩	F-29-14
123	磨石	10.7	9.0	4.9	560	安山岩	E-29-1	172	磨石	10.3	7.1	3.5	367	安山岩	F-29-6
124	磨石	13.3	10.1	5.3	1,001	安山岩	E-29-4	173	磨石	11.0	9.0	4.2	585	安山岩	F-29-6
125	磨石	11.5	7.2	3.5	428	安山岩	E-30-1	174	磨石 (9.0)	8.3	4.2	470	安山岩	F-29-6	
126	磨石	21.0	9.0	7.2	2,030	安山岩	E-29-3	175	磨石	9.8	6.5	4.4	378	安山岩	F-29-6
127	磨石	13.7	8.6	5.7	985	安山岩	E-30-12	176	磨石	10.0	9.0	3.5	536	砂岩	F-29-7
128	磨石 (6.8)	8.9	3.2	260	安山岩	E-30-1	177	磨石	8.4	8.3	5.0	423	安山岩	F-29-15	
129	磨石	10.0	5.4	3.6	290	安山岩	E-30-11	178	磨石	10.0	6.9	4.9	483	安山岩	F-29-14
130	磨石	12.3	10.8	5.4	1,000	流紋岩	E-30-1	179	磨石	10.3	9.2	4.0	566	安山岩	F-29-14
131	磨石	9.1	6.3	3.8	273	安山岩	E-30-1	180	磨石	9.6	9.2	5.1	647	砂岩	F-29-14
132	磨石	17.2	10.7	6.0	1,734	石灰岩	E-30-11	181	磨石	12.2	5.5	3.2	328	灰岩	F-29-14
133	磨石	10.0	5.4	3.6	290	流紋岩	E-30-11	182	磨石	8.8	7.8	3.3	357	安山岩	F-29-13
134	磨石	14.7	10.2	7.0	1,470	安山岩	E-30-15	183	磨石	8.3	6.3	4.6	277	安山岩	F-29-7
135	磨石	7.6	5.7	2.5	130	安山岩	E-30-11	184	磨石	9.5	5.2	4.2	316	安山岩	F-29-14
136	磨石	5.8	5.0	2.5	120	安山岩	E-30-1	185	磨石	14.9	12.8	5.9	1,539	安山岩	F-29-13
137	磨石	9.7	8.2	4.0	454	安山岩	E-30-1	186	磨石	9.0	6.8	3.6	362	安山岩	F-29-15
138	磨石	8.7	7.5	4.3	380	安山岩	E-30-8	187	磨石	11.1	8.3	4.9	584	安山岩	F-29-13
139	磨石	8.2	7.0	4.6	370	流紋岩	E-30-2	188	磨石	10.9	10.2	3.5	547	安山岩	F-29-14
140	磨石	9.6	7.2	4.8	465	流紋岩	E-30-2	189	磨石	12.7	11.1	5.2	856	安山岩	F-29-15
141	磨石	10.8	9.0	2.6	443	安山岩	E-30-5	190	磨石	10.6	6.7	3.0	257	安山岩	F-30-1
142	磨石	10.5	8.0	3.7	505	安山岩	E-30-2	191	磨石	10.5	8.5	4.7	559	安山岩	F-30-2
143	磨石	8.4	8.3	4.6	352	安山岩	E-30-7	192	磨石	9.2	6.8	6.0	491	安山岩	F-30-1
144	磨石	9.2	7.2	3.9	400	安山岩	E-30-15	193	磨石	10.5	8.0	4.7	563	安山岩	F-30-2
145	磨石	8.0	8.0	4.1	405	安山岩	E-30-11	194	磨石	7.6	6.3	4.0	264	安山岩	F-30-6
146	磨石	10.7	9.8	4.7	675	流紋岩	E-30-10	195	磨石	8.2	6.9	3.3	275	安山岩	F-30-13
147	磨石	9.7	7.8	6.0	662	安山岩	E-30-15	196	磨石	9.0	8.2	2.0	199	安山岩	F-30-12

第43表 遺構外出土石器計測表(3)

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地	No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地
197	磨石	14.4	8.8	7.4	1,377	安山岩	F-30-1	244	磨石	12.3	8.8	3.0	442	安山岩	G-31-9
198	磨石	15.2	12.7	4.7	1,470	安山岩	F-30-5	245	磨石	10.5	7.2	4.0	415	安山岩	G-31-2
199	磨石	11.4	4.7	3.8	295	安山岩	F-30-7	246	磨石	11.2	7.4	3.7	433	流紋岩	G-31-6
200	磨石	16.4	13.1	4.9	1,196	安山岩	F-30-8	247	磨石	(9.5)	7.6	4.5	406	安山岩	G-31-7
201	磨石	11.6	10.2	4.8	839	安山岩	F-30-16	248	磨石	11.0	9.2	4.3	703	安山岩	G-31-9
202	磨石	7.6	3.8	2.6	109	安山岩	F-30-10	249	磨石	11.3	8.5	4.5	494	安山岩	G-31-8
203	磨石	10.9	9.1	4.5	684	安山岩	F-30-5	250	磨石	11.3	7.3	6.2	694	砂岩	G-31-9
204	磨石	(11.1)	8.5	3.9	425	安山岩	F-30-6	251	磨石	11.1	5.9	4.6	472	安山岩	G-31-1
205	磨石	12.8	11.0	6.5	1,229	安山岩	F-30-14	252	磨石	13.3	8.2	3.5	586	安山岩	G-31-6
206	磨石	(9.3)	8.5	3.6	341	安山岩	F-30-3	253	磨石	10.3	7.4	6.5	757	安山岩	G-31-3
207	磨石	10.2	7.0	7.0	707	安山岩	F-30-5	254	磨石	11.3	7.2	4.8	483	砂岩	G-32-7
208	磨石	11.2	10.7	5.8	852	安山岩	F-31-1	255	磨石	13.5	7.4	2.7	485	安山岩	G-32-8
209	磨石	10.4	6.0	2.9	220	流紋岩	F-31-12	256	磨石	12.0	8.3	4.5	632	安山岩	G-32-8
210	磨石	8.8	8.6	5.0	450	流紋岩	F-31-11	257	磨石	13.0	9.3	5.9	960	安山岩	G-32-2
211	磨石	8.8	7.1	4.0	342	安山岩	F-31-3	258	磨石	10.6	9.2	4.2	545	安山岩	G-32-2
212	磨石	13.5	9.9	5.5	1,047	安山岩	F-31-4	259	磨石	10.7	8.4	4.5	639	流紋岩	G-32-7
213	磨石	11.8	7.6	4.7	618	安山岩	F-31-5	260	磨石	9.7	8.0	3.9	506	流紋岩	G-32-3
214	磨石	8.6	7.3	4.0	346	安山岩	F-31-5	261	磨石	9.2	7.7	3.3	347	安山岩	G-32-2
215	磨石	8.5	7.4	6.0	404	流紋岩	F-31-16	262	磨石	8.2	6.7	3.0	212	安山岩	G-32-2
216	磨石	12.8	11.4	6.8	1,161	流紋岩	F-31-12	263	磨石	7.3	4.9	3.0	123	安山岩	G-32-2
217	磨石	11.4	9.2	5.9	821	安山岩	F-31-7	264	磨石	5.6	4.4	1.7	69	安山岩	G-32-8
218	磨石	9.7	7.5	4.6	562	流紋岩	F-31-16	265	磨石	(14.5)	13.0	7.5	1,815	流紋岩	G-32-10
219	磨石	11.4	9.2	2.4	375	安山岩	F-31-7	266	磨石	10.0	4.7	3.0	205	安山岩	G-32-10
220	磨石	20.8	12.3	11.0	4,900	砂岩	F-31-13	267	磨石	(9.2)	9.1	4.6	457	安山岩	H-31-1
221	磨石	14.5	11.9	6.4	1,322	流紋岩	F-32-10	268	磨石	7.2	5.4	4.2	219	砂岩	H-31-11
222	磨石	10.3	8.9	5.3	761	安山岩	F-31-12	269	磨石	(11.1)	7.4	3.3	448	安山岩	H-31-14
223	磨石	9.2	8.6	5.6	571	安山岩	F-31-8	270	磨石	16.0	11.4	8.1	2,001	安山岩	H-31-11
224	磨石	12.5	8.4	5.3	786	安山岩	F-31-15	271	磨石	8.9	7.9	3.2	328	安山岩	G-32-2
225	磨石	10.6	7.9	5.0	495	安山岩	F-31-15	272	磨石	7.3	7.4	3.7	276	安山岩	H-32-9
226	磨石	12.1	7.1	4.9	591	安山岩	F-31-15	273	磨石	11.5	6.0	2.4	267	安山岩	H-32-1
227	磨石	11.2	9.8	5.5	864	安山岩	F-31-9	274	磨石	(8.7)	8.1	3.3	319	安山岩	H-32-5
228	磨石	8.0	7.0	3.7	305	安山岩	F-32-4	275	磨石	16.6	9.5	4.5	938	安山岩	H-32-5
229	磨石	10.1	8.7	6.2	622	安山岩	F-32-11	276	磨石	12.0	10.1	3.1	527	安山岩	H-32-5
230	磨石	10.5	9.6	4.8	667	安山岩	F-32-12	277	磨石	11.0	7.5	5.1	596	安山岩	H-32-2
231	磨石	9.5	7.0	4.8	418	安山岩	G-28-16	278	磨石	11.4	7.6	4.3	446	安山岩	H-32-5
232	磨石	11.6	10.0	4.5	663	安山岩	G-28-14	279	磨石	12.7	8.0	4.7	680	安山岩	H-32-5
233	磨石	12.9	7.7	3.9	587	安山岩	G-30-11	280	磨石	9.5	8.4	3.5	422	安山岩	H-32-9
234	磨石	12.4	8.4	5.4	733	安山岩	G-30-1	281	磨石	8.2	5.9	5.4	365	安山岩	H-32-5
235	磨石	15.3	11.3	8.5	2,100	流紋岩	G-30-14	282	石皿?	21.3	18.2	8.0	6,400	流紋岩	H-32-1
236	磨石	9.3	7.1	3.6	326	安山岩	G-30-15	283	石皿?	27.7	21.2	14.3	11,900	安山岩	E-28-6
237	磨石	9.3	7.5	5.0	432	安山岩	G-30-15	284	石皿?	(18.8)	17.0	4.6	2,170	流紋岩	E-29-3
238	磨石	8.1	6.6	4.4	431	安山岩	G-30-13	285	石皿?	27.4	20.9	11.9	11,250	安山岩	E-32-16
239	磨石	7.1	6.7	5.9	408	安山岩	G-30-5	286	石皿	(11.1)	(10.7)	3.4	285	安山岩	E-30-8
240	磨石	18.5	4.5	3.2	349	流紋岩	G-29-15	287	不明	7.1	5.1	4.0	95	砂岩	E-28-4
241	磨石	6.9	6.5	0.9	67	安山岩	G-30-1	288	砥石?	6.3	5.4	1.5	85	砂岩	H-31-11
242	磨石	11.5	8.1	4.3	574	安山岩	G-30-12	289	石皿?	21.1	20.1	14.9	11,500	安山岩	F-32-7
243	磨石	9.3	9.0	7.9	940	安山岩	G-31-9								

## 第3章 まとめ

今回の根古谷台遺跡発掘調査において確認された縄文時代集落跡の内容は、ここまで記してきたとおりである。縄文前期中葉、黒浜式期を中心としたこれまでにない大規模集落跡であり、そこには大型住居・建物跡の存在や墓坑群の在り方など、多くの興味深い実態が提示されたものと言える。最後に出土土器・各遺構及び集落の変遷等について、改めて問題点を整理するとともに若干の考察を加えまとめとすることにした。

### 1 出土土器について

遺構規模や数量のわりに出土土器量が少なく、本遺跡の一つの特徴ともなっているが、内容的には胎土中に繊維を含む黒浜式土器が大半（全体の95%）を占めている。次いで同じ前期の諸磯a式土器が一定量（全体の4~5%）存在し、他に中期初頭の五領ヶ台式土器とみられるものが若干量みられるだけである。ここではまず、主体となる黒浜式土器を第1群土器、一定量みられる諸磯a式土器を第2群土器として大まかな分類を試み、土器様相を概観してみたい。

#### 第1群土器（黒浜式土器）

本遺跡出土縄文土器の主体となる土器群で、すべて胎土中に繊維を含んでいる。竪穴住居跡を中心に各遺構から出土し、分布域は確認された集落跡のほぼ全体に及んでいる。

##### 第1類 文様が施されるもの

第1種 半截竹管もしくは棒状工具等により沈線文が施されるもので、文様構成等からa格子目文・b短沈線文・c幾何学文・d直線文・e波状文・fコンパス文・g肋骨文の7つに細分される。a格子目文は篋状工具による一本描きのものがほとんどで、出土量は少ない。b短沈線文は口縁部に縦位の短沈線が巡らされるもので、出土量は非常に少ない。c幾何学文の主体となるのは菱形・三角・山形文等で、ほとんどが波状口縁に描かれる。d直線文及びe波状文はほとんどが横位で、口縁部から括れ部にかけて用いられるもので、出土量は多い。fコンパス文は半截竹管によるもので、一定の出土量がみられる。g肋骨文は縦位の平行沈線で区画されるもので、出土量は非常に少ない。

第2種 刺突文が施されるもので、半截竹管・棒状工具・櫛歯状工具等によるa列点刺突文と竹管等によるb円形刺突文がみられる。a列点刺突文は第1種e波状文と組合せられる例が多い。

第3種 半截竹管等による連続爪形文が施されるもので、文様構成等からa幾何学文・b直線文・c相互刺突文・d対角線文の4つに細分される。a幾何学文は菱形・三角・山形文等を主体とするもので、J10号竪穴住居跡出土の大型波状口縁土器（第52図1）はこの代表例である。b直線文は横位が主体で、文様帯の区画などに多用される。c相互刺突文は連続爪形文を市松状に配したもので、出土量は非常に少ない。d対角線文は縦位・横位・斜位の組合せでユニオンジャック状の文様を描くもので、一定量の出土がみられる。

第4種は隆帯が貼附されるものであるが、出土量は少ない。

##### 第2類 地文のみのも

全体に小破片が多いため、文様を有する土器の胴部破片等も相当数含まれているものとみられる。





第1種 縄文が施されるものである。いずれも横位回転によるもので、a単節縄文・b無節縄文・cループ文・d附加条縄文・e複節縄文・f直前段反撚・g前々段反撚・h0段多条・i組紐等がみられる。このうち最も多いのはa単節縄文のもので、縄文全体の約50%を占め、羽状縄文で菱形を構成するものも多い。次に多くみられるのはd附加条縄文のもので、約20%を占めている。施文原体としては附加条1種（2段の軸縄に1段の縄を2本一組で巻いたもの等）が主体で、羽状構成を呈するものも多い。他にb無節縄文・cループ文等も一定量の出土がみられる。

第2種 撚糸文が施されるものである。いずれも1段の縄が用いられたもので、絡め方等からa1条・b2条・c3条・d4条・e網目状・f葎瓦状の6つに細分される。このうち最も多いのは2本一組で絡めたb2条で、全体の約50%を占め、羽状構成をとるもののみみられる。また東北系とみられるe網目状及びf葎瓦状も、確実に一定量の出土が認められる。

## 第II群土器（諸磯a式土器）

繊維が極めて微量かもしくはまったく含まない土器群である。第I群土器よりも絶対量ははるかに少なく分布域も狭いが、広場の土坑群域からの出土が目立っている。

### 第1類 文様が施されるもの

第1種 半截竹管もしくは棒状工具等により沈線文が施されるもので、d直線文・e波状文・f肋骨文等がみられる。d直線文は、櫛歯状で彫りの浅いものが多くみられる。

第2種 刺突文が施されるもので、a列点文とb円形文がみられるが、いずれも出土量は少ない。

第3種 半截竹管等による連続爪形文が施されるもので、b直線文とd対角線文がみられる。なお第I群土器の同種のものに比べ、竹管幅が全体に狭いものが多い。

### 第2類 地文のみもの

第1種 縄文が施されるもので、確認されたのはa単節縄文（いずれもRL）のみである。なお第I群土器の同種のものに比べ、全体に細かい縄文が多い。

以上が分類を通してみた土器様相であるが、次にこれらの編年的位置付けを考えてみたい。中心となる黒浜式土器群（第I群土器）は、堅穴住居跡間に重複関係があること、諸磯a式土器（第II群土器）要素の有無がみられること等から、複数段階に渡る変遷が想定できる。そこでここでは新井和之氏の黒浜式5段階編年（第I～V段階）と対比しながら、本遺跡土器群を古段階・中段階・新段階の3つに分けてみたい。

まず古段階はJ2・J5・J10・J17・J22・J24・J25号堅穴住居跡出土土器群等で、連続爪形文等による菱形文の土器群が一つの構成要素になっている。これは中部高地に祖型が求められるいわゆる有尾系土器と呼ばれる土器群で、新井氏が第II段階の基準としたものである。さらにJ17及びJ25号堅穴住居跡からは、近隣の古宿遺跡で関山式最終末と位置付けされた口唇部下の縦位沈線（I類1種b）と相互刺突文（I類3種c）が僅かながら確認されており、新井氏の第I段階に遡る一群も存在するものとみられる。

次に中段階はJ1・J11・J12・J16・J20・J23号堅穴住居跡出土土器群等で、コンパス文の多用が特徴の一つである。新井氏の第III段階に該当するものと考えられ、有尾系土器も一部併存している。なお、古段階・中段階を通じて網目状或いは葎瓦状撚糸文が一定量確認されており、東北地方（大木2a式等）との関連が窺える。

最後に新段階はJ4・J6・J7・J8・J18・J26・J28号竪穴住居跡出土土器群等で、半截竹管等による縦位・横位・斜位の組合せでユニオンジャック状の文様(対角線文)が描かれるものが多くみられる。また僅かではあるが肋骨文が確認され、無織維である第Ⅱ群土器の伴出率も高くなっている。これらのことから本段階は、新井氏の第Ⅳ段階以降の特徴を有するものと思われる。

以上のことから本遺跡竪穴住居跡出土土器群は、黒浜式期のほぼ全般に及んでいたものとみられる。なお、建物跡及び土坑群は竪穴住居跡と比較して全体に第Ⅱ群土器の伴出率が高い傾向にある。

## 2 遺構について

### (1) 竪穴式住居跡

本遺跡で竪穴住居跡としたものは、確認面から一定の深さの壁をもつこと、ある程度踏み固められた床面があること、屋内に炉跡を有していること等で他の建物跡から区別できるものである。しかし確認された27棟の竪穴住居跡は、これらの共通した要素を持つ一方で、平面形や内部の造り等いくつかは差異もみられる。とりわけ規模の大小は顕著であり、本遺跡の特徴の一つと言える。そこでここでは、特に平面形と規模という観点から5分類し、それぞれの特性をまとめることにした。なお第45表で示すとおり、ほとんどの竪穴住居跡は1回ないしは数回の建て替えを行っており、計測値は最も広がった段階(大多数は最終段階)のものとしている。

A-I類 平面形が隅丸長方形で、長軸13m以上の超大型のもの。J5号とJ17号の2軒がある。このうちJ5号は長軸15.2mと最大で、約150㎡の床面積を有している。主柱穴はJ5号の最終段階が10本となるものの基本は6本で、壁柱穴を持つ。

A-II類 平面形が隅丸長方形で、長軸が9～12mの大型のもの。J11号・J12号・J16号・J20号の4軒がある。主柱穴はすべて6本であり、大部分が壁柱穴又は壁溝を持つ。

A-III類 平面形が隅丸長方形で、長軸が8m未満のもの。J1号・J2号・J10号・J13号・J14号・J18号・J22号・J23号・J24号・J25号の10軒があり、長軸5.65mのJ13号が最も小さい。主柱穴はすべて6本であり、大部分が壁柱穴又は壁溝を持つ。

B類 平面形がほぼ隅丸方形のもので、J4号・J6号・J7号・J8号・J21号・J26号の6軒がある。規模には長軸4～7mとややばらつきがあるが、A類のように特に大型のものを分類することはできない。主柱穴は4本が基本と思われるが、棟持ち柱や補助柱を配して6本としたものもみられる。いずれも壁柱穴又は壁溝を持つ。

C類 平面形が楕円もしくは不整形円形のもので、J15号・J28号・J29号・J30号の4軒がある。規模はいずれも2～4mと非常に小さく、A-I類やB類に及ばない。主柱穴は2本の可能性のあるJ28号を除き認めることができないが、いずれも壁柱穴は有している。

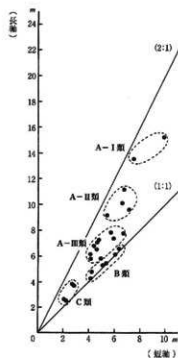
以上が平面形と規模からみた本遺跡竪穴住居跡の分類の概要である。第45表は各竪穴住居跡の分類とともに伴出土器の大まかな時期(段階)を位置付けたものであるが、その変化を基準に観るといくつかの遺構的変遷の特徴を確認することができる。まず一つは平面形における隅丸長方形(A類)から隅丸方形(B類)への変化で、古・中段階では隅丸長方形(A類)が圧倒的であるのに対し新段階では隅丸方形(B類)が主流となっている。次に規模の点についても、大型(A-I・II類)のものは古・中段階に限られるのに対し新段階ではすべて通常もしくは小型(A-III・B・C類)のものとなっており、小型化という大きな流れが確認できる。なお当然のことながら、これら平面

第45表 根谷谷台遺跡竪穴住居跡一覧

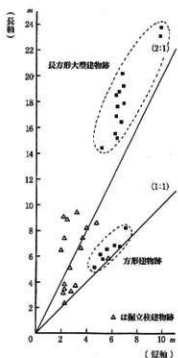
番号	平面形	長軸方位	規模m	壁高cm	主柱穴	壁溝	壁柱穴	建替え	分類	段階
J 1号	隅丸長方形	N-1°-W	6.7×4.4	20～30	6本			1回	A-Ⅲ	中
J 2号	隅丸長方形	N-3°-W	6.15×4.1	18～20	6本				A-Ⅲ	古
J 4号	隅丸方形	N-18°-W	4.75×4.2	25～30	4本+横持			1回	B	新
J 5号	隅丸長方形	N-29°-W	15.2×9.9	28～32	6本→10本		数重	4回	A-Ⅰ	古
J 6号	隅丸方形	N-43°-W	6.1×6.0	35～45	6本→4本	1本	有り	1回	B	新
J 7号	隅丸方形	N-73°-W	5.4×5.3	30～37	6本	2本		1回	B	新
J 8号	隅丸方形	N-61°-W	6.55×6.25	32～35	4本→6本	1本		1回	B	新
J10号	隅丸長方形	N-78°-W	7.1×4.7	12～29	6本		有り	1回	A-Ⅲ	古
J11号	隅丸長方形	N-19°-W	9.6×7.1	18～26	6本		有り	1回	A-Ⅱ	中
J12号	隅丸長方形	N-28°-W	10.1×6.6	26～30	6本		2重	2回	A-Ⅱ	新
J13号	隅丸長方形	N-30°-W	5.65×4.95	10～15	4本	1本	有り	1回	A-Ⅲ	古
J14号	隅丸長方形	N-30°-W	5.7×4.1	10～15	6本			1回	A-Ⅲ	中
J15号	不整楕円形	N-56°-W	3.8×2.7	8～10	無し		有り		C	
J16号	隅丸長方形	N-85°-W	9.2×5.4	20～25	6本	一部	2重	1回	A-Ⅱ	中
J17号	隅丸長方形	N-28°-W	13.5×7.5	4～8	6本		有り		A-Ⅰ	古
J18号	隅丸長方形	N-17°-W	7.3×5.9	5～8	4本		2重	1回	A-Ⅲ	新
J20号	隅丸長方形	N-45°-W	11.1×6.7	23～33	6本		2重	1回	A-Ⅱ	中
J21号	隅丸方形	N-60°-W	5.2×5.0	18～20	4本		有り		B	古
J22号	隅丸長方形	N-32°-W	7.0×4.6	25～30	6本		有り	1回	A-Ⅲ	古
J23号	隅丸長方形	N-31°-W	7.7×6.7	20～42	4本→6本	数本	有り	3回	A-Ⅲ	中
J24号	隅丸長方形	N-30°-W	7.85×5.7	24～46	6本	1本	3重	3回	A-Ⅲ	古
J25号	隅丸長方形	N-28°-W	6.35×4.45	21～50	6本		2重	1回	A-Ⅲ	古
J26号	隅丸方形	N-88°-W	4.25×4.1	22～25	4本		有り		B	新
J27号	不明	N-42°-W	4.1×?	8～12	不明	一部	有り	1回		(新)
J28号	不整楕円形	N-83°-W	3.75×2.8	3～6	2本?		有り		C	新
J29号	楕円形	N-30°-W	2.45×2.25	11～13	無し		有り		C	(新)
J30号	楕円形	N-4°-W	2.6×2.05	4～6	無し		有り		C	

形の隅丸方形化・規模の小型化と連動し、4本主柱が多くなっていることも指摘できる。

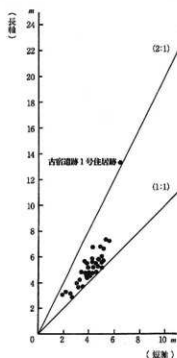
ところで第212図は、栃木県内の縄文前期竪穴住居跡の平面規模(16遺跡・35例)をグラフ化したものである。その分布は長軸で3～7m前後の範囲に集中しており、通常規模の竪穴住居跡の一つの指標としてとらえることができる。本遺跡の状況は第210図に示したとおりであるが、県内のものと比較すると、特にA-Ⅰ・Ⅱ類は通常の範囲を大きく上回る大型竪穴住居跡であることが明瞭である。またC類には通常の範囲を下回るものもみられ、規模の大小差が激しいことも本遺跡竪穴住居跡のひとつの特徴といえよう。なお、現在のところ県内でこのA-Ⅰ・Ⅱ類に匹敵する大型竪穴住居跡の確認例は、古宿遺跡1号住居跡(宇都宮市)1例のみである。



第210図 根古谷台遺跡の竪穴住居跡



第211図 根古谷台遺跡の建物跡



第212図 栃木県内の縄文前期住居跡

## (2) 長方形大型建物跡

この建物跡は、一定の検出面において柱穴列とそれを取り囲む溝または小ピット列が確認できる遺構であり、壁の立ち上がり・踏み固められた床面さらには炉跡等が検出されないことで、竪穴住居跡と区別されるものである。また、確認状況においては方形建物跡・掘立柱建物跡と共通する部分も多いが、規模が圧倒的に大きいこと・柱穴列が2列10本という高い規格性を有していること等から、明確に分類できるものである。集落内における配置の特異性等も含め、本遺跡を最も特徴付ける建物跡といえる。以下、本建物跡の主な特徴を整理する。

**平面形と規模** 平面形はいずれも隅丸長方形（周囲が不明なのを除く）で、規模は最大の1号が長軸23.1m・短軸9.8m、最小の14号でも長軸14.4m・短軸5.1mという大きさである。これは単純に比較すれば、すべてが本遺跡竪穴住居跡最大のA-I類以上（第211図参照）ということであり、いかに大規模なものであるかが分かる。なお、長軸短軸比がすべて2:1以上と細長い形状であることも大きな特徴である。

**主柱穴** まず主柱穴の掘り方は平面形が隅丸長方形又は楕円形になるものが多く、その規模も1号・2号などでは長軸が1mを超えるものもあり、柱穴というよりは土坑状である。しかしその深さは確認面からせいぜい50cm前後と規模のわりには浅く、本遺跡の竪穴住居跡の主柱穴が平均70～80cmの深さを持っているのとは対照的である。次に主柱穴の配列は、何例か未確認部分があるものの、すべて2列10本である。一般に長大な建物は、妻側を延伸させるために長軸方向の柱間数が調整される。本建物跡も最大の1号と最小の14号では長軸に9m近い差があるが、その配列は変わらず2列10本ということで、強いこだわりのようなものがみられる。なおこの主柱穴配列が何に起因するかは不明であるが、本遺跡最大の竪穴住居跡であるJ5号が最終段階の建て替えでこの2列10本の配列となるのは示唆的である。

第46表 根古谷台遺跡長方形大型建物跡一覧

番号	平面形	長軸方位	規模m	主 柱 穴			周 囲	位 置
				配列	規模cm	深さcm		
1号	隅丸長方形	N-35°-W	23.1×9.8	2列10本	105~130×75~90	48~62	溝・ビット列	第3群
2号	隅丸長方形	N-21°-W	21.8×9.95	2列10本	98~130×68~95	31~50	溝・ビット列	第3群
3号	隅丸長方形	N-20°-W	19.2×6.95	2列10本	67~78×49~60	28~62	溝・ビット列	第1群
4号	隅丸長方形	N-24°-W	(18.8)×6.45	(2列10本)	58~85×42~60	32~56	溝・ビット列	第1群
5号	隅丸長方形	N-28°-W	17.9×7.0	2列10本	75~95×65~90	18~60	溝・ビット列	第2群
6号	隅丸長方形	N-27°-W	20.2×6.8	2列10本	88~108×65~85	19~50	ビット列	第2群
7号	隅丸長方形	N-2°-E	18.5×6.3	2列10本	50~60×45~55	28~48	溝・ビット列	第2群
8号	不明	N-7°-E	(14.5×2.6)	(2列10本)	60~70×50~70	20~34	不明	第2群
9号	隅丸長方形	N-46°-W	16.9×6.3	2列10本	60~82×54~68	21~68	溝・ビット列	第2群
10号	隅丸長方形	N-67°-W	15.15×(6.4)	2列10本	55~80×46~69	24~42	溝・ビット列	第4群
11号	隅丸長方形	N-56°-W	17.6×(6.4)	2列10本	65~78×55~63	28~50	溝・ビット列	第4群
12号	隅丸長方形	N-75°-W	(15.5)×6.2	2列10本	66~88×60~70	31~60	溝・ビット列	第4群
13号	隅丸長方形	N-112°-W	16.4×6.7	2列10本	58~74×48~62	6~47	溝・ビット列	第5群
14号	隅丸長方形	N-76°-W	14.4×5.1	2列10本	50~68×45~60	18~40	溝・ビット列	第5群
15号	不明	N-76°-W	(10.9×2.2)	2列10本	55~60×50~55	20~35	不明	第5群
16号	不明	N-30°-W	(16.4×3.1)	2列10本	82~118×62~72	22~48	ビット列	第3群

**周囲の状況** 主柱穴列の周囲には細い溝又はビット列が巡らされ、隅丸長方形の平面形が形成される。これらは竪穴住居跡の壁溝又は壁柱穴に相当する遺構とみられ、小柱又は杭等を立て並べた壁状施設の遺構と思われる。

**配置** 全体的には竪穴住居跡群と同じく、中央広場の墓坑・土坑群を囲むように弧状に配置する。分布範囲は北半部に限られるようであるが、その配置状況は非常に特徴的である。まず一つは特定の地点で建て替えが行われたことで、概ね5地点(第7図・第1群~第5群)が設定できる。確認された建て替え数は第1群が1回・第2群が4回・第3~5群が2回であり、どの地点とも建て替えに伴う主軸方向のぶれや位置のずれがみられる。またもう一つの特徴は広場中央への方角性が意識されたこととみられることで、若干のずれはあるものの各群とも長軸方向が広場中心部から放射状に伸びている。

以上が本建物跡の主な特徴であり、遺構的には長大な壁柱平式建物とすることができる。ただし、前述したとおり炉が未確認であること、遺物が非常に少ないことなどの点から恒久的な建物とは考えにくい。建設地点や棟の方向性には一定の規制がかかっていたものとみられるが、主柱穴の浅さや建て替えの仕方等からは期間限定の仮設の建物であった可能性も想定されよう。

### (3) 方形建物跡

ほぼ方形に巡る溝又はビット列の内側に柱穴が配されるもので、遺物が少なく炉が未確認であること等、構造的には長方形大型建物跡と共通する建物跡である。以下、特徴を整理する。

**平面形と規模** 平面形は基本的に隅丸方形とみられるが、台形状になったり歪んだりしているものが目立つ。また、規模は長軸で5~8mほどの範囲であり、本遺跡竪穴住居跡と比較すればA~Ⅲ類又はB類の大きさに近く、特に大型と言えるものはみられない。

**主柱穴と周囲の状況** 主柱穴は確認できない部分も多いが、基本的に4本とみられる。確認され

たものも全体に浅めで、むしろ周囲の溝やビット列の方が深いものもみられる。規模の点を除けば、長方形大型建物跡と同様な構造と言える。

**配置** 長方形大型建物跡とほぼ同様な範囲に配置するが、やや第3～5群寄りに集中している。

第47表 根古谷台遺跡方形建物跡一覧

番号	平面形	長軸方位	規模m	主 柱 穴			周 囲	位 置
				本数	直径cm	深さcm		
1号	隅丸方形	N-61°-W	8.15×7.0	4本	40～45	23～31	溝・ビット列	第3～4群
2号	隅丸方形	N-62°-W	6.4×(6.4)	4本?	20～30	10～20	ビット列	第4群中
3号	隅丸方形?	N-87°-W	6.6×5.45	4本?	25～30	12～31	ビット列	第3～4群
4号	隅丸方形?	N-96°-W	6.7×6.7	4本	25～35	10～26	溝・ビット列	第3～4群
5号	隅丸方形?	N-75°-W	6.6×6.2	4本?	30～35	18～26	ビット列	第4群中
6号	隅丸方形	N-78°-W	6.85×6.2	4本?	20～35	18～40	ビット列	第4～5群
7号	隅丸方形	N-107°-W	5.1×4.8	4本?	20～30	15～30	溝・ビット列	第5群中
8号	隅丸方形?	N-88°-W	5.7×5.3	無し			溝・ビット列	第5群中
9号	隅丸方形?	N-35°-W	6.1×5.0	4本?	20～30	15～30	ビット列	第3群中
10号	隅丸方形?	N-30°-W	(4.5×4.5)				溝・ビット列	第1群中
11号	隅丸方形?	N-25°-W	(4.5×4.5)				溝・ビット列	第1群中

#### (4) 掘立柱建物跡

柱穴の配列だけで、長方形大型建物跡や方形建物跡のような周囲を取り囲む遺構が確認されないものを一括して掘立柱建物跡とした。他の建物跡同様、遺物は少なく炉は確認されない。

**形態と規模** 柱間形態は3間×1間・2間×2間・2間×1間・1間×1間の4種類に分かれ、規模もほぼこの柱間数に比例する。平面形は基本的に長方形もしくは方形であるが、2間×2間とした4棟(J4号・J6号・J7号・J18号)は棟持柱が外に飛び出す亀の甲形となっている。なお、J4号は側柱の中央柱も外に飛び出すため、円形(サークル)状に近い。

**配置** 全体的には竪穴住居跡群とほぼ同様な配置であるが、大型の3間×1間・2間×2間に限ってみれば長方形大型建物跡の配置に近い。ただし棟方向については、長方形大型建物跡のように広場中央から放射状に伸びるものは少なく、直交させるもの(J2・J8・J19等)が多い。

**J4号掘立柱建物跡の位置付け** J4～7号の4棟の掘立柱建物跡は、同一地点で建て替えられている。その地点は長方形大型建物跡第2群と第3群の間であるが、他の掘立柱建物跡の多くが長方形大型建物跡群と重複する位置関係であるのとは様相を異にしている。この4棟の先後関係については、J4号が先行することだけは切り合い関係で確認できているが、形態的にはJ4号から亀の甲形(J6号・J7号)を経て長方形(3間×1間)のJ5号に変遷したものと考えたい。ここで注目したいのはJ4号の柱穴の掘り方で、径1mを超える土坑状の大きさにわたり深さは30～50cm前後の浅さである。この傾向は次のJ6号・J7号段階にもみられ、長方形大型建物跡の主柱穴の在り方に近いものと考えられる。このような状況から、J4号掘立柱建物は長方形大型建物群とセットで建設され、同様に同位置で建て替え(J5～7号)が繰り返されたものと考えられよう。

第48表 根古谷台遺跡掘立柱建物跡一覧

番号	平面形	柱配置	長軸方位	規模m	柱 穴		位置
					直径cm	深さcm	
J 1号	長方形	3間×1間	N-35°-W	9.45×3.1	45～60	75～92	第3群中
J 2号	長方形	3間×1間	N-28°-E	8.45×2.3	50～60	64～96	第3群中
J 3号	長方形	3間×1間	N-1°-E	8.45×2.3	35～40	20～25	第1群中
J 4号	亀の甲形(円形)	2間×2間	N-48°-E	5.95×5.7	90～140	30～55	第2～3群
J 5号	長方形	3間×1間	N-33°-E	6.5×3.4	55～65	44～66	第2～3群
J 6号	亀の甲形	2間×2間	N-57°-E	7.15×3.5	45～65	28～61	第2～3群
J 7号	亀の甲形	2間×2間	N-57°-E	8.4×4.8	40～90	11～49	第2～3群
J 8号	長方形	3間×1間	N-29°-W	8.95×2.3	50～60	43～66	第5群中
J 9号	長方形	3間×1間	N-9°-E	6.3×2.0	25～40	20～50	第5群中
J 10号	長方形	3間×1間	N-26°-W	8.15×2.0	45～60	25～59	第5群中
J 11号	長方形	2間×1間	N-24°-W	5.0×2.6	40～50	56～95	南西斜面沿い
J 12号	方形(台形)	1間×1間	N-87°-W	2.3×2.2	38～50	17～43	南西斜面沿い
J 13号	長方形(台形)	2間×1間	N-71°-E	3.4×2.2	40～50	28～68	南西斜面沿い
J 14号	長方形	1間×1間	N-84°-E	3.0×2.2	65～70	40～48	南西斜面沿い
J 15号	長方形	1間×1間	N-84°-E	3.65×3.15	58～66	90～99	南西斜面沿い
J 16号	長方形(台形)	1間×1間	N-10°-E	3.8×2.3	53～67	41～86	南西斜面沿い
J 17号	長方形	1間×1間	N-41°-W	3.3×2.8	40～63	44～58	南西斜面沿い
J 18号	亀の甲形	2間×2間	N-1°-E	4.3×2.5	30～36	28～59	第1群東
J 19号	長方形	3間×1間	N-27°-W	8.1×1.85	50～75	22～45	第5群中

### (5) 広場の墓坑・土坑群

本遺跡では広場を中心に340基の墓坑・土坑が確認されている。この内138基を現状保存としたため未解明な部分は残るが、特徴を何点か整理すると次のようになる。

**分布** 墓坑・土坑の分布は中央広場(直径70～80mのほぼ円形)の全体に及んでいるが、密度は住居・建物跡群寄りの外側の方が高く、内部に行くに従ってやや薄くなっている。特に中心部の半径10m程の範囲は薄く、ほぼ空白地帯であったものとみられる。

**小グループ** 各墓坑・土坑は一つ一つが単独ではなく、7～8基がサークル又は弧状に配列し小グループを形成している。その規模は直径6～7m前後で、大小差はあまりみられない。これら小グループは部分的には接したり重なり合ったりはしているものの、基本的には広場の中心(空白地帯)を同心円状に取り囲むように配置されたものとみられ、その数は数十にのぼるものとみられる。

**配石** 今回確認された墓坑・土坑群中には、僅かではあるが大きい川原石を出土するものがみられた。また広場全体には、川原石・礫や大型石器の破片等が散乱した状態で確認されている。このような状況からみると各墓坑・土坑には配石があった可能性が高く、小グループの位置認識にもなっていたものと考えられる。なお、この景観が後世擾乱されたものとすれば、奈良時代における集落造営は最も大きな要因であったと思われる。

**出土品** 装身具(秩状耳飾、管玉・丸玉等)或いは副葬品(石匙・鎌)とみられるものが出土したのは広場北西隅のごく限られた墓坑群だけからであった。この墓坑群は掘り方がやや丁寧であるものの、規模・形状等は他のものとほぼ同様であり、出土品だけが際立っていたものである。おそらく集落のリーダー的集団(一族)の墓域であったことは想像に難くない。

### 3 集落の変遷について

#### (1) 集落の形状と規模

本集落は中央の墓坑・土坑群を住居・建物跡群が弧状に取り囲む所謂環状集落であり、第213図がその想定線を入れたものである。南半部が未調査であること、地形的な制約があることなど不確定要素は多いが、現時点で想定される規模は中央広場が直径70～80m、集落全体が直径約150mと想定



第213図 根古谷台遺跡環状集落想定図



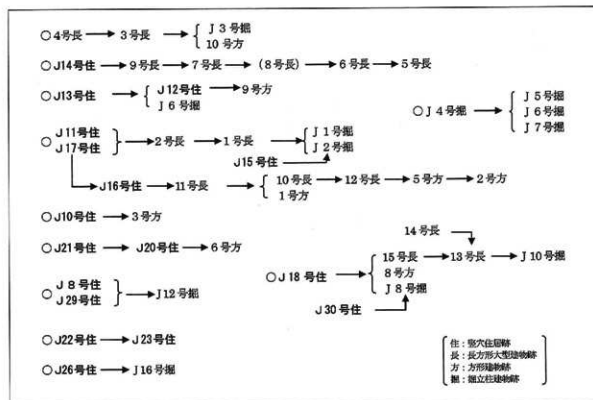
できる。もちろんこれらは長い年月をかけて形成された最終的な姿で、細かくみれば長方形大型建物跡第2群やJ6・J7・J8号竪穴住居跡（いずれもB類）等、やや逸脱した配置のものもみられる。しかし全体的には、環状集落としての景観が長期に亘って維持されてきたと見るべきであろう。これは見方を変えれば、本集落はその当初からこのような景観と規模が想定されていたものとも捕らえられるものであり、集落形成過程における本集落の意義や役割を考える上で重要である。

## (2) 遺構群の変遷

最後に本集落跡がどのような変遷をたどったのかを考えてみたい。基準となるのは遺構の切り合い関係（重複関係）であるが、第214図が本集落跡の重複関係全体をまとめたものである。まず竪穴住居跡どうしの重複関係は4例（J13号→J12号、J17号→J16号、J21号→J20号、J22号→J23号）で、これらは一定量の土器を伴うため変遷の基本資料となる。次に竪穴住居跡と他の建物跡の重複関係をみると、ほぼ例外なく竪穴住居跡が切られていることが分かる。さらに建物跡どうしでは、長方形大型建物跡が方形建物跡や掘立柱建物跡に切られる事例がいくつか見られる。これらのことから本集落跡においては、大きくは竪穴住居跡が先行し、長方形大型建物跡をはじめとする建物跡は後から出現したものと考えられる。

さて以上のような重複関係をもとに、伴出土器の編年の位置付けけいは集落における立地状況などを検討すると、本集落の竪穴住居跡群の変遷は以下のように3時期に設定することができる。

1期 J2号・J5号（1期）・J10号・J13号・J17号・J21号・J22号・J25号竪穴住居跡等で構成されるもので、本集落の開始期である。竪穴住居跡が台地上平坦部いっばいに展開しており、当初段階より環状集落として形成されていたことが窺える。広場内の墓坑・土坑の状況は不明であるが、



第214図 根古谷台遺跡遺構重複関係図

小グループ毎に竪穴住居跡寄りの外側から造り始められたものと思われる。竪穴住居跡には特に大型のもの(A-I類)がみられる。

II期 J1号・J5号(II期)・J11号・J12号・J16号・J18号・J20号・J23号・J24号竪穴住居跡等で構成されるもので、I期をほぼ踏襲した集落景観が展開される時期である。竪穴住居跡は全体的にはやや小型化し、大型のものもA-II類が主流となる。なお、I期に造られたJ5号竪穴住居跡は、建て替えを繰り返しながらやや縮小した形で本期まで残ったものと考えられる。

III期 J4号・J6号・J7号・J8号・J26号竪穴住居跡等で構成されるもので、本集落の終焉期である。竪穴住居跡は隅丸方形(B類)のものが主体となり、大型のもの(A-I・II類)はみられなくなる。また立地的には、広場の墓坑・土坑群域に明らかにくい込むもの(J7号・J8号等)もみられ、I-II期に渡って維持・形成されてきた集落景観にも変化が生じたものと思われる。

### (3) 長方形大型建物の位置付け

最後に本集落を最も特色付ける長方形大型建物跡の位置付けについて考えてみたい。まず時期的には、竪穴住居跡との重複関係からII期以降に展開したものとみられる。次に配置的にはI・II期と形成されてきた竪穴住居跡群とほぼ同じで、環状集落としての景観を保持している。本建物跡は広場中央からほぼ放射状に棟筋をとり、同一地点(第1群～5群)で建て替えを繰り返すという特徴を有している。これは複数棟(例えば5棟)が同時に存在しながら一定期間存続した可能性を物語るもので、竪穴住居跡中心の集落景観は一変したものと思われる。おそらくJ4号～J7号掘立柱建物跡もこの一面で同時に存続したものであろう。なおJ5号竪穴住居跡地点に本建物跡が重複しないことや違和感があるが、同居居跡が建て替えを繰り返しながら長く存続したこと、最終的に支柱を2列10本としたこと等と何か関係があるものと考えられる。

さて本建物跡は、柱穴構造や建て替えの状況等から仮設的な建物である可能性が高いものと思われる。また集落内における配置状況や方向性等からは、中央広場の墓坑・土坑群(墓域)を強く意識したものであることは容易に想像される。おそらく本建物跡は、この墓域に関わる葬送儀礼・墓前祭祀・祖先崇拜儀礼等の集団祭祀の舞台装置として、一定期間建て替えが繰り返されたものと考えられよう。さらにこれだけの規模で複数棟が同時存在したことは、本建物群が周辺地域を含めた拠点施設として位置付けていたことを物語るものである。

#### (参考文献)

- 新井和之 1982 「黒浜式土器」『縄文文化の研究』3 雄山閣  
新井和之 1985 「黒浜式土器研究の現状と今後の課題」『土曜考古』第10号 土曜考古学研究会  
新井和之 1988 「黒浜式土器段階分け発想法」『奈和』第26号 奈和同人会  
三沢正善・大塚昌彦 1987 「乙女不動原北浦B地点発掘調査報告書」小山市文化財調査報告書第18集 小山市教育委員会  
山口 仁・初山孝行他 1991 「鹿沼流遺業務団地内遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告書第121集 栃木県教育委員会  
芹沢清八 1994 「古宍遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告書第142集 栃木県教育委員会(財) 栃木県文化振興事業団  
亀田幸久他 1994 「田間東道北遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告書第150集 栃木県教育委員会(財) 栃木県文化振興事業団  
亀田幸久他 1995 「横倉宮ノ内遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告書第161集 栃木県教育委員会(財) 栃木県文化振興事業団

# 付 編

## 宇都宮市根古谷台遺跡試料材（炭化木材）同定 およびリン・カルシウム分析報告

パリオ・サーヴェイ株式会社

(1988年3月)

### 1 材（炭化木材）同定

#### 1-1 試料

試料は4点で、縄文時代前期（黒浜式期）のものと考えられるJ1、J5、J20、J22号竪穴住居跡から検出されたものである。なお、作業の便宜のため試料にはNo1~4の試料番号を付した。本報告文中では試料はすべてこの試料番号で表すこととする（表1）。

#### 1-2 方法

試料を乾燥させたのち木口・柾目・板目三断面を作成、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察・同定した。

#### 1-3 結果

試料は以下の4種類(Taxa)に同定された。各試料の主な解剖学的特徴や一般的性質などは次のようなものである。

##### ・オニグルミ (*Juglans ailanthifolia*) クルミ科 No4

散孔材で、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。管孔は単独および2~4個が複合、横断面では楕円形、単穿孔を有し、壁孔は蜜に交互状に配列する。放射組織は同性~異性Ⅲ型、1~5細胞幅、1~40細胞高。柔組織は短接線状、周囲状および散在状。年輪界は明瞭。

オニグルミは、北海道から九州までの川沿いなどに生育する落葉高木である。材の硬さは中程度、加工は容易で狂いが少なく、保存性は低い。銃床として広く用いられるほか各種器具・家具材などの用途も知られている。種子は食用となり、栄養価に富む。

##### ・ハンノキ属の一種 (*Alnus* sp.) カバノキ科 No1

散孔材で、管孔は放射方向に2~4個が複合または単独、横断面では楕円形、階段穿孔を有し、段(bar)数は10~30、壁孔は蜜に対列状に配列、放射組織の間では網目状となる。放射組織は同性、単列、1~20細胞高。柔組織は短接線状~散在状。年輪界はやや不明瞭。

ハンノキ属は国内に約10種が自生し、ハンノキ (*Alnus japonica*) の仲間 (=ハンノキ亜属) とヤシャブシ (*A. firma*) やミヤマハンノキ (*A. maximowiczii*) の仲間 (=ヤシャブシ亜属) に分けられる。いずれも根に根瘤菌が共生しているため瘦地でもよく生育する。材はやや軽軟~やや重硬で、加工は容易、薪炭材や各種器具材として用いられるほか、炭が黒色火薬の原料となる種類もある。また、樹皮や果実を染料とすることもある。

##### ・コナラ属 (コナラ亜属コナラ節) の一種 [*Quercus*(subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*)sp.]

ブナ科 No2

環孔材で孔間部は1~2列、孔間外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道

管は横断面では円形～楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で、果実(いわゆるドングリ)が1年目に熟するグループで、モンゴリナラ(*Quercus mongolica*)とその変種ミズナラ(*Q. mongolica* var. *grosseserrata*)、コナラ(*Q. serrata*)、ナラガシワ(*Q. aliena*)、カシワ(*Q. dentata*)といくつかの変種を含む。モンゴリナラは北海道・本州(丹波地方以北)に、ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州(岩手・秋田県以南)・四国・九州に分布する。このうち関東地方平野部で普通に見られるのはコナラである。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ(*Q. acutissima*)に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり、虫えいを染料とすることもある。

・クリ(*Castanea crenata*) ブナ科 №3

環孔材で孔環部は1～3列、孔環外で急激に環径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道西南部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫓木や海苔粗朶などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ、果実は食用となる。

同定結果を一覧で示す。(表1)

表1 根古谷台遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	出土遺構など	種名
No.1	J1号竪穴住居跡柱穴内	ハンノキ属の一種
No.2	J5号竪穴住居跡柱穴内	コナラ属(コナラ亜属コナラ節)の一種
No.3	J20号竪穴住居跡中層	クリ
No.4	J22号竪穴住居跡下層	オニグルミ

### 1-4 考察

試料は1住居跡1点のみの同定であり、その性格も明らかでないため検出遺構との関係などはわからない。

これまでの検出例では、コナラ節やクリは各地・各時代の遺跡から報告されているが、オニグルミやハンノキ属の例は稀である。県内では、オニグルミが古河市原町西貝塚の縄文時代のものとされる1号住居跡で認められている(松谷 1986)が、ハンノキ属は運転免許センター内の古墳時代後期のものとされる32号住居跡の例など、新しい時代のものが知られているだけである。

(引用文献)

松谷 暁子 1986 原町西貝塚出土の炭化植物,「古河市史 資料 原始・古代編」, 195-208.

## 2 リン・カルシウム分析

### 2-1 目的

本遺跡の調査報告<sup>1)</sup>によれば、縄文時代前期中葉（黒浜期）の集落跡が鹿沼台地（通称）南東部付近に認められており、住居跡および建物跡が多数検出されている。また、広場部分から約320基の土坑が確認されている。

今回の発掘では、確認された土坑の中から179基について調査が行われており、墓坑として取り扱われている。そのうち出土遺物の伴出は8基だけであった。ただ、残りの171基についても、墓坑以外の目的に使われた判断できるものが何もないが、遺物の検出された8基の土坑と同様に埋葬施設として使用されたものではないかと考えられている。しかし、いずれの土坑内でも骨は検出されず、確証は得られていない。

本分析の目的は、調査がなされたいくつかの土坑について、土坑内覆土断面の土壌をそれぞれ採取し、骨の主成分であるリンおよびカルシウムの分析をおこない、埋葬施設に関する資料を得ることにある。

### 2-2 試料

分析に供試した試料は表2に示すとおりである。

今回分析をおこなった土坑は、100号土坑・115号土坑・158号土坑の3基だけであるが、115号土坑については脂肪酸分析も同時におこなわれている。また、各試料のデータを検討するために、本遺跡の標準土層試料も採取し、分析試料（以下、文中では対比試料と称する）とした。

表2 分析試料一覧表

遺構名	層位	試料名	点数
100号土坑	1黒褐色土	上	3
	2黒褐色土	中	
	4褐色土	下	
115号土坑	1黒褐色土	上	3
	3褐色土	中	
	4黄褐色土	下	
158号土坑	1暗褐色土	上	2
	2黄褐色土	下	
標準土層 (調査区南西壁 セクション)	I黒色土(表土)	上	3
	II黒褐色土	中	
	III暗黄褐色土	下	

### 2-3 分析方法

粉碎、篩別した試料について、過塩素酸分解を行った後、リンについてはバナドモリブデン酸法<sup>(H1)</sup>により全リン酸（ $T-P_2O_5$ ）を、またカルシウムについては原子吸光光度法<sup>(H2)</sup>により全カルシウム（ $T-CaO$ ）をそれぞれ測定した。

分析の工程は以下のとおりである。

1. 試料は風乾、粉碎した後、φ0.5mmの篩を全通させて供試した。
2. 水分は、加熱減量法<sup>(H3)</sup>により測定した。
3. 試料の一定量を秤りとり、はじめに硝酸（ $HNO_3$ ）により、次に過塩素酸（ $HClO_4$ ）により加熱分解をおこなった。
4. 本分解液の一定量を採取し、発色液を加えて、比色法により全リン酸を測定した。
5. また、別に分解液の一定量を採取し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度法により全カルシウムを測定した。

- (注1) 農水省農林水産技術会議事務局監修：土壤養分分析法（養賢堂）  
 (注2) 日本土壤肥料学会監修：土壤標準分析・測定法（博友社）  
 (注3) 京都大学農学部農芸化学教室編：農芸化学実験書第1巻（産業図書）

## 2-4 結果および考察

結果は表3に示すとおりである。なお、表3に示した試料番号については、分析あるいは報告書作成の便宜上つけたものである。

ここで、各土坑の結果をみるまえに対比試料として採取した標準土層の含量について述べてみたい。

現地の調査では標準土層の層位はⅠ～Ⅴ層の5層に分層され、Ⅰ層は現在の表土、Ⅱ、Ⅲ層は古墳・奈良または縄文時代の遺物が含まれていた層、Ⅳ層はソフトローム、Ⅴ層はハードロームとされている。

そこで、今回分析に供された試料の採取位置をみると、まず標準一上の試料はⅠ層の表土から、標準一中・下の試料は古墳・奈良または縄文時代の遺物が含まれているⅡ、Ⅲ層からそれぞれ採取されている。

リンおよびカルシウムの含量は、標準一上の試料で3.20mgおよび1.27mg、標準一中で2.44mgおよび1.50mg、標準一下で1.74mgおよび1.43mgの値をそれぞれ示し、下層になるにしたがいリン含量の低くなる傾向がはっきりと認められる。カルシウムについては試料間における差異はほとんど認められない。

このような傾向は、自然堆積の土壌では一般的であり、土壌中でリンの移動しにくいことをよく表している。つまり、この標準土層のリンあるいはカルシウム含量については人為的にリン・カルシウム含量の高いものが富化された形跡は認めにくく、各土坑の結果をみる上で一つの指標になり得る値といえる。

以下、各土坑ごとに結果の概要を述べてみたい。

### ○ 100号土坑

現地調査によれば、本坑は今回分析をおこなった土坑の中で耳飾りなどの埋葬に関する装飾品が検出された唯一の土坑であるが、試料は4つに分層された土坑内覆土より、上（1層）、中（2層）、下（4層）と採取されている。

ここで、採取された土壌の土色をみると上・中については黒褐色土、下については褐色土であり、上・中と下でははっきりと土色の違いが認められる。

結果は上・中・下ともにリン2.15～2.70mg、カルシウム1.04～1.21mgのほぼ近似した範囲の値を示しているが、下層になるにしたがいやや高くなる傾向が認められる。ただ、対比試料などのそれと比べて特に高い含量ではない。

表3 リン・カルシウム分析結果

試料番号	T-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> mg/g	T-CaO mg/g
100-上	2.15	1.04
100-中	2.35	1.09
100-下	2.70	1.21
115-上	2.10	1.53
115-中	2.28	1.51
115-下	4.22	2.38
158-上	1.65	1.51
158-下	1.72	1.53
標準一上	3.20	1.27
標準一中	2.44	1.50
標準一下	1.74	1.43

※リン・カルシウムの値は  
乾土1gあたりのmgで示す。

#### ○ 115号土坑

試料は4層に分層された土坑内覆土の上(1層)、中(3層)、下(4層)より採取されているが、いずれも土色は相違し、とくに上と中、下の試料については土壌そのものが異なっていると考えられる。

上、中の試料ではリン2.10、2.28mg、カルシウム1.53、1.51mgであって、いずれも極めて近似した値を示しているが、下の試料ではリン4.22mg、カルシウム2.38mgを示し、あきらかに上・中試料より高い含有であることが認められる。また、対比試料と比べてもその値はあきらかに高いといえる。

#### ○ 158号土坑

試料は2つに分層された土坑内覆土の上(1層)、下(2層)より採取されているが、両試料の土色はあきらかに相違し、土壌そのものが異なっていると判断される。

しかし、両者ともにリン1.7mg前後、カルシウム1.5mgのきわめて近似の値を示し、含量の差異は認められず、また、対比試料のそれと比べると標準一下試料に近似する値であることが認められる。

以上の結果から、人骨などのリン・カルシウム含量の多いものを人為的に埋めた可能性のもっとも高い土坑は115号土坑であるが、試料間に土色の相違があるためにやや疑問が残る。また、100号土坑については下層になるにしたがいリン・カルシウム含量のやや高くなる傾向が認められ、なんらかの人為的な攪乱をうけた可能性が考えられる。ただ、これを人骨埋納の影響とするにはその絶対量の点で疑問が残る。

ここで、人骨埋納の可能性が考えられる115号土坑覆土の土色の相違について考えてみたい。今回分析に供した試料のなかでもっとも高い値が認められる下層の試料と他の2つの試料ではあきらかに土色に相違が認められ、下層に埋められた土壌そのもののリン・カルシウム含量が本来高かったのではないかとしてもこれを否定できるデータはない。ただ今回のばあい、この下層土と158号土坑の下層土の土色が同じ黄褐色であり、その含量がかなり低いことから、土壌そのものがリン・カルシウムを多く含んでいたと考えるよりも人為的に含量の多いものが埋められた影響であるとする方が妥当であるといえる。ただ、今回のような目的で土壌中の成分含量の相違などをみるばあいには、できるだけ細かく試料を採取し、分析に供する必要がある。

最後に、現地調査で確認された土坑を埋葬施設として使用したとする考えは、115号土坑の結果などからみても確かにその可能性は高いといえるが、約320基の土坑すべてが埋葬施設として利用されたか否かについては判断しにくい。

また、100号土坑のように装飾品などが伴出し、あきらかに墓とみられる土坑において、必ずしも骨などを埋納したとは考えにくい結果が得られたことについては、墓坑の使用状況や保存状態の検討が必要になろう。

<sup>11</sup> 宇都宮市教育委員会(1988) 聖山公園遺跡V-根古谷台遺跡発掘調査概要、宇都宮市埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集

# 宇都宮市根古谷台遺跡試料<sup>14</sup>C年代測定報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

(1988年12月)

## 1 試料

試料は、根古谷台遺跡のJ1・J20・J22号竪穴住居跡から検出された材(炭化材)3点で、先に報告した材同定の試料(№1・№3・№4)と同一資料である。竪穴住居跡は縄文時代前期(黒浜式期)の所産と考えられている。

## 2 測定

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室が行った。

## 3 結果

結果は、学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書参照。

### 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

1988年11月30日

バリノ・サーヴェイ 殿

1988年6月24日受領いたしました試料についての年代測定結果を下記の通り御報告致します。

なお年代測定値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σにもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が2σ以下のときは、3σに相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が2σ以下のときには、Modernと表示し、δ<sup>14</sup>C%を付記してあります。

#### 記

Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
Gak-13912	Wood charcoal from 根古谷台遺跡 №1 J1号竪穴住居跡柱穴内	5420 ± 140 3470 B.C.
Gak-13913	Wood charcoal from 根古谷台遺跡 №3 J20号竪穴住居跡中層	5120 ± 140 3170 B.C.
Gak-13914	Wood charcoal from 根古谷台遺跡 №4 J22号竪穴住居跡下層	5490 ± 130 3540 B.C.
		以上 木越邦彦



# 宇都宮市根古谷台遺跡出土 玉類の化学分析結果について

(株) 第四紀 地質研究所  
所長 井上 巖 (学術博士)

## 1 分析試料

分析試料は宇都宮市根古谷台遺跡より出土した狹状耳飾、管玉、丸玉24点(重要文化財)である。これらは非破壊で分析した。

## 2 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置(日本電子製J SX-3200)で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FP法)による自動定量計算システムが採用されており、eC~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料~最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)でSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, SiO<sub>2</sub>-MgO, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>, MgO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, MgO-CaO, CaO-K<sub>2</sub>O, の各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の7組の組み合わせで図を作成した。

## 3 分析結果

第1表化学分析表には分析結果に基づいて分類結果も記載してある。

第2表組成分類表には出土遺物(玉類)の組成による化学組成の分類が記載してある。

分析対象玉類については今迄に分析した実績がないので原産地との関連についての考察は行っていない。

中国の和田玉の1種であると仮定していくつかの文献<sup>(1)</sup>を調査し、それに基づいて検討を行った  
 和田玉はネフライトの1種ではなかろうかということは MgO, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO の濃度が高く、特徴的な元  
 素組成はネフライト(角閃石族)に属するものでその化学組成は Ca<sub>2</sub>(Mg, Fe)<sub>3</sub>Si<sub>6</sub>O<sub>22</sub>[OH]<sub>2</sub> であり、  
 分析した玉類の化学組成値の構成と類似している。

第2表の右側の数字は各図の分類から組成的に近いものを別したものである。

- 1) 第2表組成分類表に示すように分析した玉類は、第4図 MgO-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 図で①～④の4グループに分類された。
- 2) 狹状耳飾は①と②の2グループに分かれる。①グループの狹状耳飾は白色で白色の管玉や丸玉に近い組成を示すもので、②グループの暗緑灰色の狹状耳飾とは組成が異なり明瞭に分別される。
- 3) 管玉は③グループに集中し、その材質は同じものであろう。③グループには丸玉が共存し、管玉との材質的な共通性が認められる。
- 4) 丸玉は④グループに集中するものと③グループに集中するものと2種類ある。
- 5) NE-24の丸玉は5図 MgO-CaO 図, 第6図 CaO-K<sub>2</sub>O 図ではどのグループにも属さず、異質である。

第2表 組成分類表

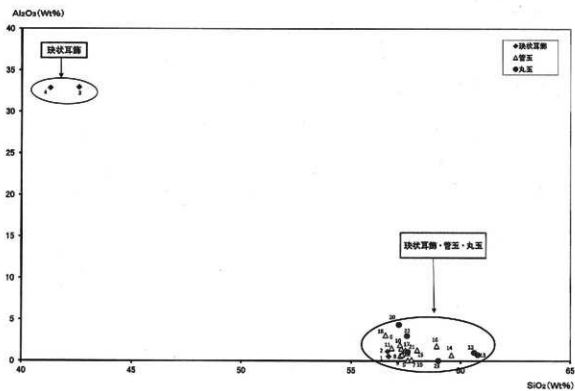
試料名	玉種類	遺物番号	グループ
NE-1	狹状耳飾	100号-2	①
NE-2	狹状耳飾	100号-1	①
NE-3	狹状耳飾	117号-2	②
NE-4	狹状耳飾	117号-1	②
NE-5	管玉	101号-1	③
NE-6	管玉	101号-2	③
NE-7	管玉	101号-3	③
NE-8	管玉	101号-4	③
NE-9	管玉	101号-5	③
NE-10	管玉	101号-6	③
NE-11	管玉	101号-7	③
NE-14	管玉	114号-1	③
NE-15	管玉	114号-2	③
NE-16	管玉	114号-3	③
NE-17	管玉	114号-4	③
NE-18	管玉	114号-5	③
NE-19	管玉	114号-6	③
NE-21	丸玉	114号-8	③
NE-23	丸玉	114号-10	③
NE-12	丸玉	101号-9	④
NE-13	丸玉	101号-8	④
NE-20	丸玉	114号-7	④
NE-22	丸玉	114号-9	④
NE-24	丸玉	114号-11	⑤

(参考文献)

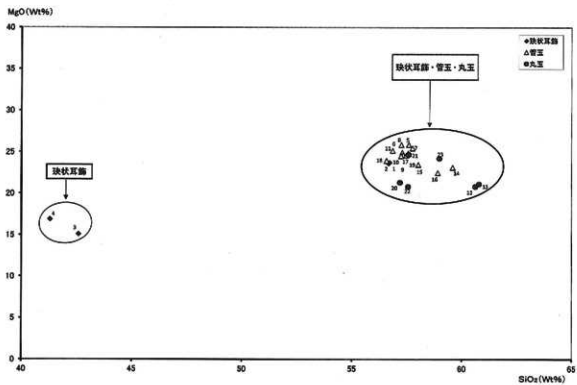
- (1) 飯塚 義之 (2012) 考古鉱物学: 低真空走査型電子顕微鏡 (LV - SEM) による玉器の分析とその成果  
 日本電子ニュース Vol. 44

第 1 表 化学分析表

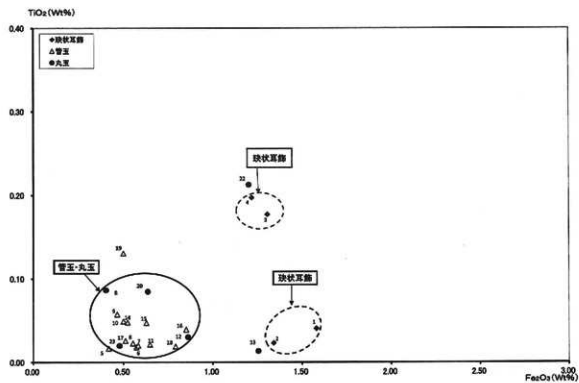
试样名称	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	FeO <sub>s</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	FeO <sub>t</sub>	R <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>	Total	RbI <sub>2</sub>	ScI <sub>2</sub>	备注
NE-1	0.0000	23.7049	0.5494	56.7068	0.8307	0.0128	16.3973	0.0402	0.1751	1.5804	0.0000	0.0018	0.0000	0.0006	100.0000	0	136	块状耳饰
NE-2	0.0000	23.6155	1.1306	56.6621	0.8607	0.0786	16.1933	0.0230	0.1435	1.3417	0.0011	0.0003	0.0022	0.0002	99.9998	88	24	块状耳饰
NE-3	0.0000	15.0863	32.9200	42.5917	0.6829	0.1788	0.1788	0.1769	0.1942	1.3066	0.0169	0.0089	0.0010	0.0094	100.0001	1862	952	块状耳饰
NE-4	0.2378	16.8808	32.8475	41.2908	0.6744	6.2111	0.2043	0.1971	0.2078	1.2187	0.0160	0.0093	0.0008	0.0036	100.0000	1786	1014	块状耳饰
NE-5	0.0000	25.8589	0.0687	57.5751	0.8114	0.1159	15.0741	0.0164	0.0591	0.4177	0.0013	0.0008	0.0000	0.0005	99.9999	115	72	管玉
NE-6	0.0000	24.0302	1.4805	57.2802	0.2597	0.0716	15.3031	0.0181	0.0726	0.5722	0.0026	0.0000	0.0000	0.0003	100.0001	228	0	管玉
NE-7	0.0000	25.4480	0.1219	57.7419	0.8077	0.0781	15.1238	0.0199	0.0745	0.5827	0.0000	0.0015	0.0000	0.0000	100.0000	0	123	管玉
NE-8	0.0000	25.8513	0.6235	57.2415	0.3037	0.1720	15.1677	0.0228	0.0639	0.5528	0.0009	0.0000	0.0000	0.0000	100.0001	79	0	管玉
NE-9	0.0000	24.6082	0.7502	57.3215	0.7933	0.0611	15.8861	0.0572	0.0558	0.4652	0.0000	0.0013	0.0000	0.0000	99.9999	0	100	管玉
NE-10	0.0000	24.5119	1.9163	57.2266	0.2823	0.2118	15.2185	0.0488	0.0799	0.4995	0.0000	0.0000	0.0020	0.0024	100.0000	0	0	管玉
NE-11	0.0000	25.1468	1.5180	56.8471	0.2471	0.2044	15.2920	0.0213	0.0686	0.6492	0.0044	0.0000	0.0012	0.0000	100.0001	358	0	管玉
NE-12	0.0000	20.8041	0.9809	60.6103	0.6420	0.2644	15.6928	0.0301	0.1087	0.8616	0.0000	0.0051	0.0000	0.0000	100.0000	0	163	丸玉
NE-13	0.0000	21.1016	0.7155	60.7803	0.6351	0.3111	15.0807	0.0134	0.0694	1.2551	0.0002	0.0076	0.0000	0.0000	100.0000	7	304	丸玉
NE-14	0.0000	23.1096	0.6824	59.5867	0.7421	0.1450	15.0960	0.0474	0.0629	0.5227	0.0000	0.0028	0.0026	0.0000	100.0000	100	187	管玉
NE-15	0.0000	23.4605	1.3008	58.0073	0.7112	0.2046	15.5690	0.0470	0.0730	0.6294	0.0015	0.0057	0.0000	0.0000	100.0000	30	0	管玉
NE-16	0.0000	22.4666	1.7803	58.8907	0.4058	0.1395	15.3452	0.0390	0.0798	0.8516	0.0005	0.0000	0.0010	0.0000	100.0000	0	221	管玉
NE-17	0.0000	24.5851	1.2737	57.4650	0.7779	0.0985	15.1875	0.0256	0.0727	0.5107	0.0000	0.0026	0.0000	0.0008	100.0001	0	0	管玉
NE-18	0.0000	23.9376	3.0856	56.5688	0.2483	0.0889	15.1611	0.0189	0.0973	0.7925	0.0000	0.0000	0.0000	0.0009	99.9999	0	0	管玉
NE-19	0.0000	24.8468	0.9234	57.5494	0.7255	0.0890	15.1618	0.1302	0.0700	0.4992	0.0000	0.0034	0.0023	0.0000	100.0000	0	287	管玉
NE-20	0.0000	21.2990	4.3310	57.1721	0.2522	0.1964	15.9680	0.0846	0.0590	0.6375	0.0000	0.0000	0.0001	0.0000	99.9999	2	0	丸玉
NE-21	0.0000	24.6662	1.0769	57.5711	0.7200	0.1983	15.2170	0.0863	0.0570	0.4025	0.0000	0.0033	0.0013	0.0000	99.9999	0	261	丸玉
NE-22	0.0000	20.7994	3.0041	57.5393	0.8047	0.2694	16.0675	0.1223	0.0908	1.2024	0.0006	0.0056	0.0039	0.0000	100.0001	22	219	丸玉
NE-23	0.0000	24.2071	0.0000	58.9613	0.7091	0.2105	15.3311	0.0198	0.0755	0.4778	0.0000	0.0034	0.0045	0.0000	100.0001	0	243	丸玉
NE-24	0.0000	26.9405	0.0000	68.1897	0.3453	0.1231	0.4198	0.0625	0.0657	3.9499	0.0000	0.0000	0.0023	0.0012	100.0000	0	0	丸玉



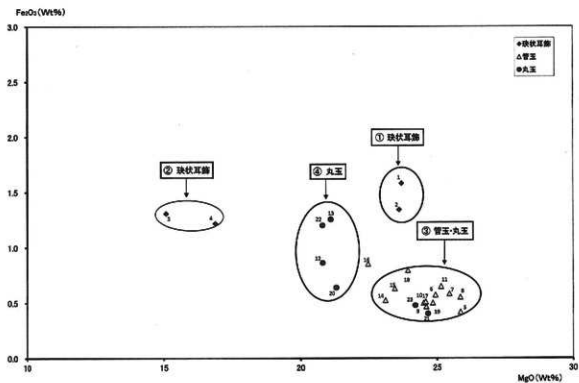
第1図  $SiO_2-Al_2O_3$ 図



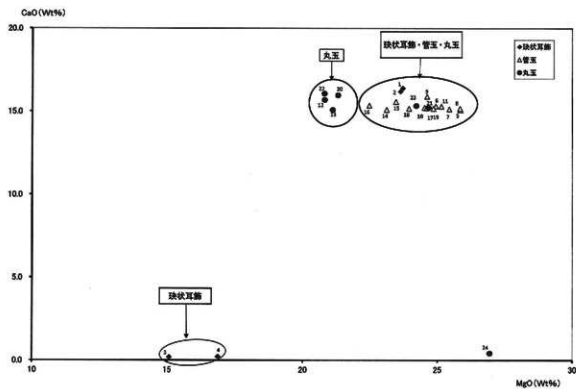
第2図  $SiO_2-MgO$ 図



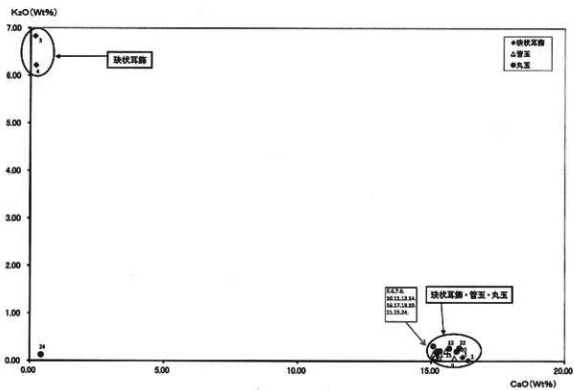
第3图  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ - $\text{TiO}_2$ 图



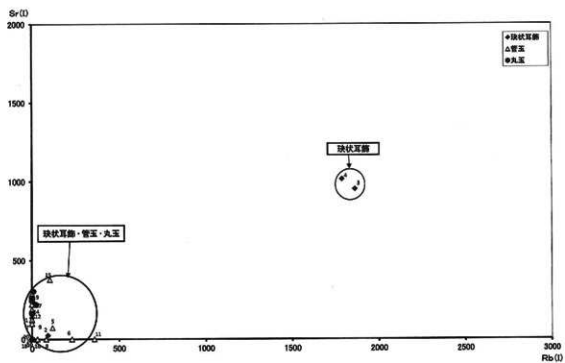
第4图  $\text{MgO}$ - $\text{Fe}_2\text{O}_3$ 图



第5図 MgO-CaO (綜合図)



第6図 CaO-K<sub>2</sub>O図



第7図 Rb-Sr図

# 写 真 图 版





①道跡全景（北上空から）



②道跡全景（南東上空から）

PL2



①遺跡全景（北西上空から）



②遺跡全景（西上空から）



①遺跡全景（上空から）



②遺跡全景（北から）

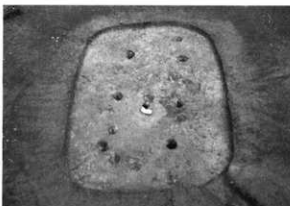
PL 4



①J1号竪穴住居跡 (南から)



②J1号竪穴住居跡・炉



③J2号竪穴住居跡 (南から)



④J2号竪穴住居跡・炉



⑤J4号竪穴住居跡 (西から)



⑥J4号竪穴住居跡・炉



⑦J7号竪穴住居跡 (東から)



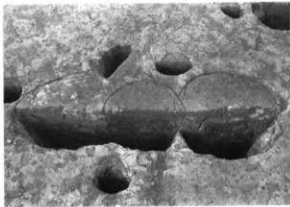
⑧J7号竪穴住居跡・炉



①J5号竪穴住居跡と遺跡全景（北から）



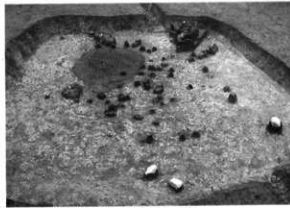
②J5号竪穴住居跡（南西から）



③J5号竪穴住居跡・柱穴断面



④J6号竪穴住居跡（南西から）

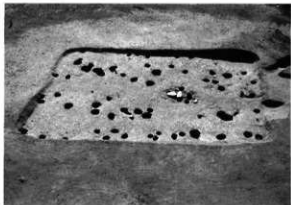


⑤J6号竪穴住居跡・遺物出土状況

PL 6



①J18号竪穴住居跡（南西から）



②J10号竪穴住居跡（北から）



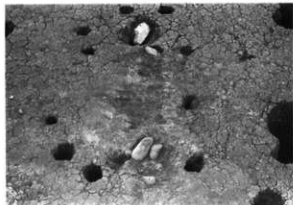
③J11号竪穴住居跡（西から）



④J18号竪穴住居跡（東から）



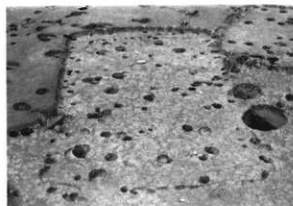
⑤J12号竪穴住居跡（東から）



①J12号竪穴住居跡・炉



②J13号竪穴住居跡（東から）



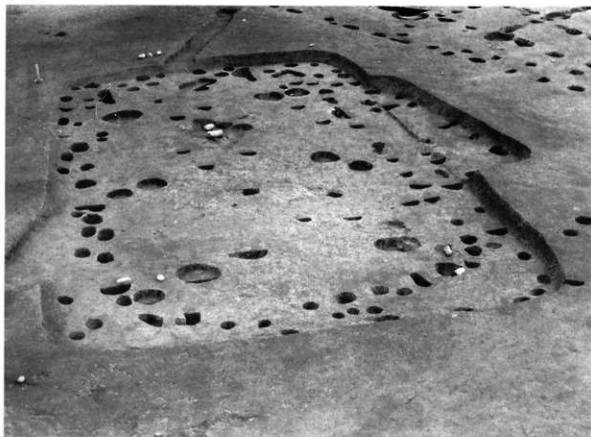
③J16号竪穴住居跡（東から）



④J16号竪穴住居跡・炉



⑤J17号竪穴住居跡（西から。右手前は1号方形建物跡、奥はJ16号竪穴住居跡）



①J20・21号竪穴住居跡（南東から）



②J20号竪穴住居跡（南東から）



③J20号竪穴住居跡・炉



④J21号竪穴住居跡・土器出土状況



⑤J22号竪穴住居跡（北西から）



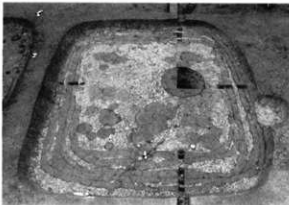


①J22～26号竪穴住居跡（北から）



②J23号竪穴住居跡（南から）

PL10



①J23号竪穴住居跡・床確認状況（南から）



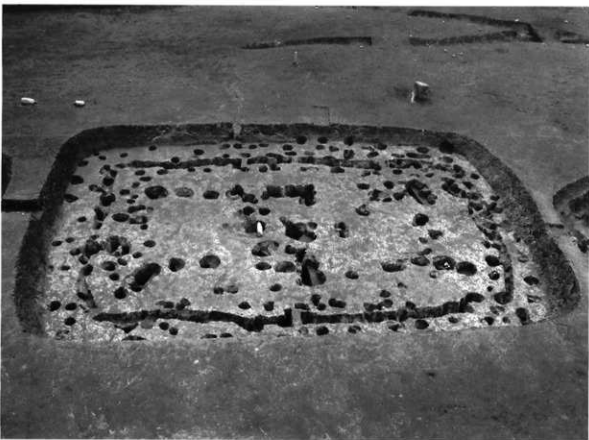
②J23号竪穴住居跡・壁溝（南西隅付近）



③J23号竪穴住居跡・土器出土状況



④J23号竪穴住居跡・石器出土状況



⑤J24号竪穴住居跡（北東から）



①J24号竪穴住居跡・調査風景



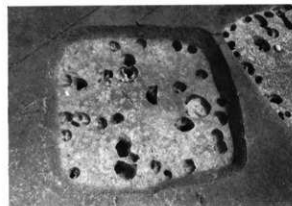
②J24号竪穴住居跡・炉



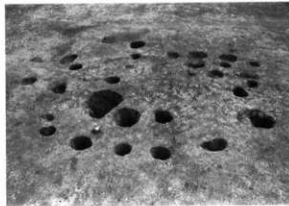
③J25号竪穴住居跡（北東から）



④J25号竪穴住居跡・炉



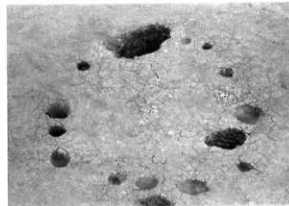
⑤J26号竪穴住居跡（北から）



⑥J28号竪穴住居跡（北から）



⑦J29号竪穴住居跡（南東から）



⑧J30号竪穴住居跡（南から）



①1・2・16号長方形大型建物跡（南東から）



②1号長方形大型建物跡他調査風景（北西から）



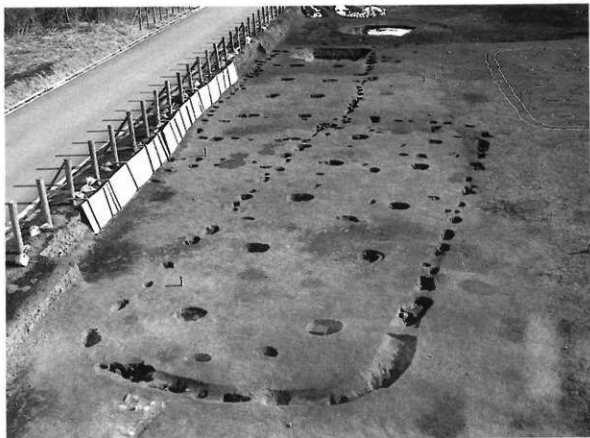
③1号長方形大型建物跡柱配置（南東から）



④1号長方形大型建物跡・柱穴断面



⑤2号長方形大型建物跡・柱穴断面



①3・4号長方形大型建物跡（北西から）



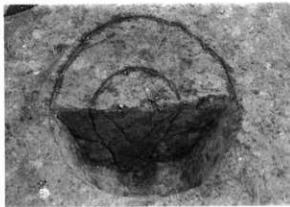
②3・4号長方形大型建物跡確認（南東から）



③3号長方形大型建物跡・柱穴断面



④5号長方形大型建物跡（北西から）



⑤5号長方形大型建物跡・柱穴断面

PL14



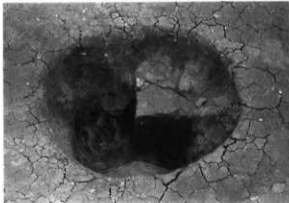
①5～7号長方形大型建物跡（北西から）



②10・11号長方形大型建物跡（北西から）



① 9号長方形大型建物跡（北西から）



② 13号長方形大型建物跡・柱穴



③ 13・14号長方形大型建物跡（東から）

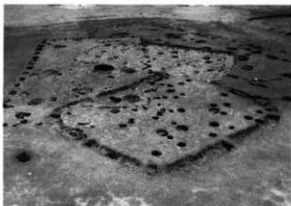


④ 13・14号長方形大型建物跡確認（東から）



⑤ 1号方形建物跡（北西から）

PL16



①1号方形建物跡とその周辺（北から）



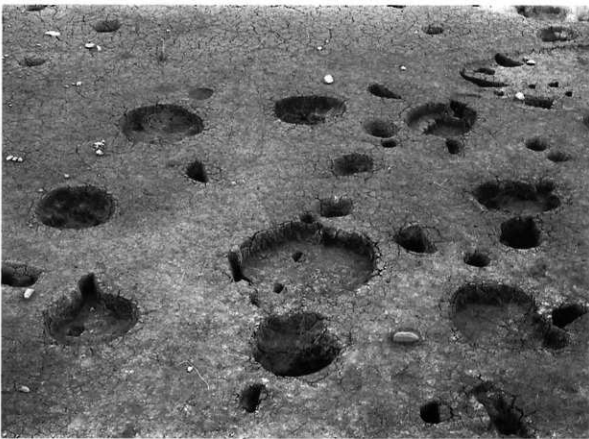
②3号方形建物跡（南から）



③4号方形建物跡（東から）

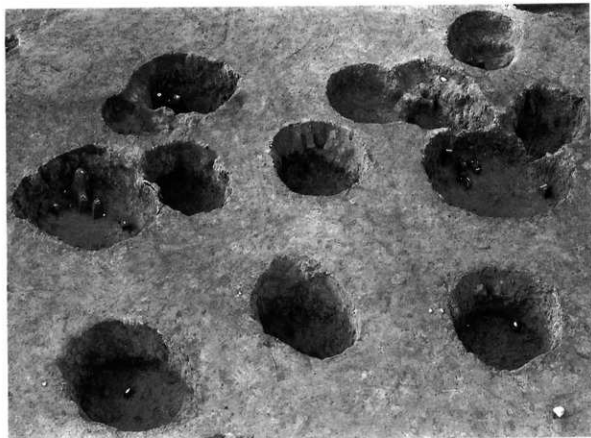


④6号方形建物跡（南西から）

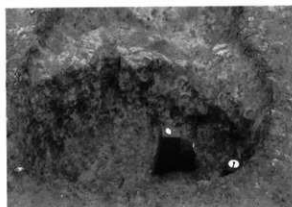


⑤J4～7号掘立柱建物跡（西から）

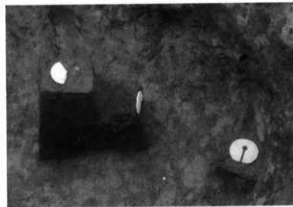




①広場北西隅の墓坑群（南東から）



②100号墓坑（北から）



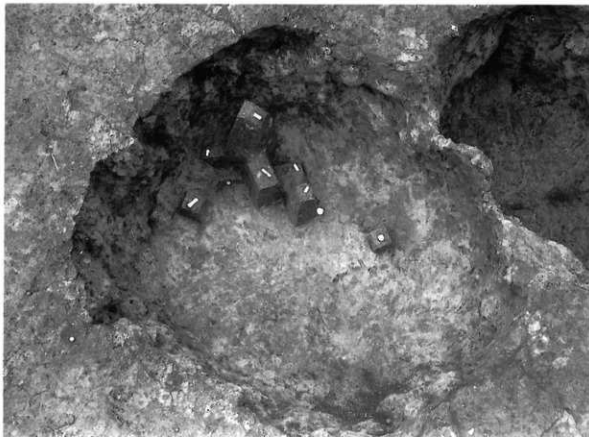
③100号墓坑・珧状耳飾出土状況



④117号墓坑（東から）



⑤117号墓坑・珧状耳飾出土状況



①101号墓坑・玉類出土状況（南から）



②114号墓坑・玉類出土状況（南から）



①101号墓坑・玉類出土状況



②114号墓坑・玉類出土状況



③104号墓坑（南西から）



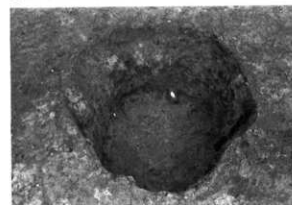
④104号墓坑・石匙出土状況



⑤106号墓坑（南西から）



⑥106号墓坑・石匙出土状況



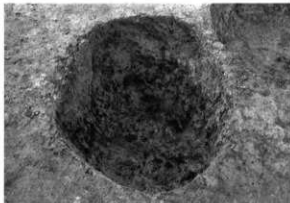
⑦110号墓坑（南から）



⑧110号墓坑・石匙出土状況



①103号墓坑 (南から)



②108号墓坑 (南西から)



③115号墓坑 (南西から)



④116号墓坑 (南から)



⑤広場北西部の土坑群 (西から)

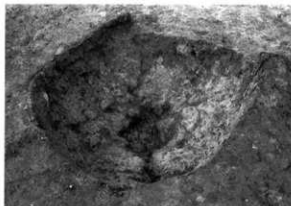


①広場内の土坑群・150～160号土坑（南東から）



②広場内の土坑群・170～180号土坑（東から）

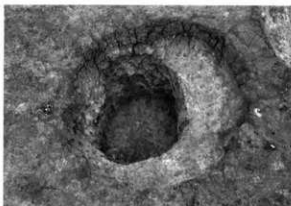
PL 22



①118号土坑 (南から)



②123号土坑 (南東から)



③160号土坑 (南から)



④201号土坑 (南東から)



⑤160号土坑 (南から)



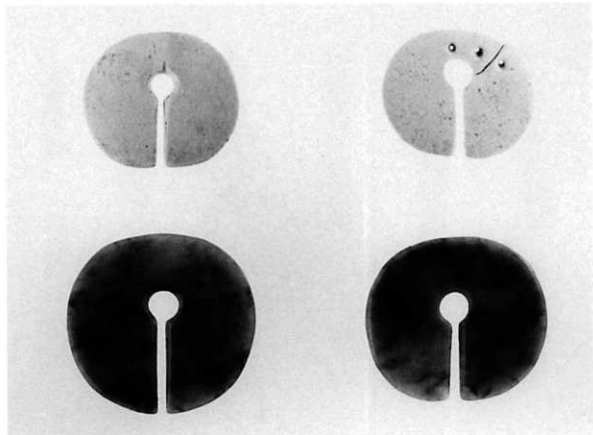
⑥77号土坑 (南東から)



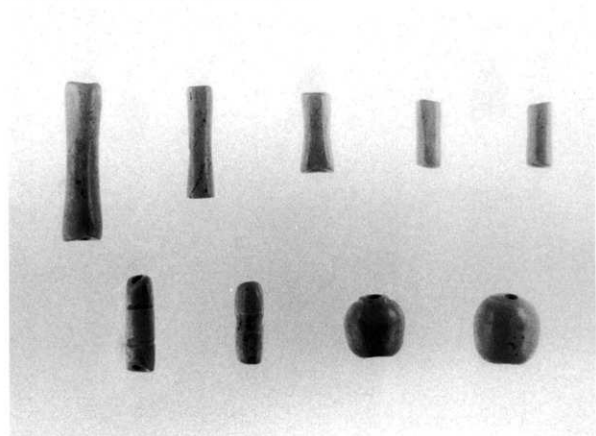
⑦78号土坑 (南西から)



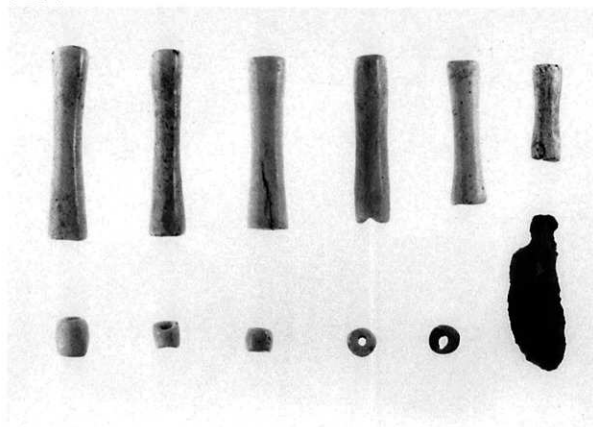
⑧87号土坑 (南から)



①墓坑出土玦状耳饰（上：100号墓坑、下：117号墓坑）



②101号墓坑出土玉珮



①114号墓坑出土玉類・石匙



100号-1



100号-2



100号-3



106号



104号



100号-4

②広場北西隅の墓坑群出土石器

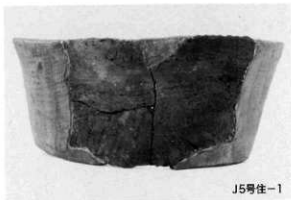




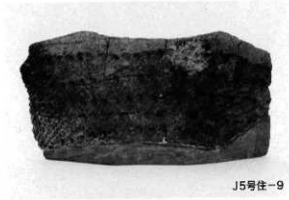
J2号住-16



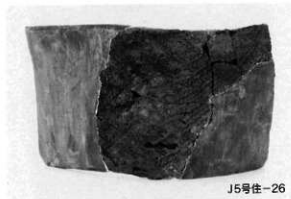
J4号住-4



J5号住-1



J5号住-9



J5号住-26



J5号住-32



J6号住-10



J5号住-13



J6号住-38



J6号住-14



J10号住-1



J10号住-23



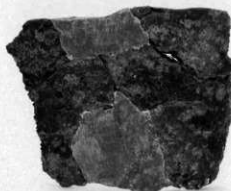
J10号住-29



J10号住-24



J10号住-44



J10号住-25



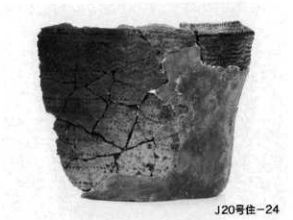
J20号住-1



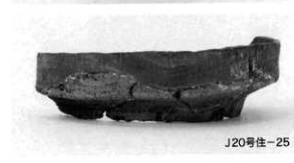
J20号住-16



J20号住-18



J20号住-24



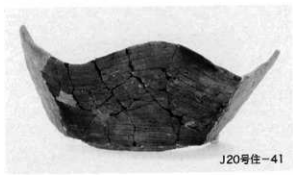
J20号住-25



J20号住-27



J20号住-45



J20号住-41



J20号住-59



J20号住-63



J20号住-100



J20号住-87



J20号住-62



J20号住-38



J20号住-90



J21号住-1



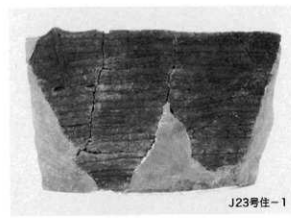
J22号住-14



J22号住-25



J22号住-43



J23号住-1



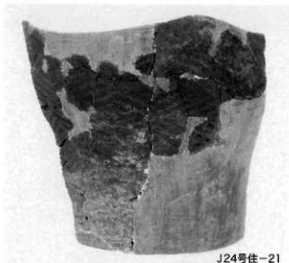
J23号住-21



J24号住-25



J24号住-32



J24号住-21



J24号住-22



J24号住-23



J24号住-26



J24号住-27



J25号住-20



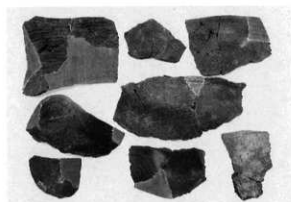
J25号住-1



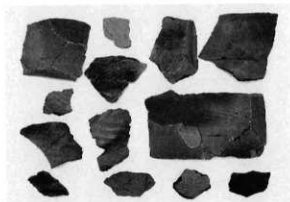
①J13号掘立柱建物跡出土土器



②89号土坑出土土器



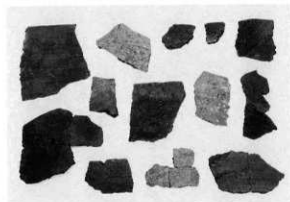
③J5号竪穴住居跡出土土器 (1)



④J5号竪穴住居跡出土土器 (2)



⑤J6号竪穴住居跡出土土器



⑥J11号竪穴住居跡出土土器

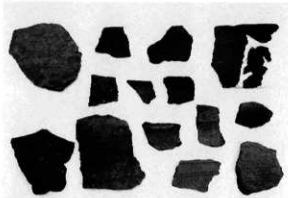


⑦J10号竪穴住居跡出土土器 (1)



⑧J10号竪穴住居跡出土土器 (2)

PL 32



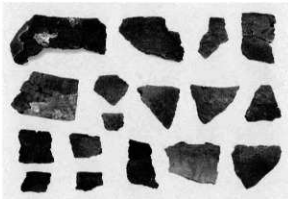
①J112号竖穴住居跡出土土器



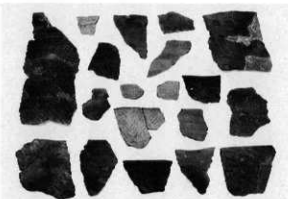
②J116号竖穴住居跡出土土器



③J120号竖穴住居跡出土土器



④J122号竖穴住居跡出土土器



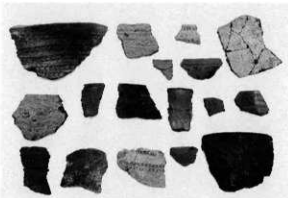
⑤J123号竖穴住居跡出土土器



⑥J124号竖穴住居跡出土土器



⑦建物跡出土土器



⑧土坑出土土器





J1号住-1



J1号住-2



J2号住-1



J2号住-2



J4号住-1



J5号住-1



J5号住-2



J5号住-3



J5号住-4



J5号住-5



J7号住-1



J8号住-1



J8号住-2



J10号住-1



J11号住-1



J12号住-1



J17号住-1



J17号住-2



J20号住-1



J20号住-2



J20号住-3



J20号住-4



J20号住-5



J20号住-6



J20号住-7



J23号住-3



J20号住-8



J23号住-1



J23号住-2



J24号住-1



J24号住-2



J24号住-3



J28号住-1



J29号住-1



J25号住-1



65号土

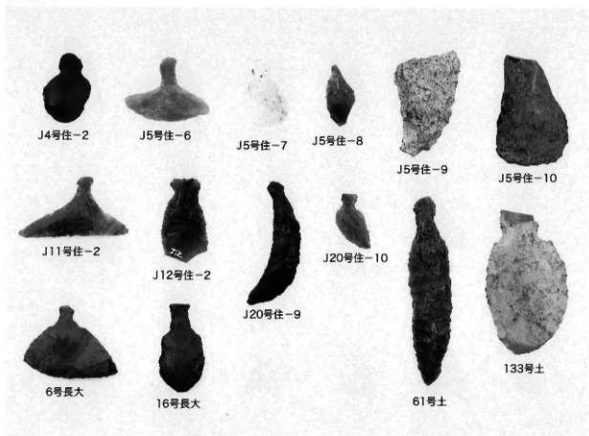


88号土

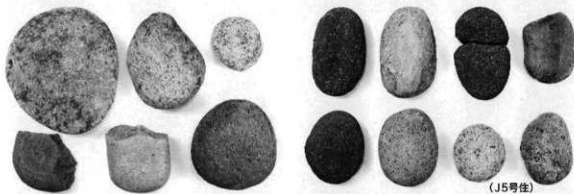


236号土

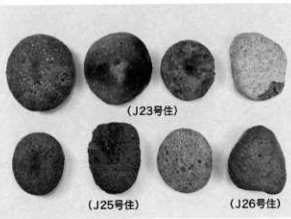
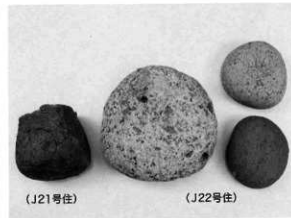
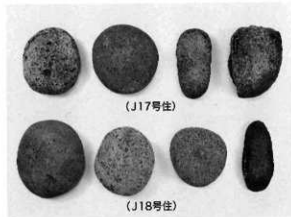
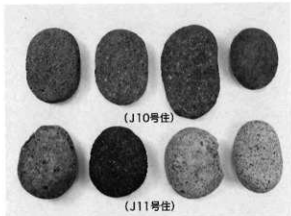
竪穴住居跡及び土坑出土石器（石鏃）



① 竪穴住居跡・建物跡及び土坑出土石器（石匙等）



② 竪穴住居跡出土石器（磨石・凹石類）



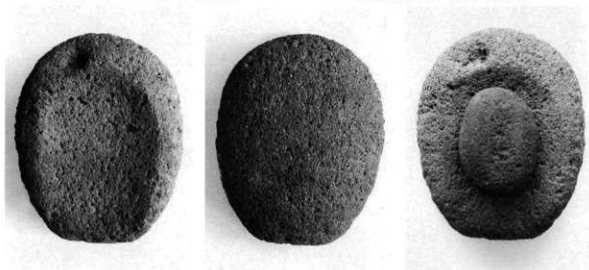
竪穴住居跡出土石器（磨石・凹石類）



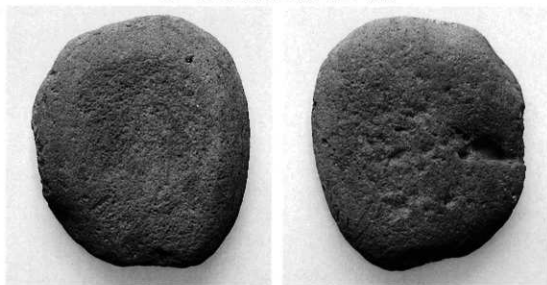
①建物跡出土石器（磨石・凹石類）



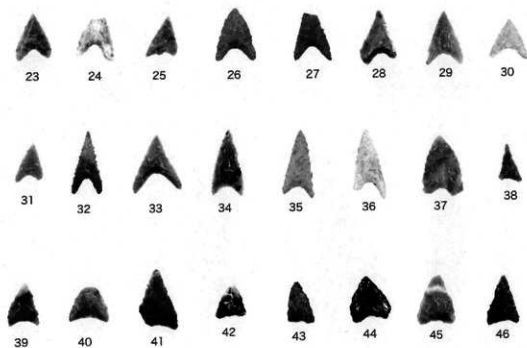
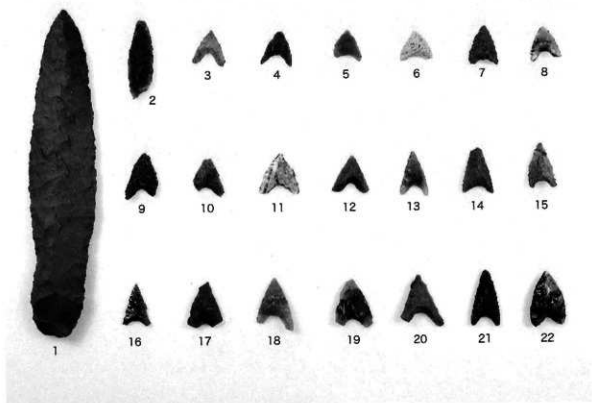
②土坑出土石器（磨石・凹石類）



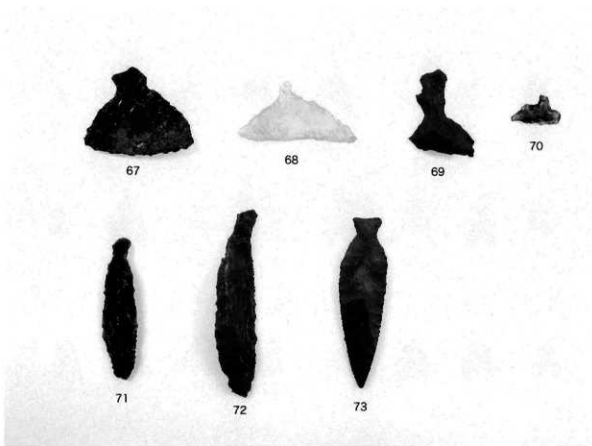
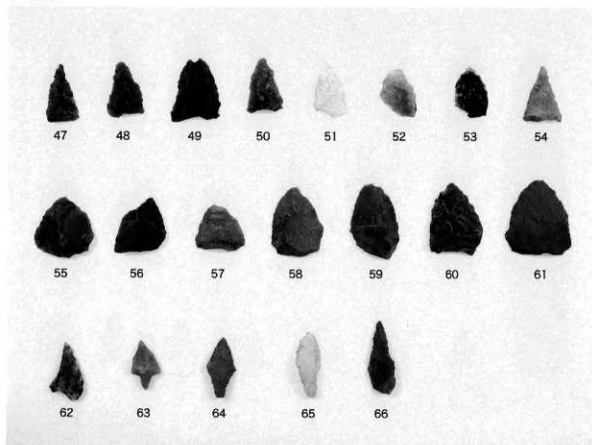
③J23号竪穴住居跡出土石器（石皿・磨石）



④J4号掘立柱建物跡出土石器（石皿）



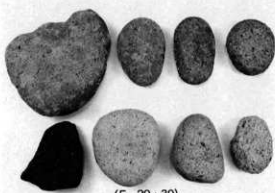
遺構外出土石器 (石槍・石鏃)



遺構外出土石器 (石鏃・石匙)



(E-28)



(E-29 · 30)



(E-32 · 33)



(F-28 · 29)



(F-29 · 30)



(F-31 · 32)



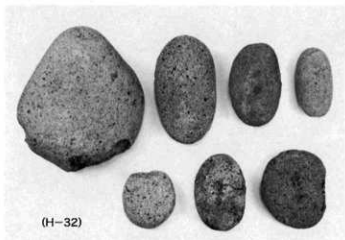
(G-28 · 31)



(F-32)

遺構外出土石器 (磨石・凹石類)

PL40



(H-32)

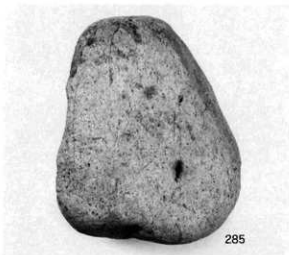
①遺構外出土石器（磨石・凹石類）



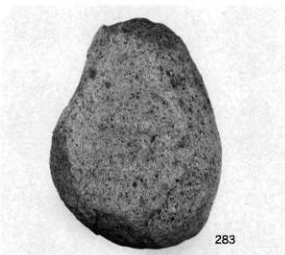
103

104

②遺構外出土石器（打製石斧）



285



283

③遺構外出土石器（台石等）



## 報告書抄録

ふりがな	ねごやだいいせき
書名	根古谷台遺跡
副書名	縄文時代編
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第100集
編著者名	梁木 誠 清地良太
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Tn028-632-2764
発行年月日	西暦 2018年(平成30年)3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ねごやだ 根古谷台 遺跡	うつのみやし 宇都宮市 かみのかみ 上欠町	09201	3105	36度 32分 15秒	139度 49分 56秒	19860405 ～ 19871220	8,500㎡	墓地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
根古谷台遺跡	集落跡	縄文時代 前期	竪穴住居跡 27軒 長方形大型建物跡 16棟 方形建物跡 11棟 掘立柱建物跡 19棟 墓坑・土坑 340基 等	縄文土器(前期 黒浜式期) 石器(石鏃、石匙、 磨石、石皿等) 玉類(瑛状耳飾 管玉、丸玉等)	集落跡は国史跡に、また玉類は重要文化財に指定されている。

---

---

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第100集

根古谷台遺跡  
(縄文時代編)

発行 宇都宮市教育委員会  
編集 宇都宮市教育委員会  
宇都宮市旭1丁目1番5号  
TEL 028-632-2764  
発行日 平成30年3月30日発行  
印刷 有限会社 印刷親友社  
宇都宮市瑞穂3-9-11  
TEL 028-656-3655

---

---